要求仕様記述ツール

SLP_vReq Version 2

取扱説明書

操作編

株式会社ジェーエフピー

2015/7/1　version

目次

０．動作環境

●動作環境

OS	日本語 Microsoft Windows 7 / 8
CPU	クロック 1GHz 以上
搭載メモリ	1GB 以上　（推奨 2GB 以上）
ハードディスク	150MB 以上の空き容量
ディスプレイ	解像度：1024×768 以上 High Color (65536 色）以上推奨

１．ソフトウェアの起動

　インストールで作成されたデスクトップ上のショートカット、もしくは、[スタート]－[プログラム（P）]－[SLP_vReq]を起動します。
　起動すると、スプラッシュイメージを表示してから、SLP ソフトウェアが開始します。

２．SLP とは

　SLP は、ソフトウェアの要求仕様を記述するためのソフトウェア・ツールです。ソフトウェア開発で、仕様自体に矛盾や未定義事項があれば、システムの正しい動作を保証できない問題に着眼しました。
　特徴は、以下となります。
- ・簡単な文法で誰もが容易に、かつ矛盾がなく論理的に正しく厳密に機能を記述できます。
- ・正確を期すために、文書全体に渡る記述された用語のチェック、構文・冗長・矛盾の検査を行うことができます。
- ・ソフトウェア開発プロセスに求めらる差分開発・トレーサビリティ・機能属性･決定表作成・テスト仕様作成等に対応しています。なお、SLP では　「主語（目的語）と述語から成る構文化決定表」を用いており、単に「構文化決定表」と称することもあります。

SLP では、要求仕様の機能を記述した文書を、SLP 文書と呼びます。
SLP 文書は、下記で構成されます。

■文書表題		文書の名称（ファイル名のデフォルトになります）
■単位機能	●項番	単位機能の項番
	●単位機能名	単位機能の機能名称
	●機能内容	単位機能の機能説明（補足） オブジェクトのリンクと埋込み(OLE)に対応しています。
	●機能属性	単位機能の属性
	●原要求項目識別子	単位機能に対応する要求仕様項目
	●論理記述	単位機能の機能詳細（SLP 構文により記述します。）
■登録メンバー名・状態名		登録メンバー名と登録状態名
■環境設定		SLP 文書の環境設定

論理記述（単位機能の機能詳細）は、次の SLP 構文で構成されています。
SLP で用いる構文とその構文規則を定めることにより、SLP の文法とします。用いる構文は SLP 構文と呼びます。構文規則は、SLP 構文規則と呼びます。

●if 構文
●Do 構文
●Fn 構文
●switch 構文
●loop 構文
●for 構文
●while 構文

●コメント文
●改行文

単位機能はその記述過程で次の状態を経ます。

●未定　　目次欄にのみ作成された状態
（Fn 構文での使用数が 0 であること）
●暫定　　目次欄と論理記述欄の両方に記述されているが、同期していない状態
（Fn 構文が自動で論理記述欄に記述されたもの）
●確定　　目次欄と論理記述欄の両方に記述され、同期している状態
（Fn 構文での使用数が 1 以上であること）

最上位の単位機能は、起点単位機能と呼びます。

３．SLP アプリケーションのウィンドウ構成

SLP はアプリケーションとして下記のウィンドウ（View）から構成されます。



■インデント目次　　単位機能が、項番順に表示され、単位機能の目次として利用できます。単位機能の編集ができます。

■階層目次　　単位機能が階層順に表示され、単位機能の目次として利用できます。単位機能の編集ができます。

■水平目次　　単位機能がツリー構造に表示され、単位機能の目次として利用できます。単位機能の編集ができます。

■単位機能一覧　　単位機能 1 個につき 1 行のリストを表示します、単位機能削除、新規作成ができます。

■単位機能

●項番欄　　単位機能の項番を記述します。

●単位機能名欄　　単位機能の機能名称を記述します。

●機能内容欄　　単位機能の機能説明（補足）をします。
文字数制限があり、1024 文字までしか記述できません。長い文を記述する場合は、メモウィンドウに記述してください。
オブジェクトのリンクと埋込み(OLE)に対応しています。

●機能属性欄　　単位機能の属性を記述します。

●原要求項目識別子欄　単位機能に対応する要求仕様項目を記述します。

●論理記述欄　　単位機能の機能詳細を、SLP 構文により記述します。

●前件欄　　論理記述欄の if 構文、switch 構文の‹メンバー名›{状態名}を自動表示します。

●後件欄　　論理記述欄の Do 構文の‹メンバー名›{状態名}を自動表示します。

■検査・検索等結果　　　検査・検索等の結果を表示します。
■ノート　　　　　　　　ノート等の用途に利用できます。

単位機能は、論理記述欄では Fn 構文に対応しています。
階層目次欄では、単位機能ボックスに対応しています。
インデント目次欄では、各行に対応しています。

4．メニュー機能一覧

メニュー階層	メニュー階層2	メニュー階層3	メニュー階層4	概要	ショートカットキー	→ダイアログ名
ファイル	新規作成	－	－	SLP文書を新規に作成します。	Ctrl + N	－
	開く	－	－	既存のSLP文書を開きます。	Ctrl + O	－
	閉じる	－	－	SLP文書の現在の状態を、保存せずに閉じます。	Alt + F + C	－
	上書き保存	－	－	SLP文書の現在の状態を、同じファイル名で上書き保存します。	Alt + S	－
	名前を付けて保存	－	－	SLP文書の現在の状態を、別のファイル名で保存します。	Alt + F + A	－
	版の管理	版管理法設定	－	版の管理方法を設定します。	Alt + F + S	版管理法設定
		版管理簿の更新	－	文書保存時に保存される版数を更新します。	Alt + F + U	版管理簿の更新
		差分表示		比較対象1と比較対象2の差分を「検査・検索等結果」ウィンドウに表示します。	Alt + F + D	差分表示
	ファイル連携	単位機能結合	－	指定したSLP文書を編集中のSLP文書に結合します。	Alt + F + U	単位機能結合
		ファイルツリーの読み込み		ファイルシステムのフォルダ／ファイル構造を、単位機能の階層構造としてインポートします。		－
	他ファイルへの出力	インデント目次のエクスポート	－	インデント目次をテキストファイルにエクスポートします。	Alt + F + I +O	インデント目次のエクスポート
		機能内容欄のエクスポート	－	単位機能の機能内容欄をRTF (Rich Text Format) ファイルにエクスポートします。	Alt + F + I +E	機能内容欄のエクスポート
		SLP文書をRTFファイルにエクスポート		インデント目次欄・単位機能ヘッダー部・機能内容欄・論理記述欄を(Rich Text Format) ファイルにエクスポートします。		SLP文書をRTFファイルにエクスポート
	プリンターの設定	－	－	印刷時のプリンターに関して設定します。 プリンター名、印刷用紙、印刷方向を設定できます。	Alt + F + E	プリンターの設定
	印刷設定	－	－	印刷時のページに関して設定します。 目次印刷、階層目次印刷、単位機能印刷、文書表題印刷、検査・検索等結果印刷、ノート印刷、余白、他を設定できます。	Alt + F + R	印刷設定
	印刷プレビュー	－	－	印刷プレビューを表示します。	Alt + F + W	印刷プレビュー
	印刷	－	－	印刷します。	Alt + F + P	印刷
	アプリケーションの終了	－	－	SLPを終了します。 SLP文書が未保存状態の場合は、保存の確認を行います。	Alt + X	－
編集	元に戻す	－	－	直前に行った編集操作をキャンセルし元に戻します。 単位機能内の編集動作に対する操作が対象となります。ただし項番の変更は元に戻せません。	Ctrl + Z	－

	切り取り	－	－	現在選択しているデータを削除して、クリップボードに保存します。 データをクリップボードに切り取ると、それまでクリップボードに保存されていたデータは、新たに切り取った内容に置換されます。 データが選択されていないときは、この操作は使用できません。	Ctrl + X	－
	コピー	－	－	現在選択しているデータをクリップボードに保存します。 データをクリップボードにコピーすると、それまでクリップボードに保存されていたデータは、新たにコピーした内容に置換されます。 データが選択されていないときは、この操作は使用できません。	Ctrl + C	－
	貼り付け	－	－	クリップボードのデータをカーソル位置に挿入します。 クリップボードに何も保存されていないときは、このコマンドは使用できません。	Ctrl + V	－
	テキスト形式で貼り付け	－	－	クリップボードのデータをカーソル位置にテキスト形式で挿入します。	Ctrl + shift + V	－
	形式を選択して貼り付け	－	－	クリップボードのデータをカーソル位置に選択した形式で挿入します。	Alt + E + S	形式を選択して貼り付け
	削除	－	－	現在選択しているデータを削除します。 データが選択されていないときは、この操作は使用できません。	Ctrl + D	－
	すべて選択	－	－	編集箇所のすべてを選択します。	Ctrl + A	－
	検索	－	－	現在の単位機能論理記述欄の記述内で、指定したテキストを検索します。検索し最初に発見した項目にカーソルを移動します。	Ctrl + F	検索
	置換	－	－	現在の単位機能論理記述欄の記述内で、指定したテキストを検索し置換します。	Ctrl + R	置換
	ジャンプ	－	－	現在記述中の単位機能の、論理記述欄内の指定行にジャンプします。	Ctrl + J	ジャンプ
	通常文に変換	－	－	論理記述欄 の記述を通常文に変換して 機能内容欄 に挿入します。	Altl + E + N	通常文に変換
	オブジェクトの挿入	－	－	単位機能の機能内容欄にオブジェクトを作成、貼り付け（挿入）します。	Altl + E + O	オブジェクトの挿入
	リンクの変更	－	－	オブジェクトに対応するファイルのリンクを設定します。	Altl + E + K	リンクの変更
	オブジェクトの属性変更	－	－	オブジェクトのプロパティを設定及び表示します。	Altl + E + I	オブジェクトの属性変更
表示	ツールバーとドッキングウィンドウ	標準	－	標準ツールバーの表示/非表示を切り替えます。	Alt + V + T	－
		移動	－	移動ツールバーの表示/非表示を切り替えます。	Alt + V + T	－
		インデント目次	－	インデント目次ドッキングウィンドウの表示/非表示を切り替えます。	Alt + V + T	－
		階層目次	－	階層目次ドッキングウィンドウの表示/非表示を切り替えます。	Alt + V + T	－
		水平目次	－	階層目次ウィンドウの表示、非表示を切り替えます。	Alt + V + T	－
		単位機能一覧	－	単位機能一覧ウィンドウの表示、非表示を切り替えます	Alt + V + T	－
		検査・検索等結果	－	検査・検索等結果ドッキングウィンドウの表示/非表示を切り替えます。	Alt + V + T	－
		ノート	－	ノートドッキングウィンドウの表示/非表示を切り替えます。	Alt + V + T	－
	ズーム	－	－	ズームダイアログを表示します。機能内容欄や論理記述欄の拡大／縮小表示をします。	Ctrl + shift + Z	ズーム
	アプリケーションの外観	－	－	アプリケーションの外観スタイルを変更します。	Alt + V + A	－
	移動	前に戻る	－	前の単位機能に移動します。	Alt + V + M	－

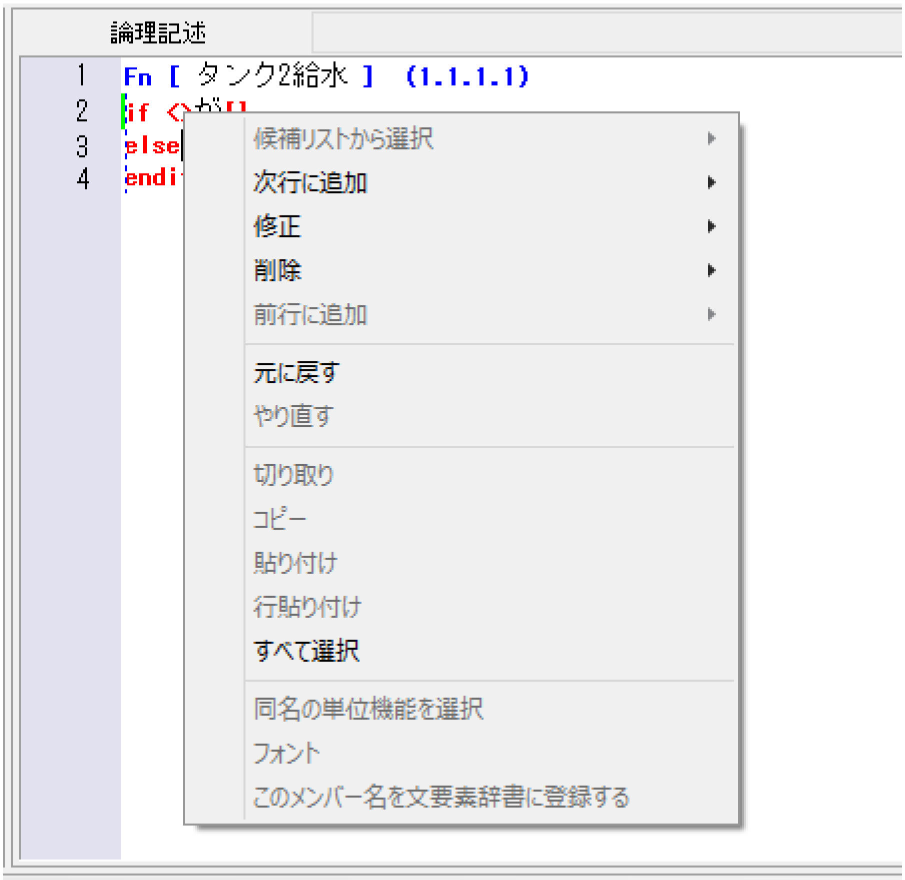
	移動	次に進む	－	次の単位機能に移動します。	Alt + V + M	－
	移動	指定項番に移動	－	指定した項番の単位機能に移動します。	Alt + V + M	－
意味設定	メンバー属性無矛盾化設定	－	－	同一メンバー名での無矛盾化の登録をします。	Alt + T+ I	メンバー属性無矛盾化設定
	文どうしの関係定義	－	－	文どうしの関係を定義します。検査時に明示的にメッセージ表示させることができます。	Alt + T+ S	文どうしの関係定義
	文要素候補リストの作成	－	－	文要素を文要素辞書に登録します。 文要素は、単位機能論理記述欄の if 構文、Do 構文、switch 構文で使用します。	Alt + T + M	文要素候補リストの作成
	量化記号の設定	－	－	論理記述欄で記述するメンバー名に付加できる量化記号を定義します。	Alt + T + O	量化記号の設定
検査	現在の単位機能の検査	構文検査	－	SLP記述の構文規則を検査します。（全単位機能内）	Alt + C + S	－
		冗長検査	－	SLP記述の冗長性を検査します。（全単位機能内）	Alt + C + R	－
		矛盾検査	－	SLP記述の矛盾を検査します。（全単位機能内）	Alt + C + C	－
		全項目検査	－	SLP記述の構文規則、冗長性、矛盾を検査します。（全単位機能内）	Alt + C + T	－
	すべての単位機能の検査	構文検査	－	SLP記述の構文規則を検査します。（全単位機能内）	Alt + A + S	－
		冗長検査	－	SLP記述の冗長性を検査します。（全単位機能内）	Alt + A + R	－
		矛盾検査	－	SLP記述の矛盾を検査します。（全単位機能内）	Alt + A + C	－
		全項目検査	－	SLP記述の構文規則、冗長性、矛盾を検査します。（全単位機能内）	Alt + A + T	－
	条件の論理性と用語の確認	－	－	条件の論理性を確認するため構文化決定表を作成します。	Alt + C + D	条件の論理性と用語の確認
	条件順序性確認	－	－	条件と結論の対応関係を調査します。	Alt + H	条件順序性確認
	意図･理由有無検査	－	－	単位機能の意図･理由の入力が行われているか、行われていないかを検査します。	Alt + I + R	－
	曖昧語検索	－	－	曖昧後辞書で登録されている曖昧語が含まれているメンバー名･状態名を検索します。（全単位機能内） 検索結果の一覧は検査･検索等結果ウィンドウに表示されます。	Alt + I + V	曖昧語検索
	類似語検索	－	－	類似しているメンバー名･状態名を検索します。（全単位機能内） 検索結果の一覧は検査･検索等結果ウィンドウに表示されます。 類似の基準は、*検索基準設定*で設定してください。	Alt + I + S	類似語検索
検討過程プロット	検討過程名設定	－	－	論理記述欄の各行に思考の過程をメモする機能です。	Alt + W + T	検討過程名設定
	検討過程名検索	－	－	検討過程名設定で定義された記号が論理記述欄に使用されていた場合、それを探し出す機能です。	Alt + W + H	検討過程名検索
主要欄フォント設定	機能内容欄フォント	－	－	機能内容欄のフォントを定義します。	Alt + O + E	機能内容欄フォント
	論理記述欄フォント	－	－	論理記述欄のフォントを定義します。	Alt + O + L	論理記述欄フォント
環境設定	－	－	－	各項目について動作環境の設定を行います。	Alt + S + S	環境設定
工程間連携	テスト仕様原案作成	－	－	テスト仕様を作成します。	Alt + C + T	テスト仕様原案作成
	要求トレース表作成	－	－	原要求項目識別子と単位機能の対応を、エクスポート、インポート、「検査･検索等結果」ウィンドウに表示することができます。	Alt + C + R	要求トレース表作成
	工程マトリックス表作成			工程管理用の表を、CSV形式ファイルで出力します。	Alt + C + P	工程マトリックス表作成
	機能属性表作成	－	－	機能属性一覧表示、インポート、エクスポートの機能があります。	Alt + C + A	機能属性表作成
	プログラムコメント作成	－	－	プログラムのソースコードに付けるコメントを生成します。	Alt + C + C	プログラムコメント作成

5．単位機能の記述操作方法

単位機能を記述する操作方法を説明します。

■コンテキストメニュー

　論理記述欄で、マウスの右クリックでポップアップメニューであるコンテキスニューが表示され、そこから編集操作を選択することができます。
なお、その時の状況により、表示されるコンテキストメニューの内容は変わります。
※Shift+F10　でも表示できます。



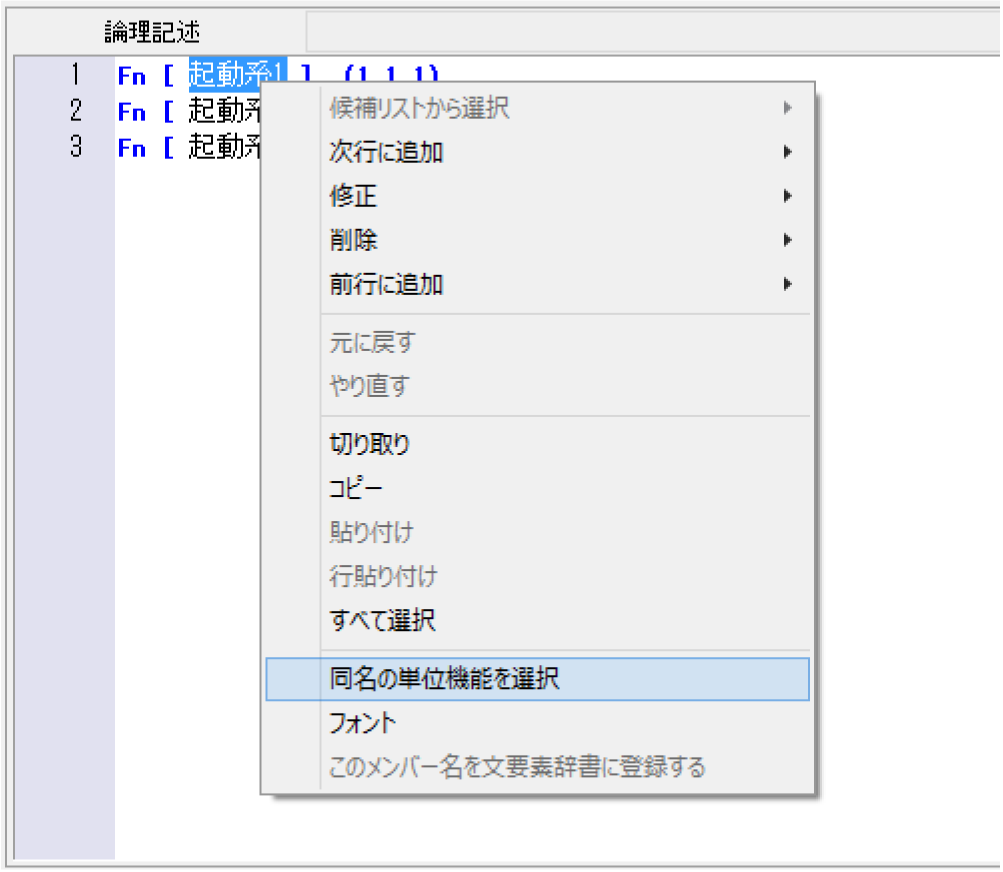
■単位機能の作成方法

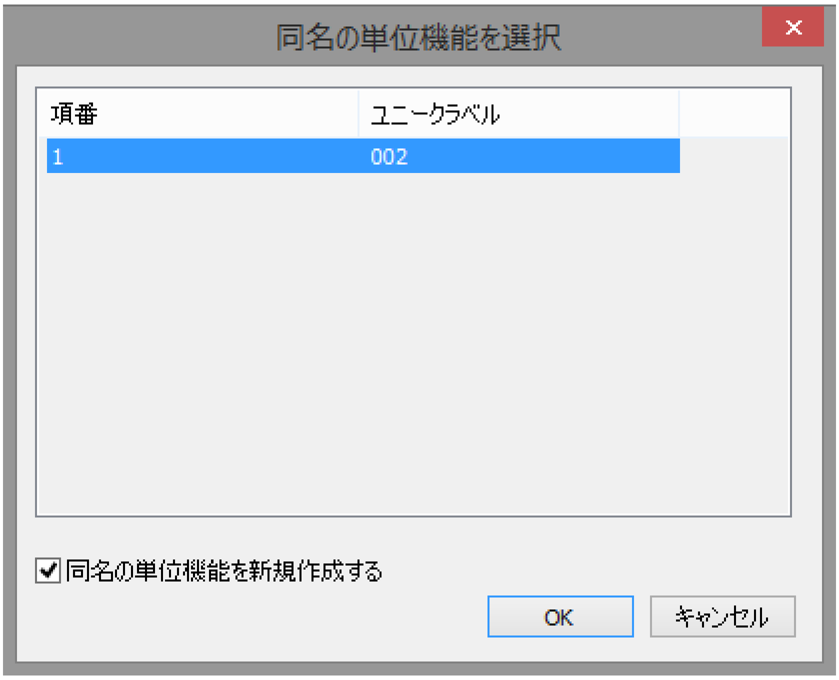
単位機能を作成するには、次の方法があります。

●単位機能の論理記述欄に、Fn 構文で、単位機能として存在していない機能名を入力することにより、その機能名の単位機能を作成します。

■同名の単位機能の作成方法

Fn 構文にマウスカーソルを置いた状態で右クリックすると現れるコンテキストメニューから「同名の単位機能を選択」をクリックします。



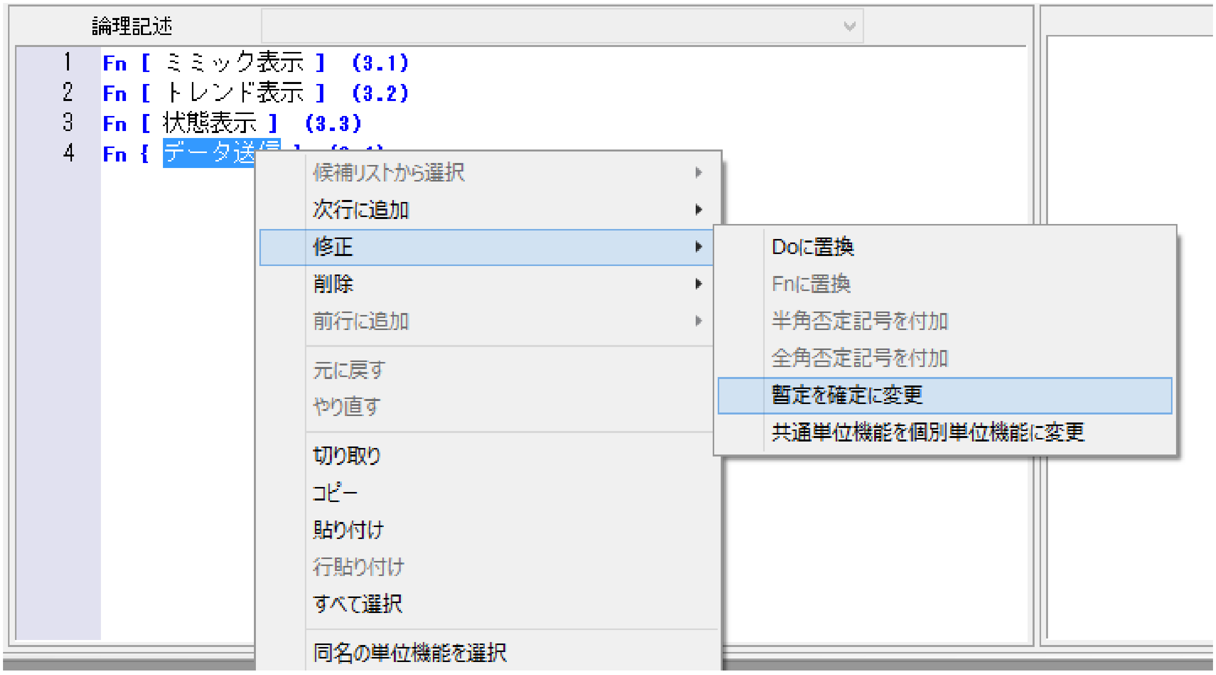


リストボックスから行を選択した状態で、「同名の単位機能を新規作成する」チェックボックスを ON にすると、Fn 構文に記述されている単位機能名を持つ単位機能が新たに作成され、Fn 構文がその新しい単位機能を指すようになります。

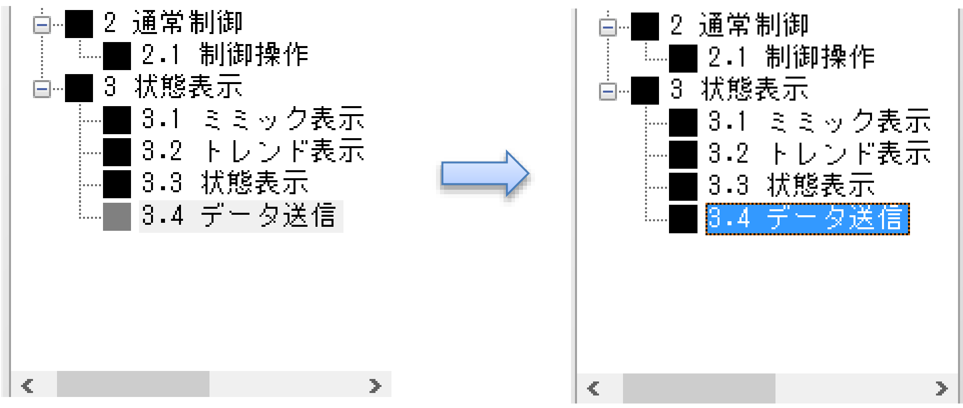
■単位機能を「暫定」状態から「確定」に変える方法

インデント目次で灰色のアイコンが付いた単位機能は「暫定」状態のものです。
これを「確定」状態にするためには、以下の操作を行ってください。

単位機能を選択した状態で右クリックして現れるコンテキストメニューの修正メニューから、下図のように「暫定を確定に変更」をクリックします。

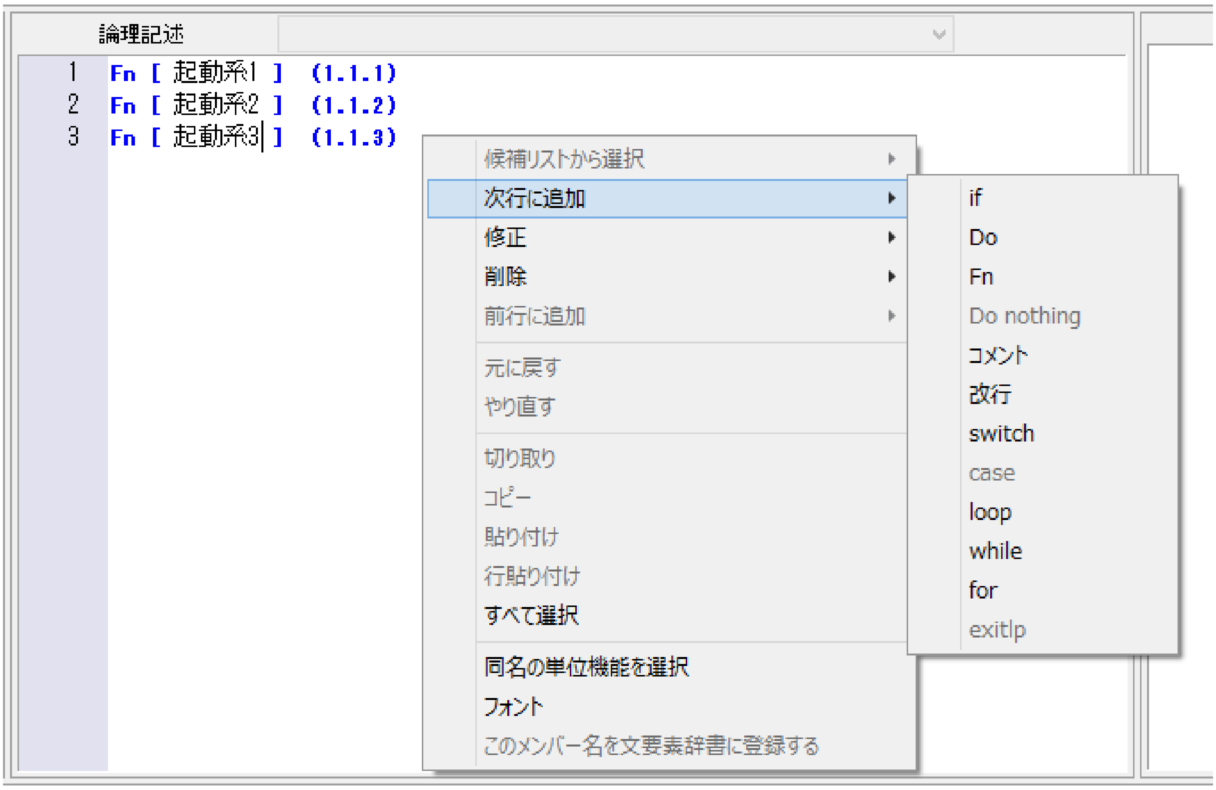


この操作によって「確定」状態となり、インデント目次のアイコンが灰色から黒色に変わります。



■構文の記述方法（単位機能ウィンドウ　論理記述欄）

●単位機能ウィンドウの論理記述欄内の、構文を追加したい位置で右クリックによりコンテキストメニューを表示し、「次行に追加」から構文の種類を選択します。



●選択すると構文が追加され、構文記号（if や Fn など）、変項記号（< >や[ ]）が自動的に表示されます。
構文記号は、構文の種類によっては複数行になります。

●構文の変項領域（入力領域）に対して記述や修正をします。

記述はキーボードからのキー入力、または候補リストから入力済みのデータを選択することにより行います。

なお、変項領域は、記述は後でも構いません。
※ただし、Fn 構文の変項領域である機能名は、追加直後に記述する必要があります。

変項領域の数は構文の種類によって変わります。
※以降の構文説明では、変項領域の種類を下記で表記します。

xxxx　機能名
mmmm　メンバー名
ssss　状態名

SLP 構文の記述の詳細については、7. SLP 構文の構文規則を参照してください。

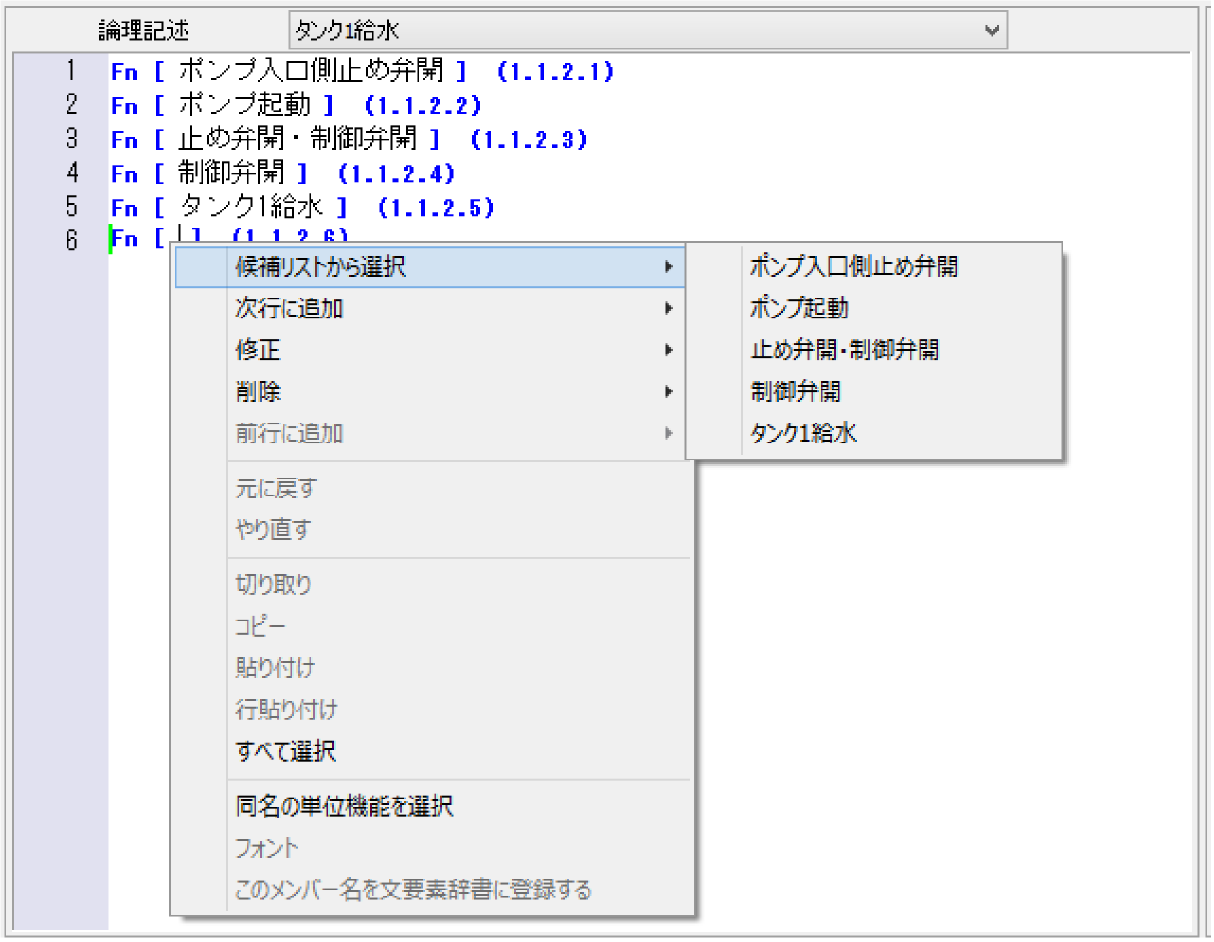
■候補リストの利用（単位機能ウィンドウ　論理記述欄）

下記の候補リスト（リストからの選択機能）を用いることによって、表記の揺れや誤入力を防ぐことができます。

●機能名候補リスト

機能名を入力する変項領域では、右クリックによるコンテキストメニューの「候補リストから選択」で、機能名を選択することができます。

機能名候補リストには、該当単位機能の子単位機能の機能名が表示されます。



再利用した場合、「正」の機能名には!マークが付加され「副」の機能名は二重の大括弧で囲まれて表記されます。

正：Fn [xxxx]! (n)

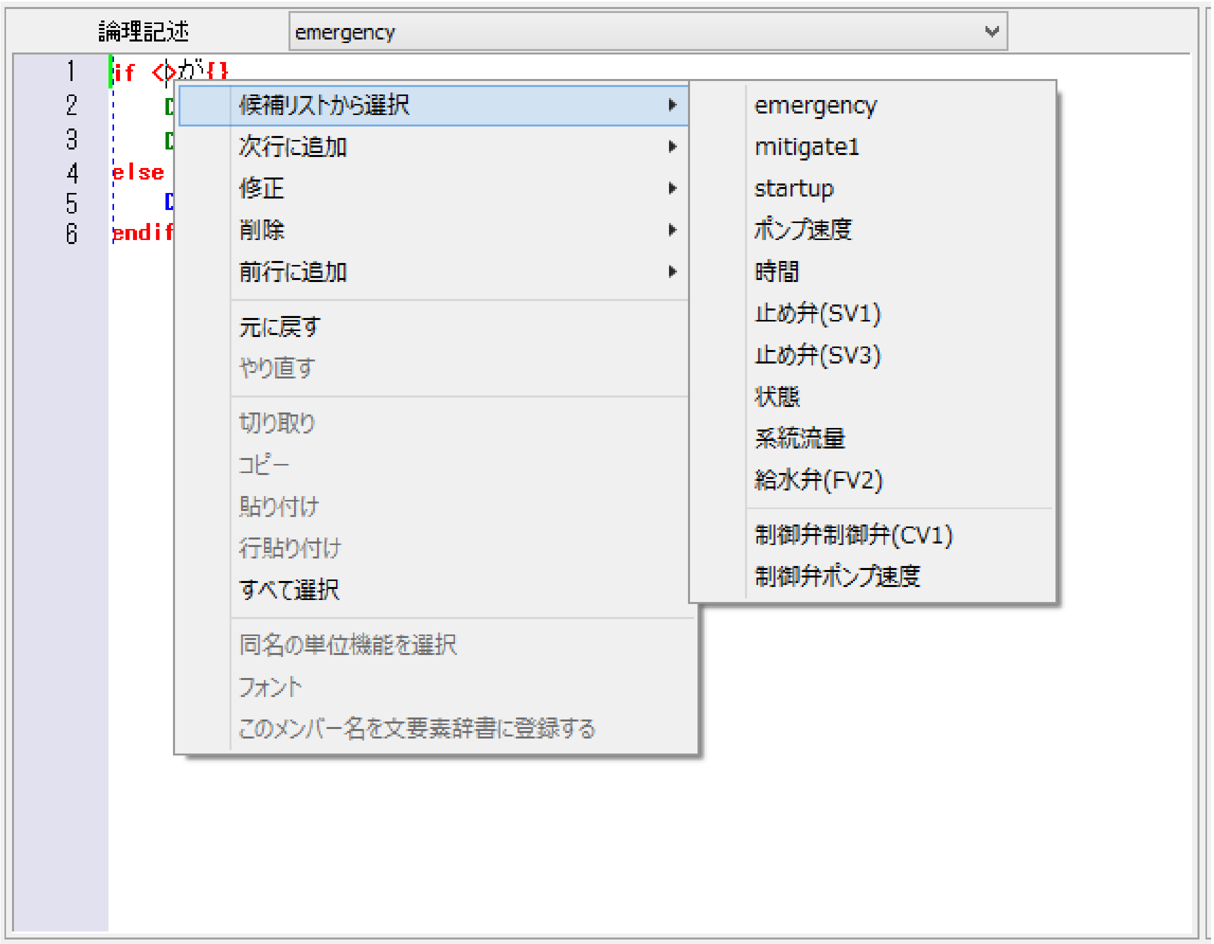
副：Fn [[xxxx]]　(n)



再利用の機能名を編集した場合、再利用状態は解除になります。

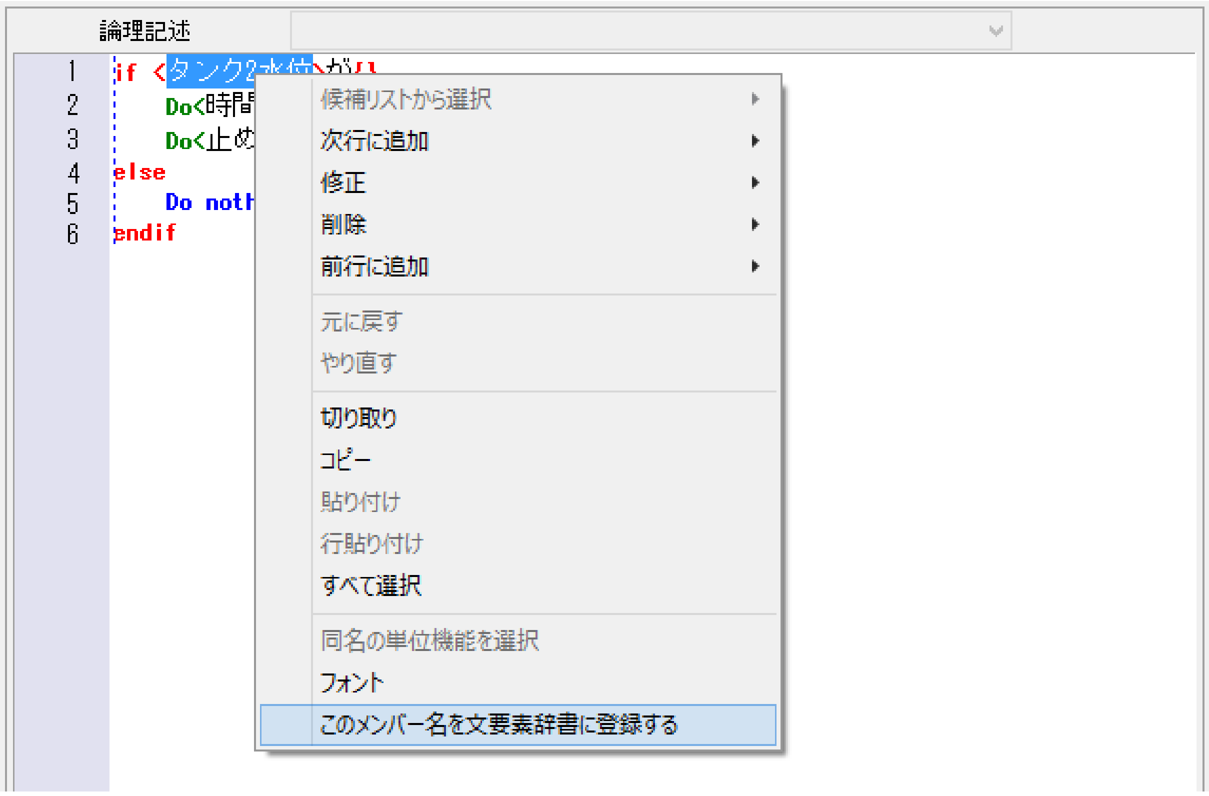
●メンバー名候補リスト

メンバー名を入力する変項領域では、コンテキストメニューの「候補リストから選択」で、文要素辞書に登録済みや入力済みのメンバー名を選択することができます。候補となるリストの最大数は[環境設定]-[論理記述の表示]-[メンバー名や状態名の候補リストからの選択]で指定できます。

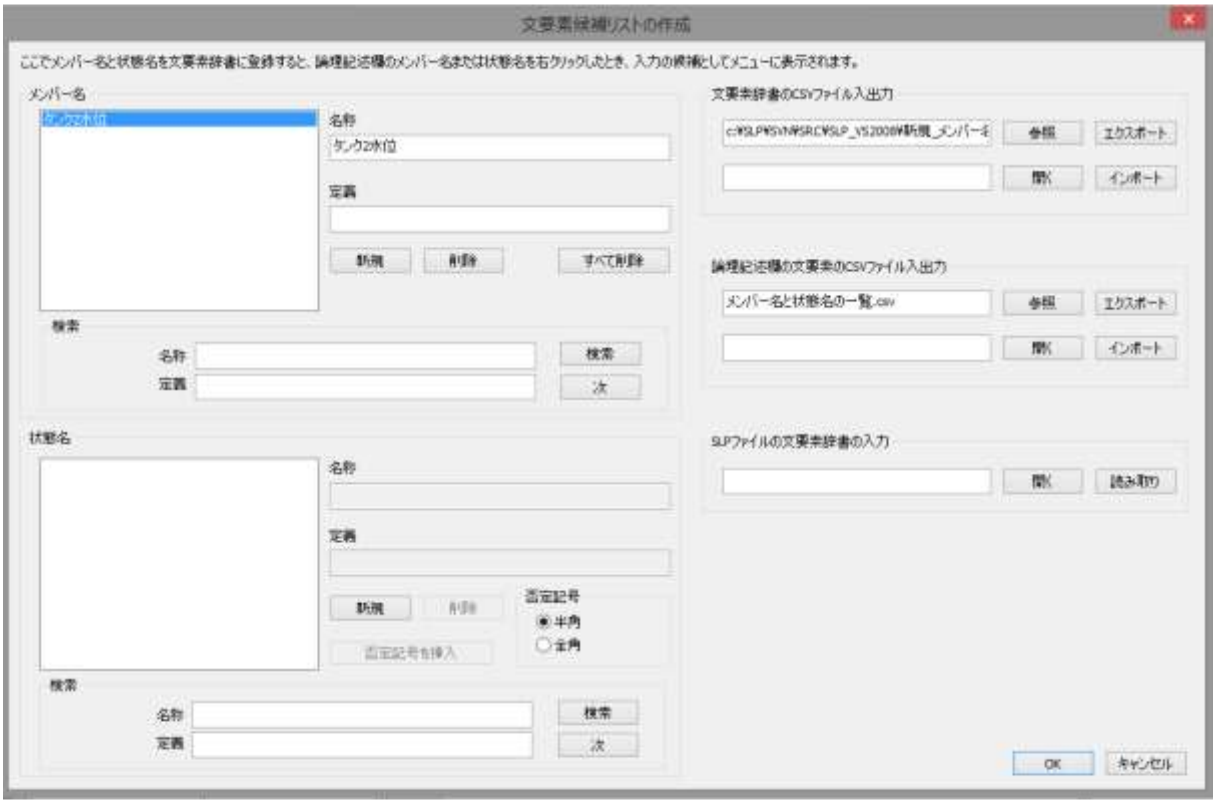


●メンバー名の登録

メンバー名を選択した状態で、コンテキストメニューの「このメンバー名を文要素辞書に登録する」メニューをクリックすると、選択されたメンバー名を文要素辞書に登録することができます。



登録されたことを確認するために[意味設定]-[文要素候補リストの作成]ダイアログを開いてみると、以下のように登録されており、リストボックスに表示されます。

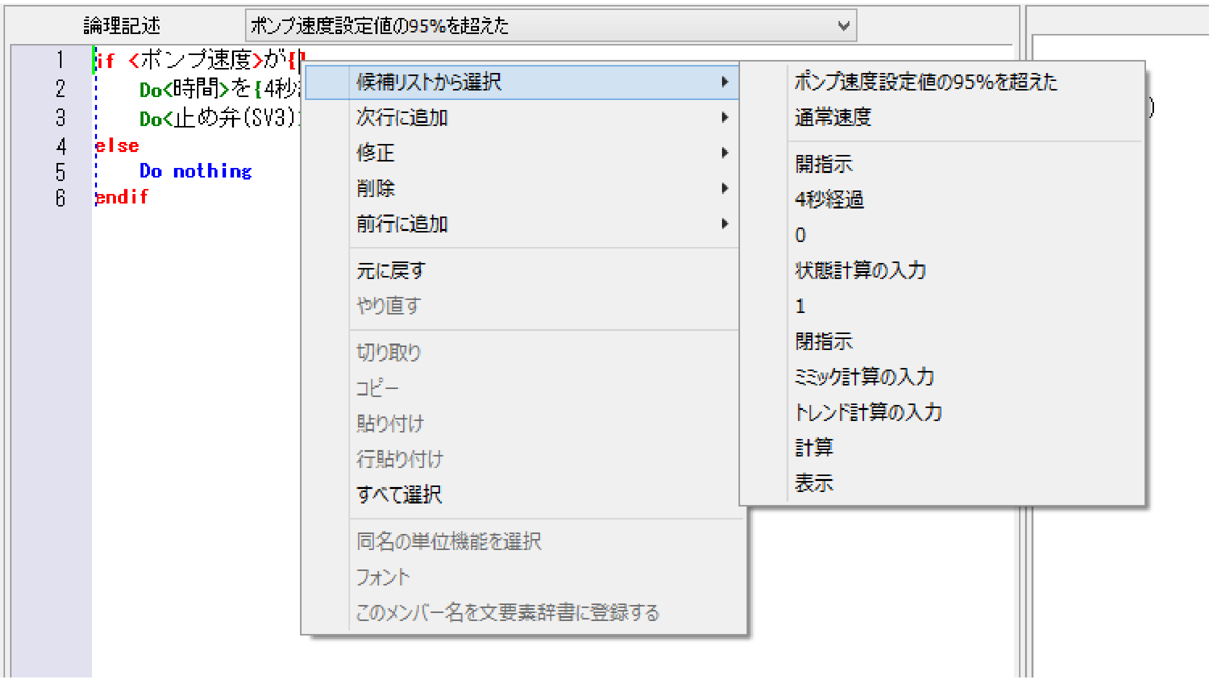


このようにして登録されたメンバー名は、「登録メンバー名」と呼び、それ以外は、「未登録メンバー名」と呼びます。

●状態名候補リスト

状態名を入力する変項領域では、コンテキストメニューの「候補リストから選択」で、文要素辞書に登録済み、または入力済み状態名を選択することができます。ただし、<u>メンバー名を入力した状態</u>でなければ機能しません。

この状態で、マウスカーソルを「状態名」入力エリアに当てて右クリックします。



登録は「文要素候補リストの作成」で行い、登録状態名と呼び、それ以外は、未登録状態名と呼びます。

■貼り付け操作の注意点

貼り付け操作では、入力領域によって以下の動作上の違いがあります。

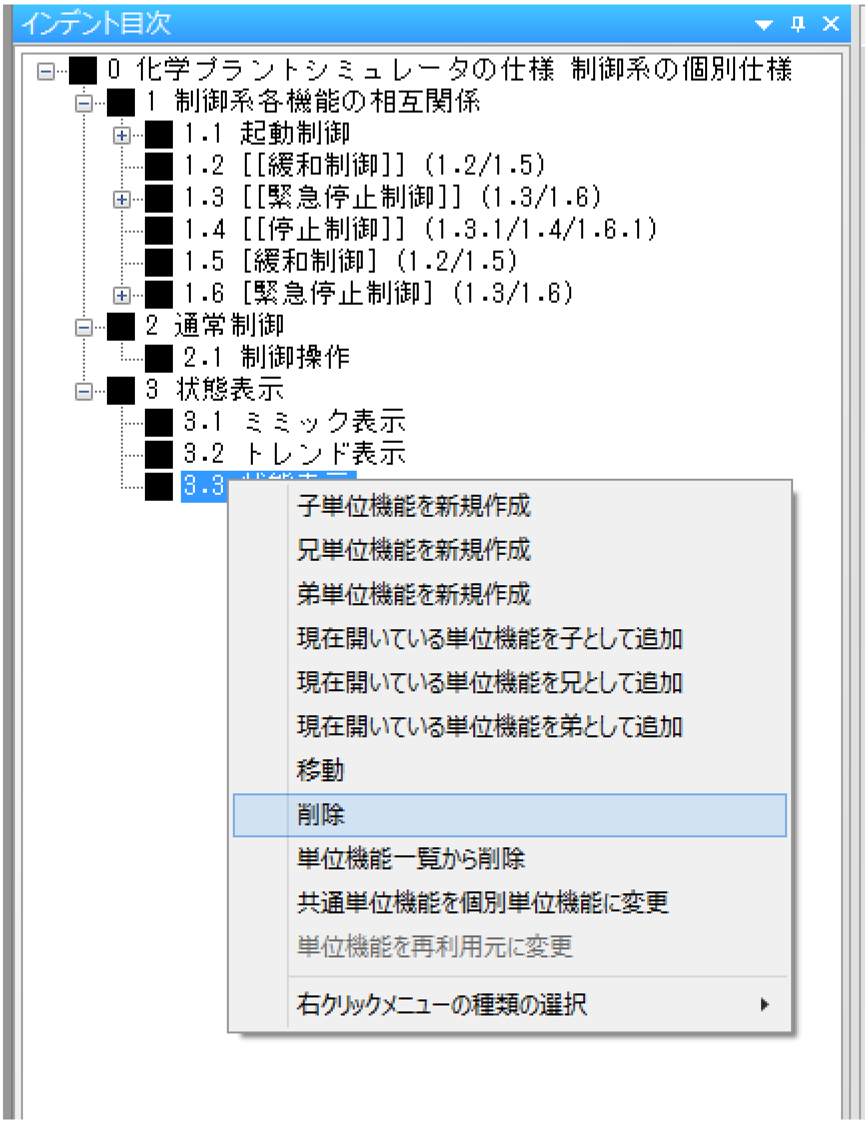
・論理記述欄：
貼り付けデータ内に改行コード、または括弧が存在した場合、貼り付けられるデータは、その前のデータまでが対象となります。

・項番、原要求項目識別子、実装時の関数名：
貼り付けデータ内に改行コードが存在した場合、貼り付けられるデータは、その前のデータまでが対象となります。
貼り付けた先の入力項目でデータとして NG の文字列だった場合は、操作は無視されます。（ただし、現在位置が移動された場合にチェックされます）

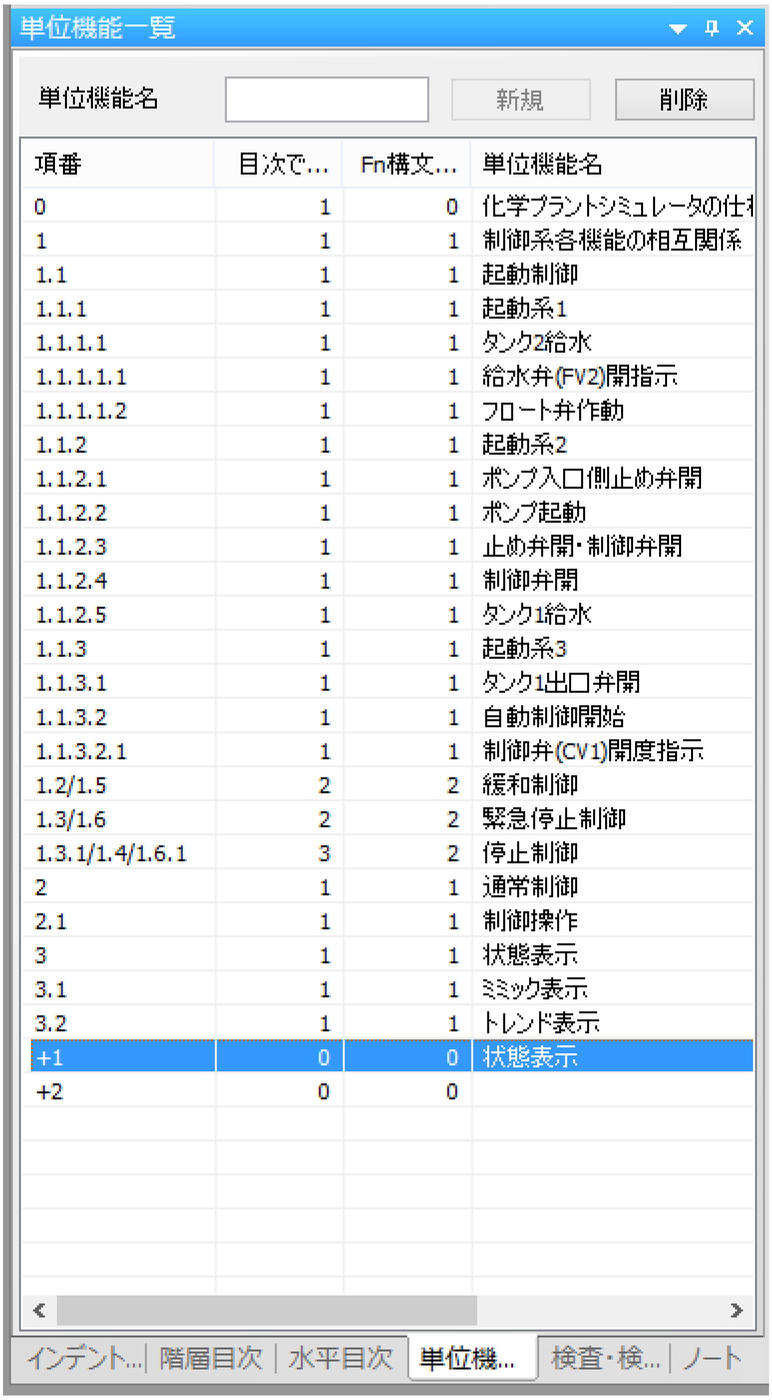
・単位機能名：
貼り付けデータで領域内に収まる長さのデータが対象となります。

■単位機能の削除と復活

インデント目次で任意の単位機能を選択し、右クリックで現れるコンテキストメニューから「削除」を選択（クリック）すると、この単位機能を削除することができます。
下図は同メニューにある「右クリックメニューの種類の選択」で「フル」を指定した場合の例です。



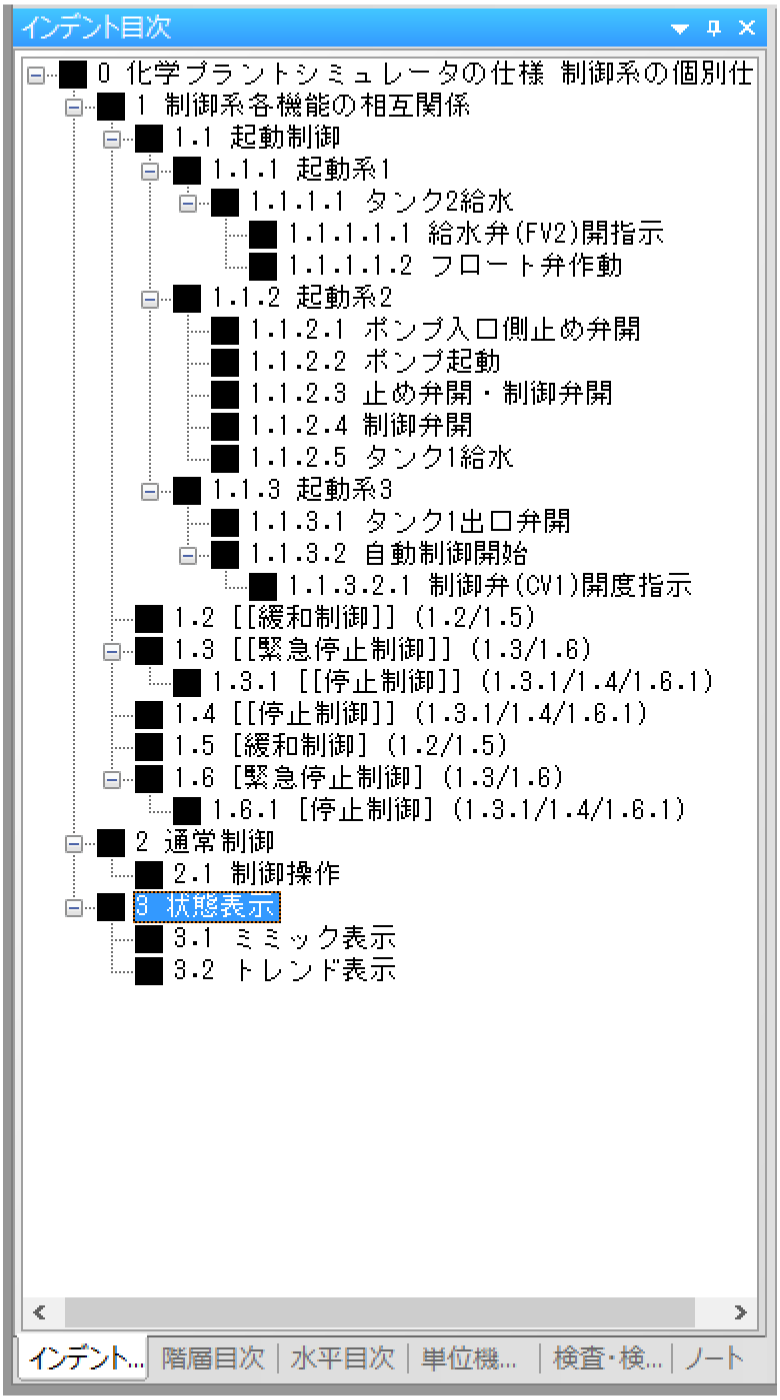
削除後は、単位機能一覧の最下部に下図のように+N と採番された状態で表示されます。

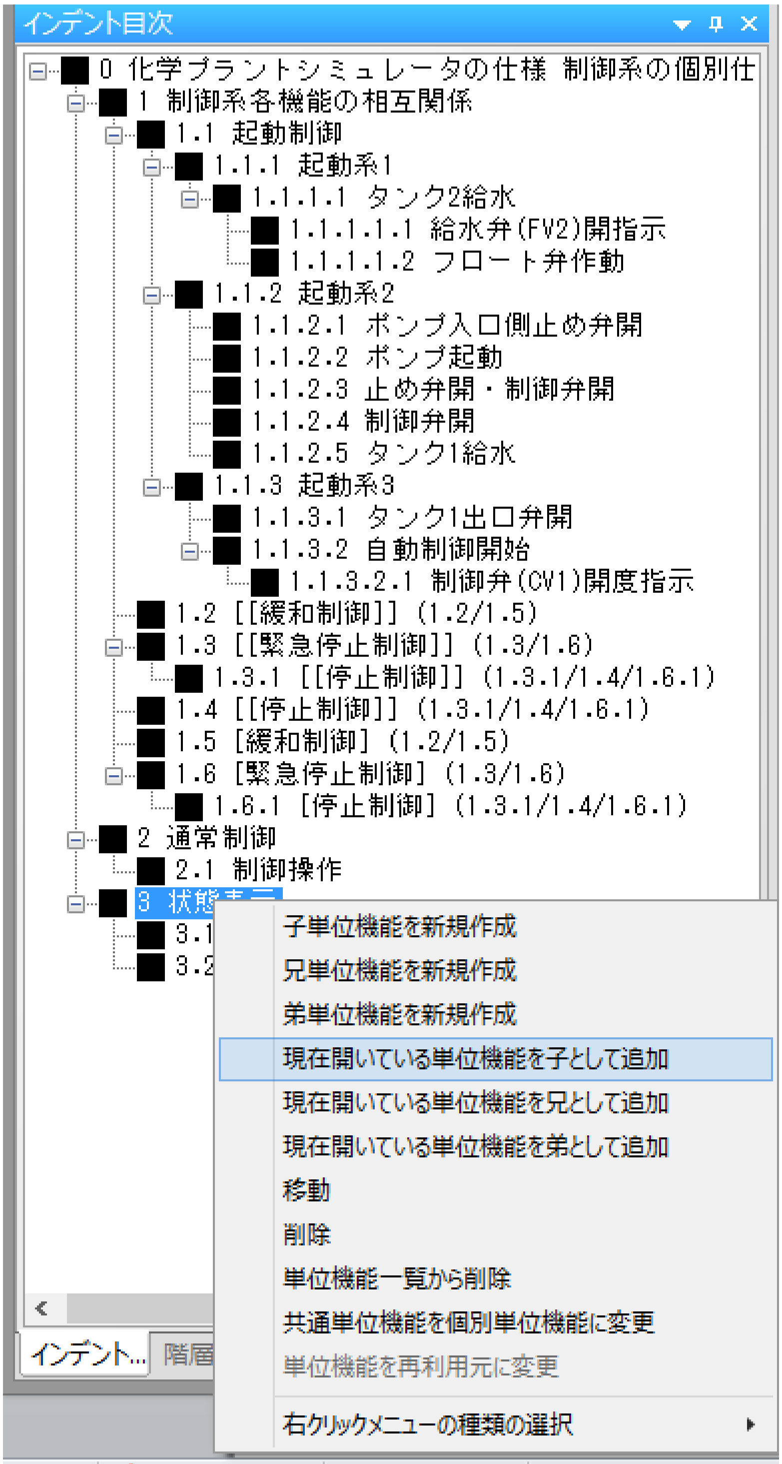


これを復活させる方法について説明します。

まず、上図のように削除状態にある単位機能を左クリックして選択します。

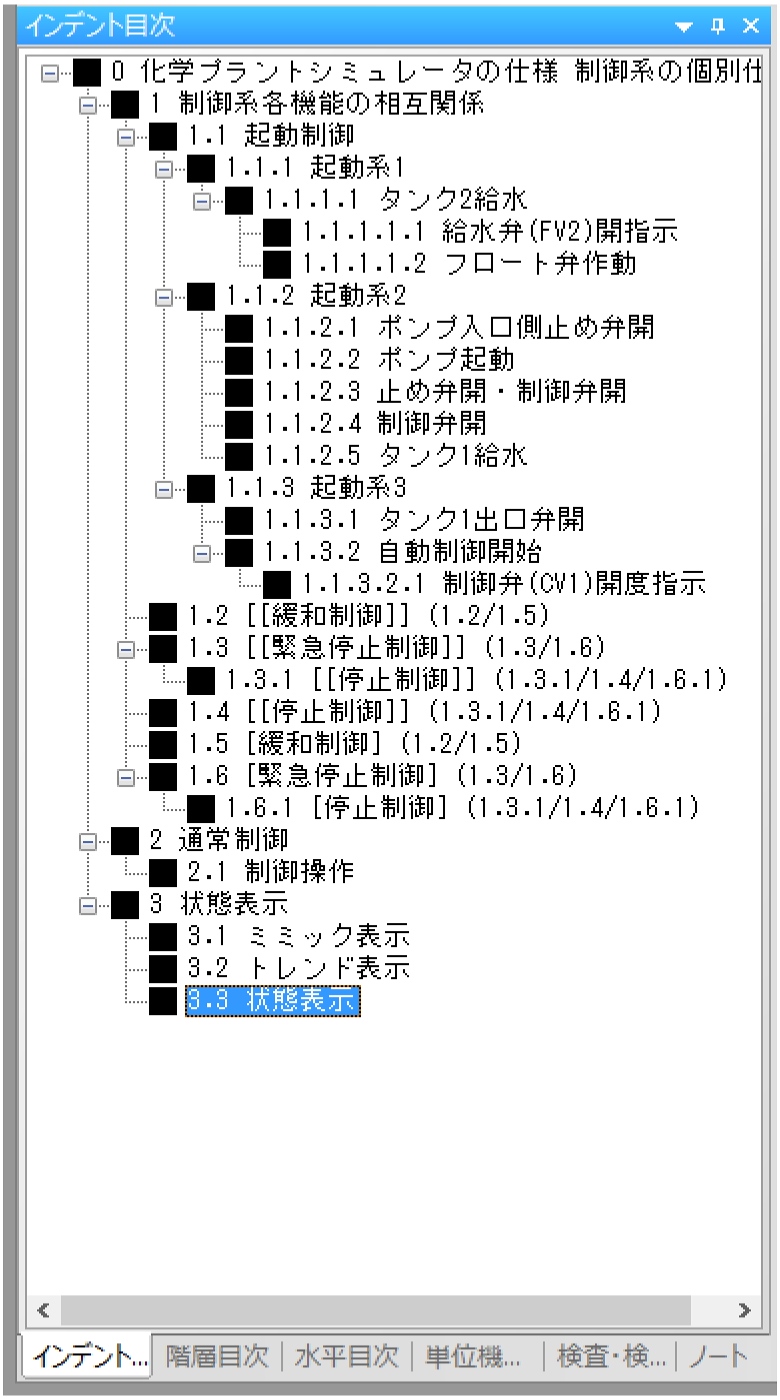
次に、削除以前に親機能であった単位機能を選択します。
この場合は、「3 状態表示」項です。
（以前に存在した「3.3 状態表示」は削除されたので、表示されていません。）





ここで右クリックしてコンテキストメニューを表示させ、復活させたい位置（属性）を図のように選択します。
この例では親子関係を復活させるために「現在開いている単位機能を子として追加」を選択しています。

インデント目次で結果を確認すると、次の図のように 3.3 項が復活しています。



６．論理記述欄の構文記述（編集操作）

論理記述欄の構文を記述する操作方法を説明します。

■構文の追加

追加する行位置に入力位置を移動し、そこでコンテキストメニューを表示させ、追加する構文を選択します。
現在の入力位置や状態によって、前行に追加または次行へ追加を選択することができます。

■構文の修正

修正する構文に入力位置を移動し、そこで機能名やメンバー名、状態名など修正対象を選択し修正します。

■構文の削除

削除する行位置にマウスカーソルを移動し、そこでコンテキストメニューを表示させ、削除を選択します。
削除できない行では、削除メニューは無効です。
削除には、文字削除、行削除、ブロック削除、フレーム削除があります。

■構文の置換

置換元の構文に入力位置を移動し、そこでコンテキストメニューを表示させ、修正メニューから置換後の構文を選択します。

■構文を挿入する

選択した構文を、新たな if 構文で囲むことにより、if 構文の中に挿入します。
（loop 構文内に挿入することも可能です）
選択した行に対し、コンテキストメニューを表示させ、挿入方法を下記から選択します。

- ●if_else 内に挿入：if 構文の if と else の間に挿入します。
- ●else_endif 内に挿入：if 構文の else と endif の間に挿入します。
- ●loop 内に挿入：loop 構文の loop と endlp の間に挿入します。
- ●for 内に挿入：for 構文の for と endfor の間に挿入します。
- ●while 内に挿入：while 構文の while と endwhile の間に挿入します。

選択範囲に挿入される行の全てを含まない場合でも、全て選択された場合と同様に挿入します。
選択範囲内の行が、選択された構文に挿入不可の場合は、メニューが選択できません。

■入力位置の移動

マウスカーソルによる移動の他に、下記の方法で入力位置（キャレット）を移動することができます。
どこでも行の挿入を行えるようにするため、変項領域のない行へも移動します。

●[TAB]キー：
　　次の入力可能位置、又は入力位置の移動可能位置に移動します。
●[Shift] + [TAB]キー：
　　一つ前の入力可能位置、又は入力位置の移動可能位置に移動します。
●↑キー：前の行の入力可能位置に移動します。
●↓キー：後ろの行の入力可能位置に移動します。
●→キー：
　　現在の入力可能領域内で右側に文字がある場合は、1文字後ろに移動します。
●←キー：
　　現在の入力可能領域内で左側に文字がある場合は、1文字前に移動します。
●[PageUp]キー：10行前に移動します。
●[PageDown]キー：10行後ろに移動します。
●[Home]キー：現在の行の、先頭の入力可能領域の左端に移動します。
●[End]キー：現在の行の、最後の入力可能領域の末尾に移動します。

■マウスドラッグによる範囲選択

●1行内の一部を選択した場合：
　　選択範囲内（の先頭の）変項領域に入力位置（キャレット）を移動します。

●1行以上の複数行を選択した場合：
　　構文を包む動作になります。

■文字列のカット、コピー&ペースト、行貼り付け機能

●切り取り（カット）
　変項領域の文字列を選択している状態でコンテキストメニューを表示させ、切り取りを選択します。
（[Ctrl]+[X]キー）（メニュー[編集]-[切り取り]）
　文字列が切り取られ、クリップボードに保存されます。

※クリップボードとは、コピー操作やカット操作を行なったデータが一時的に保存される領域です。

　行を選択している場合は、切り取りは不可としますので、削除を実行してください。

●コピー
変項領域の文字列を選択している状態でコンテキストメニューを表示させ、コピーを選択します。
（[Ctrl]+[C]キー）（メニュー[編集]-[コピー]）
文字列がコピーされ、クリップボードに保存されます。

　クリップボードに保存される情報はテキストデータのみとし、フォント情報はコピーされません。

　選択領域が1行以上である場合、行データをコピーします。行データは選択さ

れた行が含まれる構文全てを選択領域とします。例えば else の行だけ選択されたとしてもコピーバッファにコピーされる行は if の行から endif の行までをコピーします。

行データコピーの場合、クリップボードに保存される情報はテキストデータと、論理記述欄の行データの両方となりますが、論理記述欄以外に貼り付ける場合はテキストデータのみが貼り付け可能です。

●貼り付け（ペースト）
　貼り付けたい変項領域に入力位置を移動し、コンテキストメニューを表示させ、貼り付けを選択します。
（[Ctrl]+[V]キー）（メニュー[編集]-[貼り付け]）
クリップボードに保存されているテキストデータが現在の入力位置に挿入されます。

　現在の入力位置が変項領域でなければ操作は無視されます。
変項領域で範囲選択されていた場合は、選択データと置き換えられます。
　クリップボードから貼り付けされる情報はテキストデータのみとし、フォント情報はコピーされません。
　行データコピーの場合でも貼り付けを選択した場合は貼り付けられる情報はテキストデータのみとなります。

●行貼り付け
　行データコピーを行った後で、貼り付け可能な位置の前の行にテキスト入力カーソルがある場合は、行貼り付けを行うことができます。
　クリップボードに保存されている SLP の行データが現在の行の次行に挿入されます。

　行データがクリップボードにある場合でもその内容が現在位置では貼り付けできない場合、行貼り付けメニューは選択不可になります。

　Fn 構文を貼り付ける場合、その内容が該当行では貼り付け不可であるときは、Fn 構文の行はコメント行に置き換えられます。コメント内に Fn 構文と機能名が記述されますので、必要であれば Fn 構文を追加して再利用データを作成する等をしてください。

　行貼り付けを行った場合、if 構文内部への貼り付け等貼り付け位置によって行の先頭位置が適切な位置に変更されます。

●削除
　変項領域の文字列を選択している状態でコンテキストメニューを表示させ、削除を選択します。
（[DEL]キー）（メニュー[編集]-[削除]）
文字列が切り取られ、クリップボードには保存されません。

■アンドゥ

直前に行った論理記述欄内での編集操作をキャンセルし元に戻します。

（[Ctrl]+[Z]キー）（メニュー[編集]-[元に戻す]）

もう一度アンドゥを行うとアンドゥ操作する前の状態に戻ります（リドゥ）。

以下のものに関しては、アンドゥ操作はできません（アンドゥメニューが選択できない状態になります）。

・Fn 構文の追加
・Fn 構文の削除
・Fn 構文からの置換
・Fn 構文への置換
・Fn 構文の機能名変更

７．SLP 構文の構文規則

論理記述欄へ記述する、SLP 構文の構文規則を説明します。

■if構文

構文規則	if < mmmm >{ ssss } else endif	if～else 間、及び else～endif 間に、初期状態で変項領域には何もありませんので、記述する機能に応じて追加してください。 if 構文内には、next 構文(次の処理に移行)を記述することができます。 (ただし if 構文内に他の構文が既に有る場合は、記述できません)
変項領域①	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、メンバー名候補リストから選択することもできます。
変項領域② 省略可能	助詞	>{の間に、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域③	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、状態名候補リストから選択することもできます。
変項領域④ 省略可能	助動詞	}の後ろに、状態が遷移するかしないかを助動詞を選んで記述することができます。

■Do構文

構文規則	Do< mmmm >{ ssss }	
変項領域①	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、メンバー名候補リストから選択することもできます。 後件欄に表示されます。
変項領域② 省略可能	助詞	>{の間に、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域③	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、状態名候補リストから選択することもできます。 後件欄に表示されます。
変項領域④ 省略可能	助動詞	}の後ろに、助動詞、又はコメントを記述することができます。

■Fn構文

構文規則	Fn [xxxx]　(n)	
変項領域①	機能名	機能名を記述します。未入力状態の場合は、機能名候補リストから選択することもできます。 入力した機能名が、単位機能として存在していない場合は、その機能名の単位機能が自動的に新規に作成されます。 機能名を未記入のまま、他の項目に移動することはできません。
自動表示	N	単位機能内 Fn 番号(1…)

■switch構文

構文規則	switch < mmmm > case{ ssss } case{ ssss } case{ ssss }	各 case と elsw には、初期状態で構文は何もありませんので、必要に応じて追加記述してください。 switch 構文の case 内には、*next 構文*(次の処理に移行)を記述することができます。

	elsw endsw	(ただし case 内に他の構文が既に有る場合は、記述できません)
変項領域①	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、メンバー名候補リストから選択することもできます。
変項領域② 変項領域③ 変項領域④	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、状態名候補リストから選択することもできます。 *case* は追加することがでまきす。また多い場合は削除してください。(*case* は最低限2個必要です) 追加する行位置に入力位置を移動し、そこでコンテキストメニューを表示させ、現在の入力位置によって前行に追加または次行へ追加を選択し、*case* を選択します。
変項領域⑤ 省略可能	助詞	>の後ろに、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域⑥ 省略可能	助動詞	*Case*{ }の後ろに、状態が遷移するかしないかを助動詞を選んで記述することができます。

■loop構文

構文規則	loop endlp	
変項領域	なし	loop～endlp 間に、コンテキストメニューから下記の構文を選択し追加することができます。 exitlp：loop を抜けて endlp の次へ exitlp、next を記述しても論理的に意味がない場所では、選択することができません。

■for構文

構文規則	for < aaaa >{xxxx }; < bbbb >{yyyy }; < cccc >{zzzz } endfor	
変項領域①	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、メンバー名候補リストから選択することもできます。
変項領域② 省略可能	助詞	>{の間に、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域③	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、状態名候補リストから選択することもできます。
変項領域④ 省略可能	助動詞	}の後ろに、助動詞、又はコメントを記述することができます。
変項領域⑤	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、メンバー名候補リストから選択することもできます。
変項領域⑥ 省略可能	助詞	>{の間に、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域⑦	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、状態名候補リストから選択することもできます。
変項領域⑧ 省略可能	助動詞	}の後ろに、助動詞、又はコメントを記述することができます。

変項領域⑨	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、メンバー名候補リストから選択することもできます。
変項領域⑩ 省略可能	助詞	>{の間に、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域⑪	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、状態名候補リストから選択することもできます。
変項領域⑫ 省略可能	助動詞	}の後ろに、助動詞、又はコメントを記述することができます。

■while構文

構文規則	while <aaaa>{bbbb } endwhile	
変項領域①	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、メンバー名候補リストから選択することもできます。
変項領域② 省略可能	助詞	>{の間に、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域③	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、状態名候補リストから選択することもできます。
変項領域④ 省略可能	助動詞	}の後ろに、状態が遷移するかしないかを助動詞を選んで記述することができます。

■コメント文

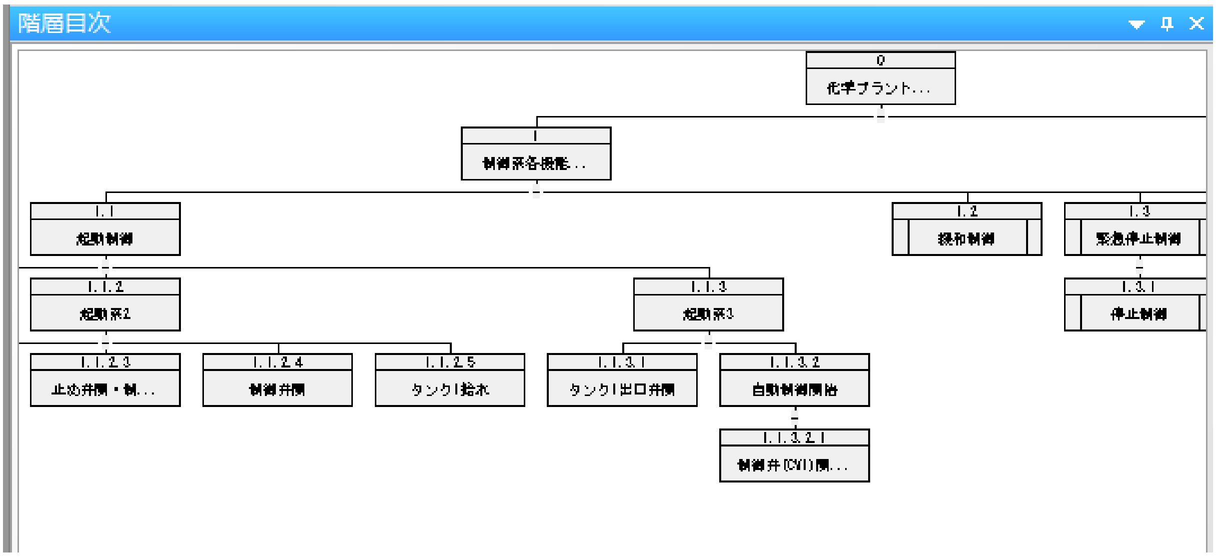
構文規則	(:	
変項領域①		(:の後ろに、機能の説明を加えて、構文を明確にします。

■改行文

構文規則		1個の改行が追加されます。構文を見やすくするために適当な位置に改行を入れます。

８．階層目次の編集

階層目次は、全ての単位機能の階層構造をグラフィック Tree 形式で表示し、単位機能の編集を行うことができます。
機能分割された単位機能を階層順に配置して、それを目次として利用できます。



■基本表示

　１つの単位機能は四角形で描画された単位機能ボックスで表現され、単位機能ボックス内には項番と機能名を表示します。
（単位機能ボックス内に全てを表示できない場合は一部を省略します。）
上から下が親子関係、左から右が兄弟関係を意味します。
各単位機能間の親子兄弟関係を示すよう、線で結んで表示します。

スクロールバーで上下左右にウィンドウをスクロールします。

■階層目次の単位機能の表示/非表示

　単位機能に子が存在する場合は、親と子の間にトグルボタンを設け、トグルボタンをクリックする事で子単位機能以下の表示・非表示を切り替えます。
トグルボタンは、その子以下を表示している場合は"-"、子を隠している場合は"+"で表現されます。

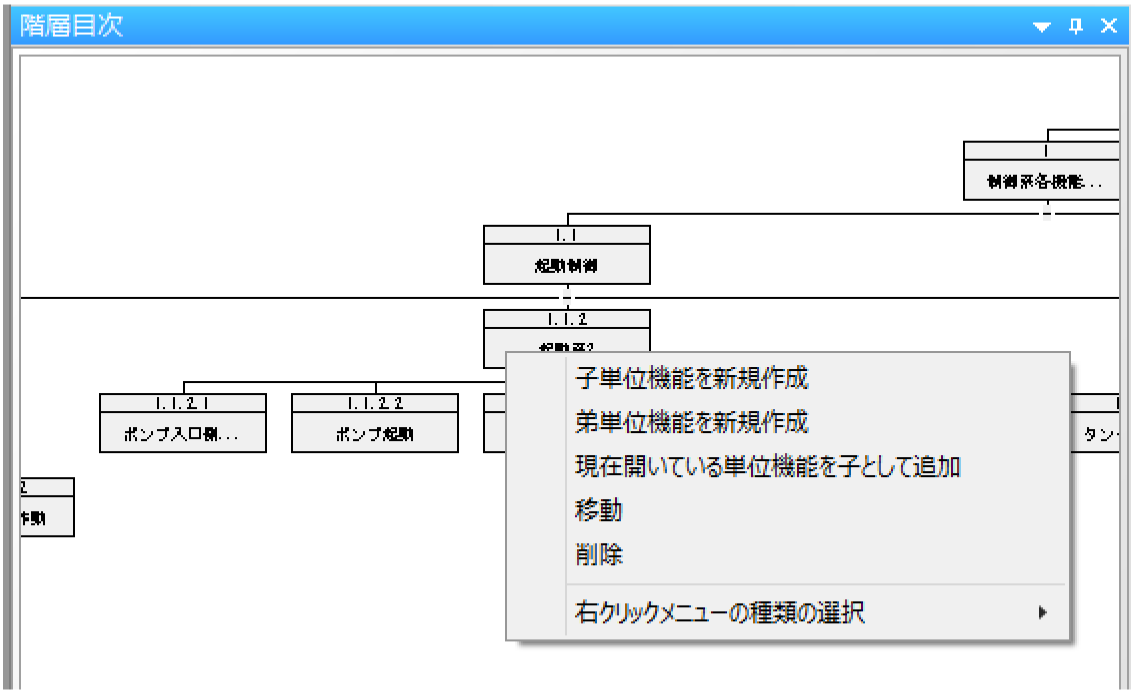
■階層目次の属性表示

再利用している単位機能名は、単位機能ボックスにマウスカーソルを当てると二重の大括弧で囲まれて表記されます。（ [[xxxx]] ）
また、枠線で単位機能の下記の状態を示します。

●実線：「確定」状態
●破線：「暫定」状態
●点線：「未定」状態

■階層目次への単位機能ボックスの編集

　単位機能ボックスへのコンテキストメニューから下記の操作を選択することにより、その単位機能ボックスに対する編集を行います。



●右クリックメニューの種類の選択：「シンプル」と「フル」が選択できます。
　上図は「シンプル」選択時の例です。

●子単位機能を新規作成：
　　単位機能ボックスに子を作成します。
　　既に子がある場合は、末弟として作成します。

●弟単位機能を新規作成：
　　単位機能ボックスに弟単位機能を作成します。
　　自分の次の弟単位機能が追加されます。
　　つまり、既に弟単位機能がある場合は、その弟単位機能との間に新しい弟単位機能を挿入します。
　　起点単位機能に弟単位機能を追加する事はできません。

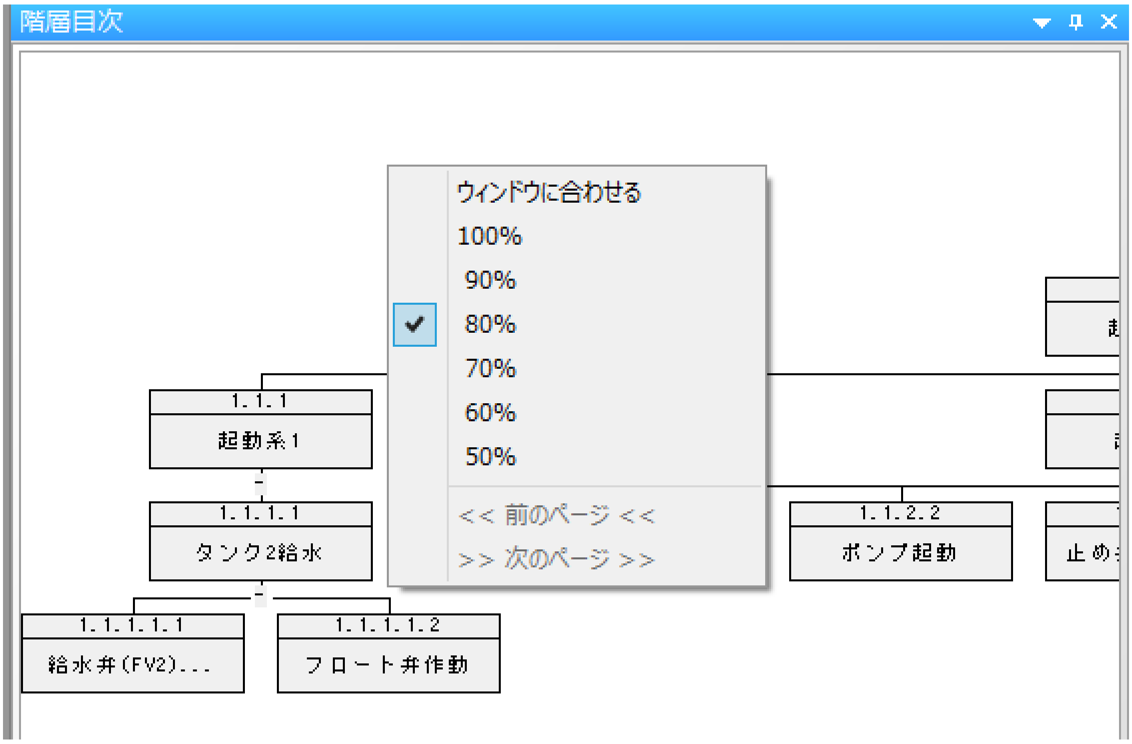
●現在開いている単位機能を子として追加：
　　選択されている単位機能が子単位機能になります。

●移動：
　　単位機能ボックス(=単位機能)を移動します。移動先番号を指定します。

●削除：
　　単位機能ボックス(=単位機能)を削除します。子孫がある場合はその子孫も削除されます。
　　再利用されている単位機能、または子孫に再利用されている単位機能がある場合は削除できません。起点単位機能は削除できません。

■階層目次の拡大縮小表示

　階層目次ウィンドウ内の単位機能ボックス、トグルボタン以外の場所で右クリックすることによりコンテキストメニューが表示されます。



コンテキストメニューでは、下記の階層目次の操作を選択できます。

●縮小率：
　50～100%まで、10%単位で表示縮小率を選択することができます。
●前のページ：
　複数ページを表示している場合、前のページに移動できます。
●次のページ：
　複数ページを表示している場合、次のページに移動できます。

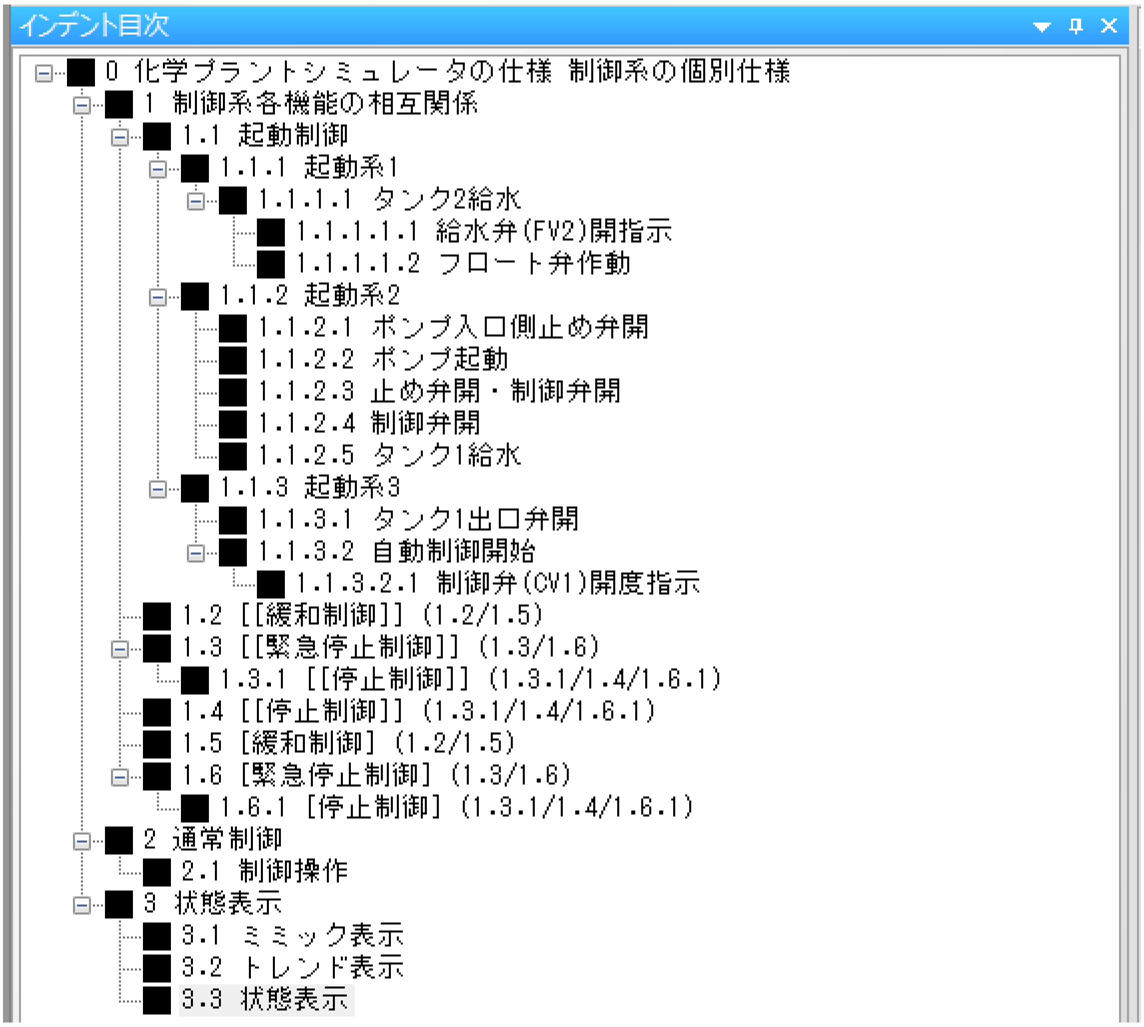
■階層目次から単位機能へのウィンドウ移動

　単位機能ボックスをクリックすることにより、その単位機能ボックスに対応する単位機能ウィンドウを記述中状態にします。（単位機能ウィンドウが開かれていない場合は、開きます）

　また、再利用単位機能ボックスをクリックすることにより、再利用元の単位機能ウィンドウを記述中状態にします。（単位機能ウィンドウが開かれていない場合は、開きます）

９．インデント目次の編集

インデント目次は、全ての単位機能の階層構造をテキスト Tree 形式で表示し、単位機能の編集を行うことができます。
機能分割された単位機能を項番順に配置して、それを目次として利用できます。



なお、下記以外の操作方法は基本的に階層目次と同様です。

■基本表示

全ての単位機能を、１行に１単位機能で項番順に表示します。
各単位機能の情報として、状態を示すアイコン、項番、機能名を表示します。
上から下が兄弟関係、左から右が親子関係を意味します。
スクロールバーで上下左右にウィンドウをスクロールします。

■インデント目次の単位機能の表示/非表示

単位機能に子が存在する場合は、左側にトグルボタンを設け、トグルボタンをクリックする事で子以下の表示・非表示を切り替えます。
トグルボタンは、その子以下を表示している場合は"-"、子を隠している場合は"+"で表現されます。

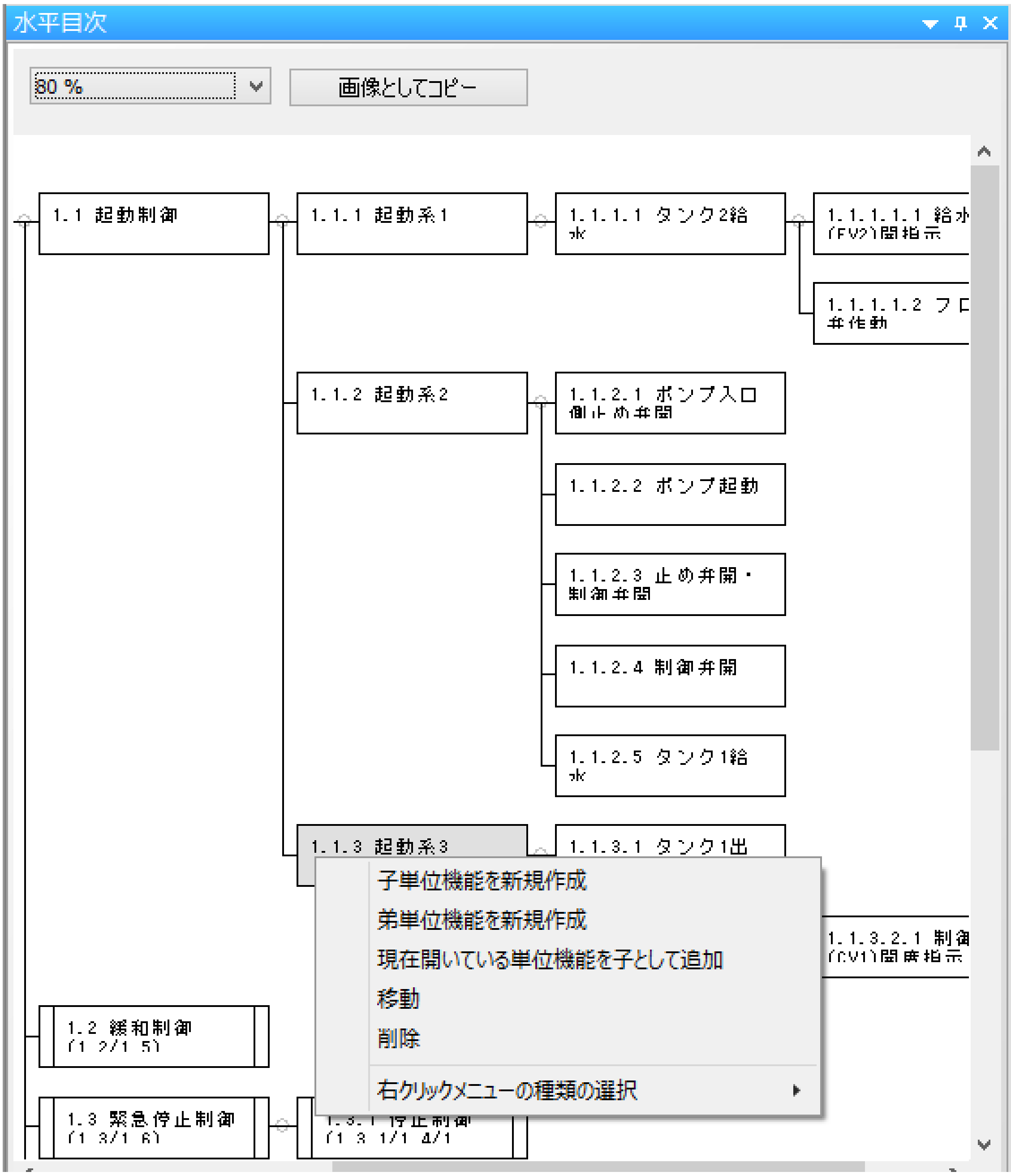
■インデント目次の属性表示

再利用している単位機能名は二重の大括弧で囲まれて表記されます。([[xxxx]])
アイコンの色で下記のように単位機能の状態を示します。

●黒で塗りつぶされている四角（■）:「確定」状態
●灰色で塗りつぶされている四角（■）:「暫定」状態
●塗りつぶされていない四角（□）:「未定」状態

１０．　水平目次の編集

水平目次は、単位機能の繋がりに着目して構造を表示します。



■新規作成

水平目次のコンテキストメニューから下記の操作を選択することにより、その単位機能ボックスに対する編集を行います。

●子単位機能を新規作成：

単位機能ボックスに子を作成します。

既に子がある場合は、末弟として作成します。

●弟単位機能を新規作成：
単位機能ボックスに弟単位機能を作成します。
自分の次の弟単位機能が追加されます。
つまり、既に弟単位機能がある場合は、その弟単位機能との間に新しい弟単位機能を挿入します。
起点単位機能に弟単位機能を追加する事はできません。

●現在開いている単位機能を子として追加：
選択されている単位機能が子単位機能になります。

●移動：
単位機能ボックス(=単位機能)を移動します。移動先番号を指定します。

●削除：
単位機能ボックス(=単位機能)を削除します。子孫がある場合はその子孫も削除されます。
再利用されている単位機能、または子孫に再利用されている単位機能がある場合は削除できません。
起点単位機能は削除できません。

●右クリックメニューの種類の選択：「シンプル」と「フル」が選択できます。
「シンプル」選択時の例です。

１１．　単位機能一覧

単位機能一覧は、単位機能１個につき１行のリストを表示します。

単位機能一覧

単位機能名　［新規］［削除］

項番	目次で…	Fn構文…	単位機能名	ユニークラベ
0	1	0	化学プラントシミュレータの仕様 制御系の個別仕様	001
1	1	1	制御系各機能の相互関係	002
1.1	1	1	起動制御	003
1.1.1	1	1	起動系1	009
1.1.1.1	1	1	タンク2給水	018
1.1.1.1.1	1	1	給水弁(FV2)開指示	026
1.1.1.1.2	1	1	フロート弁作動	017
1.1.2	1	1	起動系2	010
1.1.2.1	1	1	ポンプ入口側止め弁開	019
1.1.2.2	1	1	ポンプ起動	020
1.1.2.3	1	1	止め弁開･制御弁開	021
1.1.2.4	1	1	制御弁開	022
1.1.2.5	1	1	タンク1給水	023
1.1.3	1	1	起動系3	011
1.1.3.1	1	1	タンク1出口弁開	024
1.1.3.2	1	1	自動制御開始	025
1.1.3.2.1	1	1	制御弁(CV1)開度指示	028
1.2/1.5	2	2	緩和制御	005
1.3/1.6	2	2	緊急停止制御	006
1.3.1/1.4/1.6.1	3	2	停止制御	004
2	1	1	通常制御	008
2.1	1	1	制御操作	029
3	1	1	状態表示	012
3.1	1	1	ミミック表示	013
3.2	1	1	トレンド表示	014
3.3	1	1	状態表示	015

■新規作成

「単位機能名」テキストボックスに単位機能名を指定し、「新規」ボタンを押下して単位機能を新規作成します。

■削除

リストボックスで項目を選択し、「削除」ボタンを押下して単位機能を完全に削除します。

■選択

リストボックスで項目を選択すると、選択した単位機能の内容を表示します。

１２．　検査機能

検査機能は、記述の確認と論理的に不整合な記述を検出する機能です。

if 構文または switch 構文で条件を記述し、Do 構文でメンバー名の状態名を変化させています。
起点単位機能（最上位）から Do 構文に至る条件（if 構文または switch 構文）を順序に抽出します。その抽出した条件を、条件経路(パス)と呼びます。
条件経路の個々の条件は、すべて論理積で結合されています。
この条件経路を対象として、冗長・矛盾検査を行います。

■当該単位機能検査・全体検査

SLP 記述の構文規則、論理の冗長と矛盾を検査します。
当該単位機能検査は、編集中の単位機能のみ検査します。
全体検査は、すべての単位機能を検査します。
検査項目として、構文検査、冗長検査、矛盾検査、全項目検査があります。

検査項目説明

●構文検査

記述内容が SLP の構文規則に従っているか検査します。
検査内容は以下となります。

・「暫定」状態の単位機能
・メンバー名、状態名の未記述
・再帰呼び出しになる記述
・論理記述欄が未記載な機能名の記述
・if 構文、switch 構文内に、Do 構文、Fn 構文がない記述
・単位機能内に Do 構文、Fn 構文がない記述
・単位機能が存在しない機能名の記述

●冗長検査

記述内容が、論理的に冗長がないか検査します。
検査内容は以下となります。

注記：本ページ以降の検査機能の例で、「検査・検索等結果」欄に表示されている「意味関係の検出数」は、環境設定メニューによる文言設定のデフォルト値では「文どうしの関係の検出数」となります。

・冗長なケース１：
あるメンバー名の状態が変化していないのに、if 構文、switch 構文でそのメンバー名に対して同じ状態名を記述している場合で、その if 構文、switch 構文がなくとも問題ない場合。

【冗長なケース１の SLP 記述の例】

論理記述

```
1   (:------------------------
2   (:冗長ケース１
3   (:------------------------
4   if <警告ランプ>が{赤}
5       if <警告ランプ>が{赤}
6           Do<電源>を{遮断}せよ
7       else
8           Do nothing
9       endif
10  else
11      Do nothing
12  endif
```

【冗長検査の結果】

検査･検索等結果

```
=== 全体検査（全項目検査）開始 ===


―― 冗長な記述です ――
[0 Line 5]    if <警告ランプ>が{赤}
[0 Line 4] を参照してください

  探索した経路数         000000001
  構文検査の検出数       000000000
  冗長検査の検出数       000000001
  矛盾検査の検出数       000000000
  意味関係の検出数       000000000

=== 全体検査（全項目検査）終了 ===
```

・冗長なケース２：
if 構文の条件が、真の時も偽の時も同じ Do 構文を記述している場合、if 構文の外に Do 構文を記述できる場合。

【冗長なケース２の SLP 記述の例】

```
論理記述
1 (:------------------------
2 (:冗長ケース２
3 (:------------------------
4 if <室内温度>が{２８℃以上}
5     Do<エアコン運転モード>を{冷房}せよ
6 else
7     Do<エアコン運転モード>を{冷房}せよ
8 endif
```

【冗長検査の結果】

```
検査・検索等結果
=== 全体検査（全項目検査）開始 ===


―― 冗長な記述です ――
[0 Line 5]    Do<エアコン運転モード>を{冷房}せよ
[0 Line 7]    Do<エアコン運転モード>を{冷房}せよ
このDo構文は以下の条件が省略できます
[0 Line 4]    if <室内温度>が{２８℃以上}
[0 Line 6]    else

  探索した経路数          000000002
  構文検査の検出数        000000000
  冗長検査の検出数        000000001
  矛盾検査の検出数        000000000
  意味関係の検出数        000000000

=== 全体検査（全項目検査）終了 ===
```

・冗長なケース３：

同じ条件で同じ Do 構文を記述している場合。

【冗長なケース３の SLP 記述の例】

論理記述

```
1  (:------------------------
2  (:冗長ケース３
3  (:------------------------
4  if <水温>が{６０℃以上}
5      Do<加熱ヒーター>を{OFF}せよ
6  else
7      Do<加熱ヒーター>を{ON}せよ
8  endif
9  if <水温>が{￢６０℃以上}
10     Do<加熱ヒーター>を{ON}せよ
11 else
12     Do<加熱ヒーター>を{OFF}せよ
13 endif
```

【冗長検査の結果】

検査･検索等結果

```
=== 全体検査（全項目検査）開始 ===


—— 冗長な記述です ——
[0 Line 10]    Do<加熱ヒーター>を{ON}せよ
[0 Line 7]    Do<加熱ヒーター>を{ON}せよ
2つのDo構文は実行条件が同じです

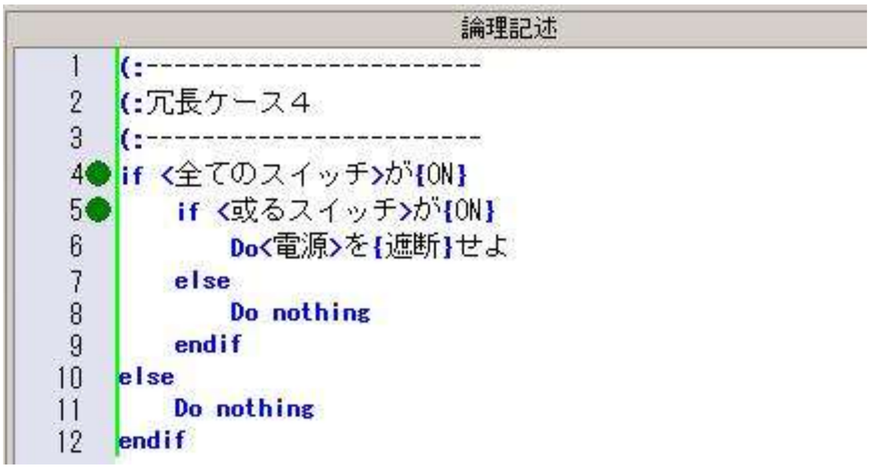
—— 冗長な記述です ——
[0 Line 12]    Do<加熱ヒーター>を{OFF}せよ
[0 Line 5]    Do<加熱ヒーター>を{OFF}せよ
2つのDo構文は実行条件が同じです

  探索した経路数          000000004
  構文検査の検出数        000000000
  冗長検査の検出数        000000002
  矛盾検査の検出数        000000000
  意味関係の検出数        000000000

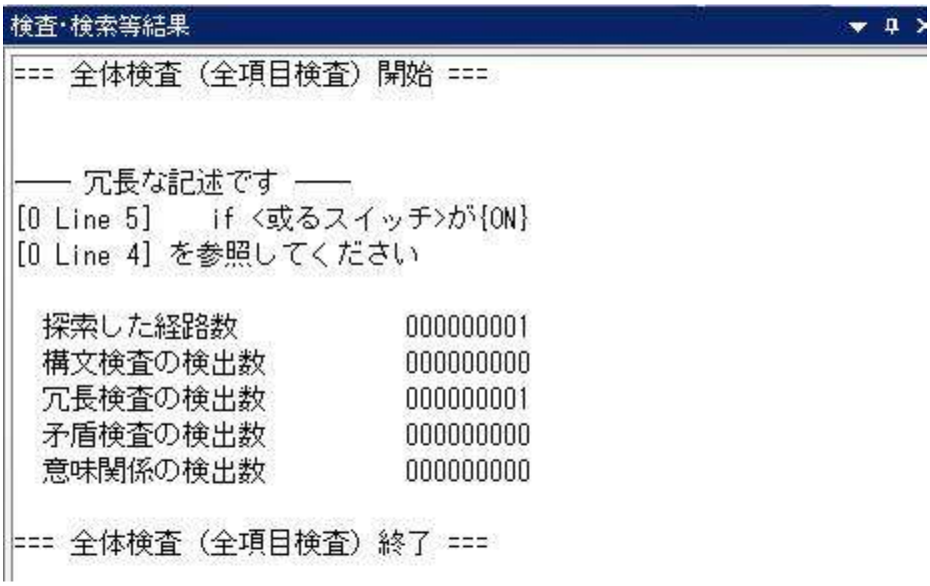
=== 全体検査（全項目検査）終了 ===
```

・冗長なケース４：
あるメンバー名で全ての要素に対しての状態を規定しているにもかかわらず、特定の要素について同じ状態名を記述している場合。

【冗長なケース４の SLP 記述の例】



【冗長検査の結果】



・冗長なケース５：
あるメンバー名で全ての要素に対しての状態を規定しているにもかかわらず、重複して論理的に同じ記述をした場合。

【冗長なケース５の SLP 記述の例】

```
論理記述
1  (:------------------------
2  (:冗長ケース５
3  (:------------------------
4  if <全てのスイッチ>が{ON}
5      if <或るスイッチ>が{¬ON}
6          Do nothing
7      else
8          Do<電源>を{遮断}せよ
9      endif
10 else
11     Do nothing
12 endif
```

【冗長検査の結果】

```
検査・検索等結果
=== 全体検査（全項目検査）開始 ===


―― 冗長な記述です ――
[0 Line 7]    else
[0 Line 4] を参照してください

  探索した経路数          000000001
  構文検査の検出数        000000000
  冗長検査の検出数        000000001
  矛盾検査の検出数        000000000
  意味関係の検出数        000000000

=== 全体検査（全項目検査）終了 ===
```

●矛盾検査

記述内容に論理的な矛盾がないか検査します。

・矛盾なケース１：

あるメンバー名の状態が変化していないのに if 構文、switch 構文でそのメンバー名に対して異なる状態名を記述している場合。

【矛盾なケース１の SLP 記述の例】

論理記述

```
1  (:------------------------
2  (:矛盾ケース１
3  (:------------------------
4  if <警告ランプ>が{赤}
5      if <警告ランプ>が{青}
6          Do<電源>を{遮断}せよ
7      else
8          Do nothing
9      endif
10 else
11     Do nothing
12 endif
```

【矛盾検査の結果】

検査・検索等結果

```
=== 全体検査（全項目検査）開始 ===


―― 矛盾の可能性があります ――
[0 Line 5]    if <警告ランプ>が{青}
[0 Line 4] を参照してください

  探索した経路数           000000001
  構文検査の検出数         000000000
  冗長検査の検出数         000000000
  矛盾検査の検出数         000000001
  意味関係の検出数         000000000

=== 全体検査（全項目検査）終了 ===
```

・矛盾なケース２：
メンバー名が同じで状態名が異なる Do 構文において、条件経路がまったく同じである記述の場合。

【矛盾なケース２の SLP 記述の例】

論理記述

```
1  (:------------------------
2  (:矛盾ケース２
3  (:------------------------
4  if <室内温度>が{２８℃以上}
5      Do<エアコン運転モード>を{冷房}せよ
6  else
7      Do<エアコン運転モード>を{送風}せよ
8  endif
9  if <室内温度>が{２８℃以上}
10     Do<エアコン運転モード>を{除湿}せよ
11 else
12     Do<エアコン運転モード>を{停止}せよ
13 endif
```

【矛盾検査の結果】

検査・検索等結果

```
=== 全体検査（全項目検査）開始 ===


―― 不整合な記述の可能性があります ――
[0 Line 10]    Do<エアコン運転モード>を{除湿}せよ
[0 Line 5]    Do<エアコン運転モード>を{冷房}せよ

―― 不整合な記述の可能性があります ――
[0 Line 12]    Do<エアコン運転モード>を{停止}せよ
[0 Line 7]    Do<エアコン運転モード>を{送風}せよ

  探索した経路数          000000004
  構文検査の検出数        000000000
  冗長検査の検出数        000000000
  矛盾検査の検出数        000000002
  意味関係の検出数        000000000

=== 全体検査（全項目検査）終了 ===
```

・矛盾なケース３
あるメンバー名で全ての要素に対しての状態を規定しているにもかかわらず、その条件内で当該メンバー名に対して他の状態名を記述している場合。

【矛盾なケース３の SLP 記述の例】

論理記述

```
1  (:-----------------------
2  (:矛盾ケース３
3  (:-----------------------
4  if <全てのスイッチ>が{ON}
5      if <或るスイッチ>が{OFF}
6          Do<電源>を{遮断}せよ
7      else
8          Do nothing
9      endif
10 else
11     Do nothing
12 endif
```

【矛盾検査の結果】

検査･検索等結果

```
=== 全体検査（全項目検査）開始 ===


—— 矛盾の可能性があります ——
[0 Line 5]     if <或るスイッチ>が{OFF}
[0 Line 4] を参照してください

  探索した経路数          000000001
  構文検査の検出数        000000000
  冗長検査の検出数        000000000
  矛盾検査の検出数        000000001
  意味関係の検出数        000000000

=== 全体検査（全項目検査）終了 ===
```

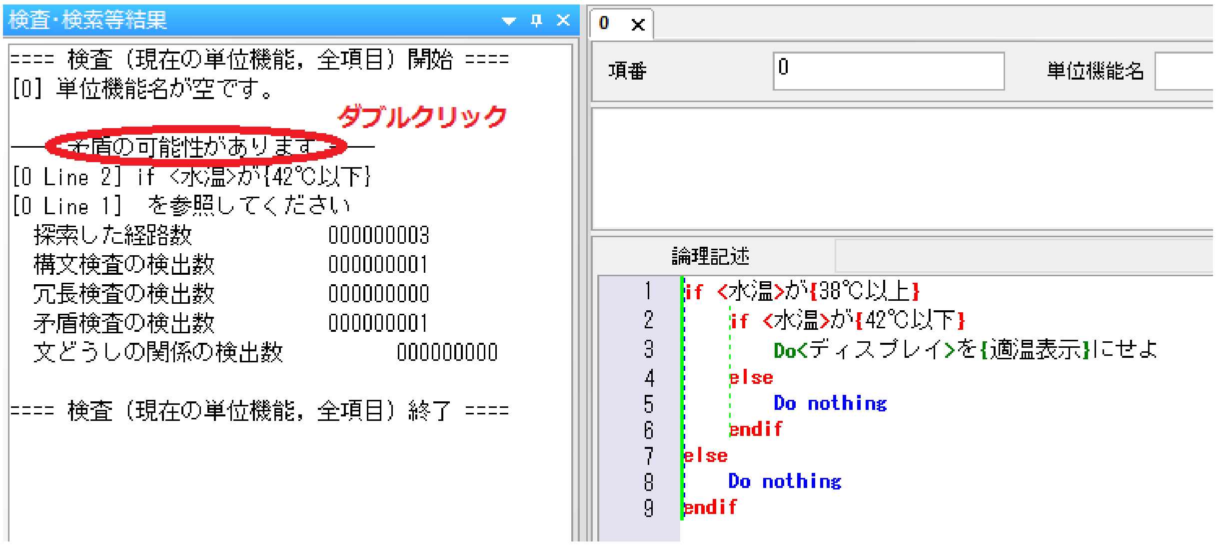
●全項目検査
構文検査、冗長検査、矛盾検査を行います。

■メンバー属性無矛盾化設定

矛盾検査において、文字列の比較で矛盾判定しています。矛盾がない通常文を SLP で記述することで、矛盾と判定される場合があります。その場合に、パターンを登録することで、矛盾検査で無矛盾として判定します。

【メンバー属性無矛盾化設定の例】

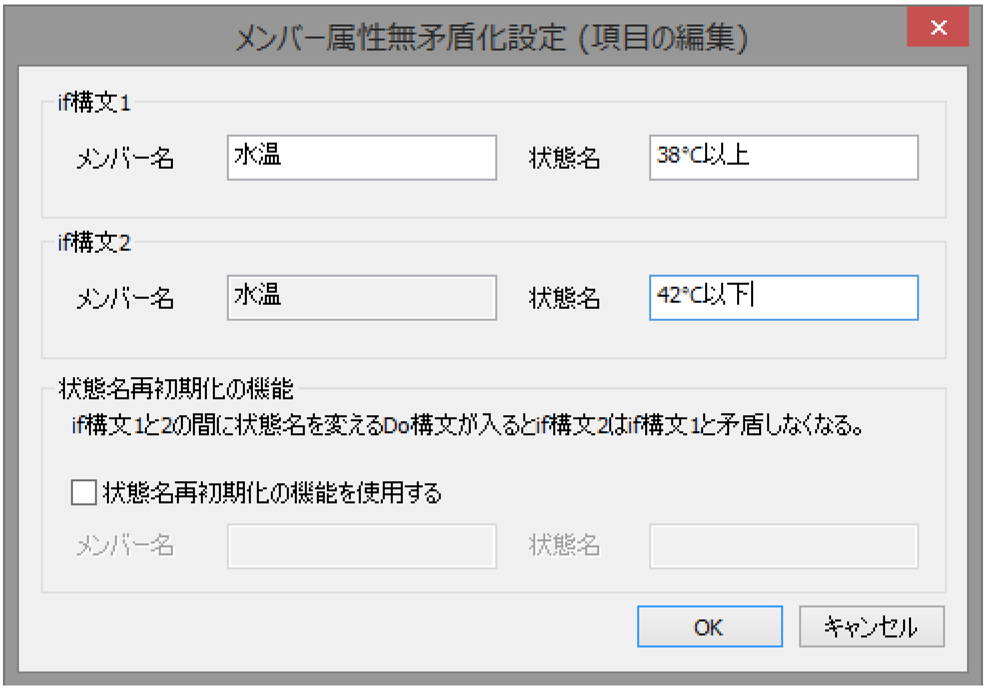
メンバー名“水温”に、条件として異なる状態名“38℃以上”（条件１）と“42℃以下”（条件２）としているため、矛盾として検査結果に表示されます。本来は、“水温”が“38℃以上”かつ“42℃以下”の条件で、矛盾ではないです。これは、矛盾検査において、文字列の比較で矛盾判定しているからです。このような場合、検査結果のメッセージをダブルクリックして、メンバー属性無矛盾化設定を行い、矛盾があると判定されないようにできます。



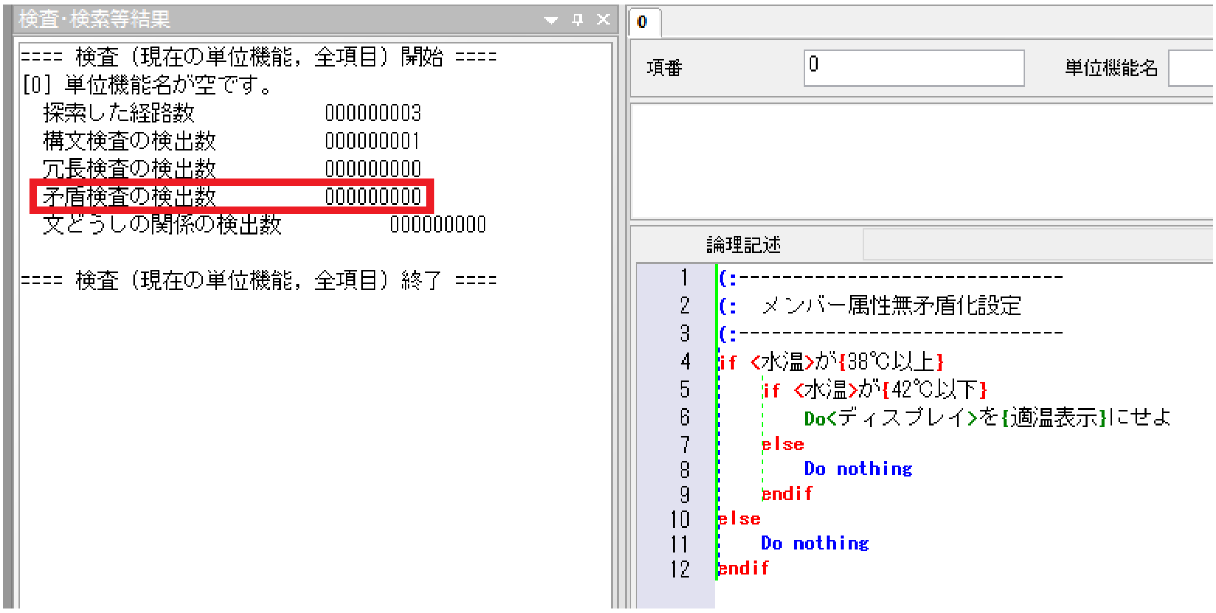
パターンの登録方法

矛盾検査のメッセージをダブルクリックすると､「メンバー属性無矛盾化設定ダイアログ」が条件 1、条件 2 が入力された状態で開きます。そこで、「OK」ボタンを押下すればパターンが登録できます。

詳細な登録方法は、「メンバー属性無矛盾化設定ダイアログ」の説明を参照してください。



メンバー属性無矛盾化設定することにより、以下のように矛盾検出されないようになります。



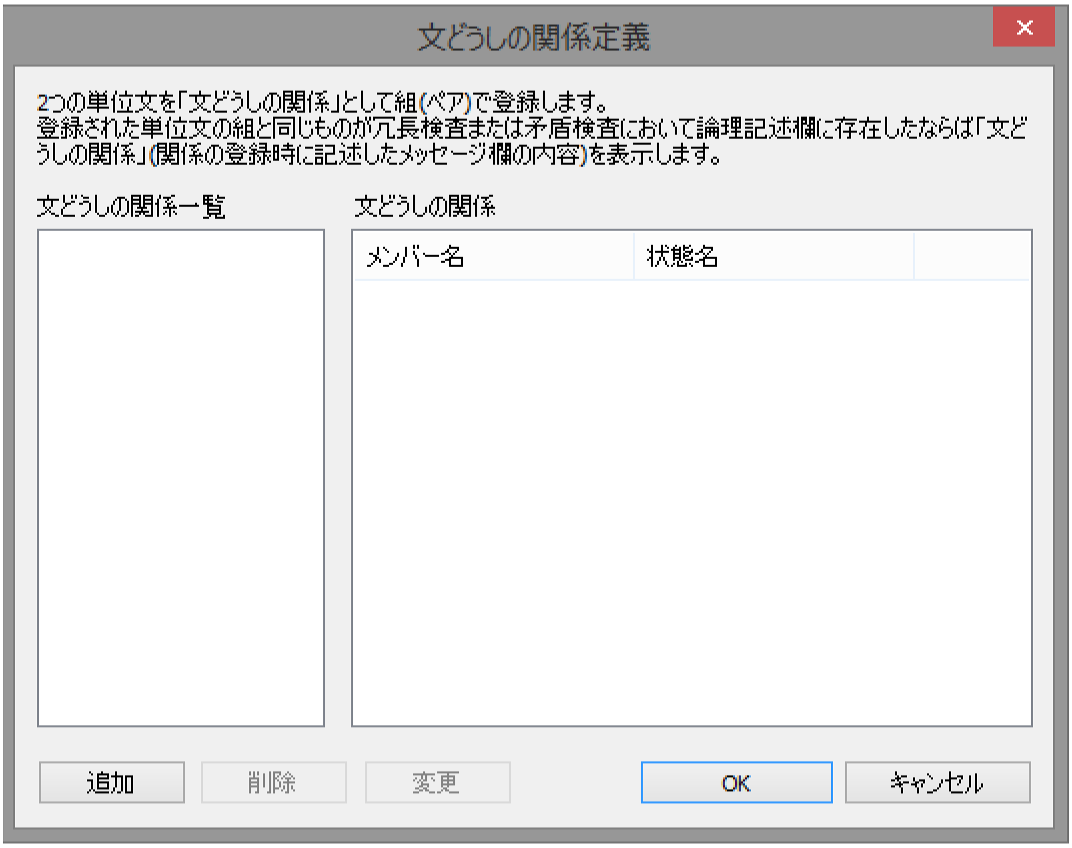
■文どうしの関係設定機能

ユーザーが任意の記述パターンに対して、矛盾検査で検出させることができます。また、検出した場合、メッセージを任意に設定できます。

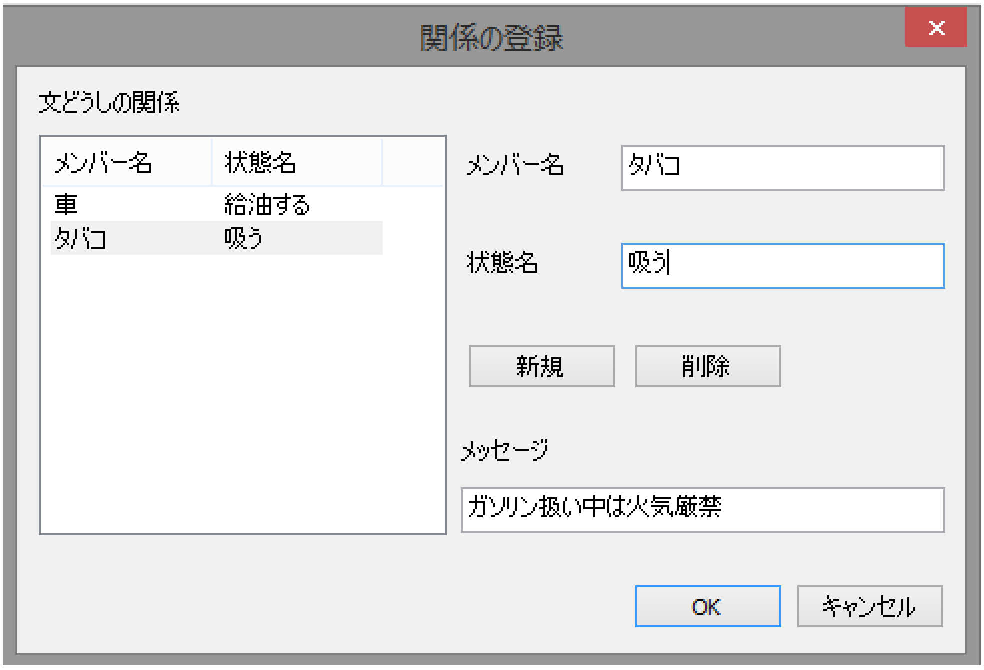
不整合な記述を検出するための文どうしの関係設定機能
(メニューー[意味設定]-[文どうしの関係定義])
「文どうしの関係定義ダイアログ」から任意のパターンを登録します。
登録の詳細は、「文どうしの関係定義ダイアログ」の説明を参照してください。

【文どうしの関係定義の例】
メンバー名“車”、状態名“給油する”の条件文（if 構文）に対して、Do 構文のメンバー名“タバコ”、状態名“吸う”とする、明らかに“ガソリンの給油中に、タバコを吸う”は、危険性のある行為です。このような場合、「文どうしの関係定義ダイアログ」から、パターンを登録して、検査結果のメッセージを設定します。この例の場合、メッセージは“ガソリン扱い中は火気厳禁”と設定することにします。

文どうしの関係定義ダイアログから「追加」で関係のパターンを登録します。

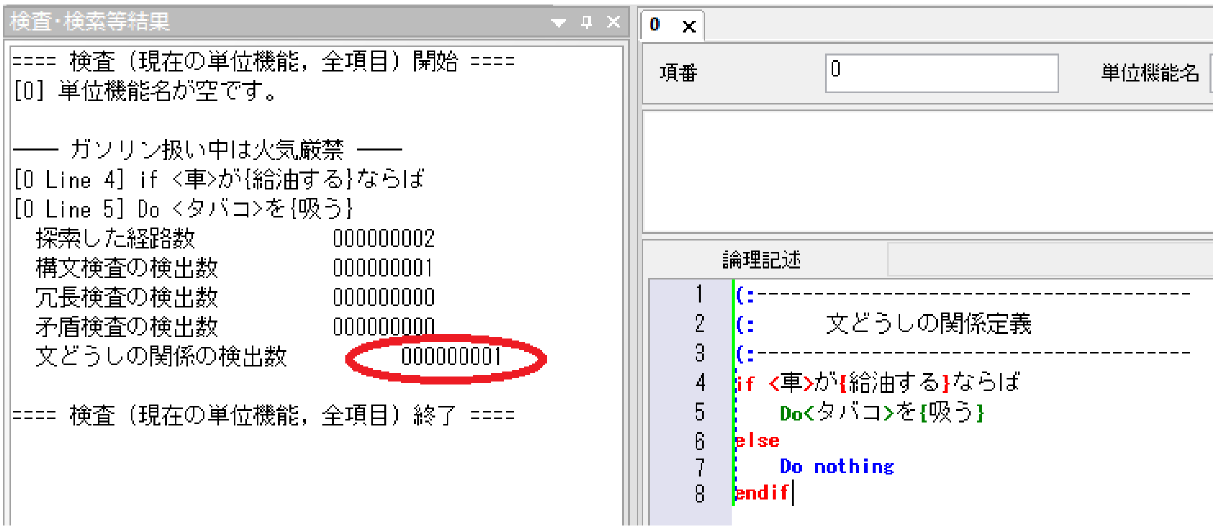


例では、メンバー名“車”、状態名“給油する”とメンバー名“ダバコ”、状態名“吸う”のパターンを追加します。



例では、メンバー名“車”、状態名“給油する”とメンバー名“ダバコ”、状態名“吸う”のパターンを、矛盾検査で検出した場合のメッセージを“ガソリン扱い中は火気厳禁”と設定しています。

矛盾検査で、文どうしの関係定義で設定されたパターンは、検出されるようになります。
以下に例を示します。



■条件の論理性と用語の確認（構文化決定表作成）

SLP 記述を、条件記述（if 構文、switch 構文）と結論記述(Do 構文)で分類し、各結論記述に関連している条件をそれぞれ抽出して構文化決定表を作成します。論理的に最適化をして、冗長な条件文を全て消去して作成することもできます。

「条件の論理性と用語の確認」で、以下の構文化決定表の形式が指定できます。
（メニュー[検査]-[条件の論理性と用語の確認]）

・条件記述の向きが行で、結論記述の位置が先頭
・条件記述の向きが行で、結論記述の位置が末尾
・条件記述の向きが列で、結論記述の位置が先頭
・条件記述の向きが列で、結論記述の位置が末尾

「条件の論理性と用語の確認」では、構文化決定表作成の対象範囲、冗長を省く、出力ファイル名が選択できます。
指定したファイル名で構文化決定表が作成され、ファイル形式は CSV 形式です。

・「OK」ボタン：構文化決定表が CSV 形式で作成されます。
・「キャンセル」ボタン：キャンセルされ、ダイアログ ボックスを閉じます。

■条件順序性確認

既存の要求仕様書を SLP の論理記述欄を使って書き直すには、まず前件と後件に分割する必要があります。
本機能は、前件と後件の対応関係を出力し、確認する機能です。
前件は出現時間順に、順序性を持って出力されます。
作業の過程で、これらを確認するために使用します。

■意図・理由有無検査

本機能は、単位機能の意図・理由の入力が行われているか、行われていないかを検査する機能です。
（メニュー[検査]-[意図・理由有無検査]）

意図・理由が入力されておらず、なおかつ、「意図・理由を省略する」チェックボックスが OFF になっている単位機能があると、意図・理由有無検査で検出されます。「意図・理由」テキストボックスと「意図・理由を省略する」チェックボックスは 単位機能ヘッダー欄にあります。意図・理由有無検査の結果は「検査・検索等結果」ウィンドウに表示されます。

■語句検査－曖昧検査

すべての単位機能を対象として、曖昧語辞書に登録されている文字列を含むメンバー名・状態名を検索します。
（メニュー[検査]-[曖昧語検索]）

すべての単位機能の論理記述欄のメンバー名、状態名に対して、すべての曖昧語を検索します。
機能内容欄からの検索も選択できます。
検索結果は「検査結果・検索等結果」ウィンドウに出力されます。
曖昧語の登録に関しては、[検査]-[曖昧語検索]ダイアログを参照して下さい。

■語句検査－類似検査

すべての単位機能を対象として、類似しているメンバー名・状態名を検索します。
（メニュー[検査]-[類似語検索]）

本来は一意のメンバーを、異なったメンバー名で記述していないか、つまり記述の誤記や統一性を確認することができます。

●類似の判断基準は文字列の一致率よって判断します。
文字列の先頭から調べて、全体の一致率が規定値以上なら類似と判断します。

●類似語が規定値以上になると検査を終了します。
未登録のメンバー名・状態名につては、使用されている項番と行番号も
表示します。

●論理記述欄に記述してあるメンバー名、状態名に関して比較します。
状態名に関しては、メンバー名が同じ場合のみ、比較します。

■検査機能のメッセージ一覧

検査項目	メッセージ	説明
記述内容の確認 ーDo・Fn の条件を確認する	メッセージが 10000 を超えましたの記述内容の確認を中断します	メッセージが 10000 を超える場合には中断します。
	未定の単位機能が存在するため、記述内容の確認を中断します	未定の単位機能が経路上に存在する場合、経路が起点単位機能までさかのぼれないため処理を続けることはできません。 未定の単位機能をなくしてから、再度実行して下さい。
	[1 LINE:6]　　Do<メンバー名>{状態名}	Do、または Fn の記述箇所です。このメッセージ以降の実行条件が表示されます。
記述内容の確認 ー当該単位機能内のすべての Do・Fn の条件を確認する	--　＊セパレータ	実行条件をセパレータで区切っています。セパレータで挟まれた箇所が実行条件になります。
記述内容の確認 ーメンバー名・状態名を確認する	[1 LINE:6]　　Do<メンバー名>{状態名}	指定メンバー名・状態名の記述箇所です。単位機能の項番と論理記述欄の行番号で示しています。
構文検査	[0]　　単位機能名が空です	Fn 構文に機能名が記述されていません。機能名を記述してください。
	[0 Line 1]　　Fn 構文が暫定です	当該単位機能が暫定です。確定にして下さい。
	[:2 LINE:3]　　Fn[　]（1）　（機能名が記述されていません）	Fn 構文に機能名が記述されていません。機能名を記述してください。
	[:5 LINE:12]　　Fn[　論理記述　Name　]（1）　（再帰呼び出しはできません）	Fn 構文を再帰的に記述することはできません。機能名を変更して下さい。
	[:2 LINE:35]　　Fn[　論理記述　Name　]（1）　（本 Fn の論理記述欄が記述されていません）	Fn 構文で記述された単位機能の論理記述欄が記載されていません。単位機能の論理記述欄を記載して下さい。
	[12 LINE:3　　if<>{}　　（メンバー名または状態名が記述されていません）	メンバー名、または状態名が記述されていません。
	[12 LINE:1]　　if <メンバー名>{状態名}　　（Do・Fn 構文が記述されていません）	if、switch 構文内に Do、Fn 構文が記述されていません。Do、または Fn 構文を記述して下さい。
	[13 LINE:5]　　else　　（有効な記述がありません）	if-else 間、else-if 間、case 間、elsw-endsw 間に、Do、Fn、next、exitlp 構文が記述されていせん。Do、Fn、next、exitlp　構文のいずれかを記述して下さい。
	[:3 LINE:1]　　当該単位機能内に Do・Fn 構文が記述されていません	当該単位機能内に　Do.、Fn　構文が記載されていません。Do、または　Fn 構文を記述して下さい。
	[:3 LINE:1]　　Fn[　論理記述　Name　]（2）　（単位機能が存在しません）	機能名に一致する単位機能が存在しません。機能名を変更して下さい。
冗長検査	――　冗長な記述です　――	このメッセージ以降の記述が冗長です。
	2つの Do 構文は実行条件が同じです	2つの Do 構文は実行条件が同じなので、同じ構文内に記述することができます。

	この Do 構文は以下の条件が省略できます	この Do 構文は、このメッセージの次の条件を省略して記述することができます。
矛盾検査	―― 矛盾の可能性があります ――	このメッセージ以降の記述は、同一のメンバー名に対して、違う状態名をとるので、矛盾している可能性があります。記述を修正して下さい。 ※可能性とは、文字列の比較では矛盾だが、文としては矛盾していない場合です。その場合は、メンバー属性無矛盾化設定に追加して下さい。詳細はメンバー属性無矛盾化設定を参照して下さい。
	―― 矛盾しています ――	このメッセージ以降の記述は、同じ実行条件にもかかわらず、違う状態名をとるので、矛盾しています。記述を修正して下さい。
	―― 文どうしの関係定義メッセージ ――	このメッセージは、文どうしの関係定義時に登録してある記述です。
意図・理由有無検査	単位機能ヘッダーに意図・理由を記入するか、「意図・理由を省略する」チェックボックスを ON にしてください。	このメッセージの単位機能には、意図・理由の記入がありません。

１３．　工程間連携機能

SLP には、下記の工程間連携の機能があります。

■テスト仕様原案作成

SLP 文書に記述された機能を、テスト仕様として作成します。
「確定」状態の単位機能から、各期待される動作(Do 構文)に関連する条件(if 構文、switch 構文)を抽出して、テスト仕様を出力します。
テスト仕様は、テストケースから構成されます。
テストケースは、試験番号、原要求項目識別子、単位機能の項番、単位機能名、試験手順（シナリオ)、期待される動作（結果）の項目があります。

（メニュー[工程間連携]-[テスト仕様原案作成]）
「名前を付けて保存ダイアログ」が表示されますので、テスト仕様を出力するファイル名を指定します。
指定したファイル名で、テスト仕様が作成されます。
ファイル形式は CSV 形式です。

- ・「OK」ボタン：テスト仕様が CSV ファイル形式で作成されます。
- ・「キャンセル」ボタン：操作内容はキャンセルされ、ダイアログボックスを閉じます。

■要求トレース表作成

要求トレーサビリティの実現に対応します。
原要求項目識別子（要求仕様）と各開発工程（仕様書、変更履歴、テストや障害の記録、ソースコード（バージョン)）を相互に関連付け、ある変更や欠陥がどの開発工程にどう影響しているかを追跡できます。

トレーサビリティ項目として下記から選択します。
（メニュー[工程間連携]-[要求トレース表作成]）

●要求トレーサビリティマトリックスのエクスポート
（メニュー[工程間連携]-[要求トレース表作成]-[エクスポート]）
原要求項目識別子と単位機能の対応表を CSV 形式ファイルにエクスポートします。
エクスポートした CSV 形式ファイルを編集して、原要求項目識別子をインポートすることができます。

●要求トレーサビリティマトリックスのインポート
（メニュー[工程間連携]-[要求トレース表作成]-[インポート]）
CSV 形式ファイルから原要求項目識別子をインポートします。
インポートする CSV 形式ファイルは、エクスポートで出力されたファイルの形式を使用して下さい。
トレーサビリティマトリックスのフォーマットが一致しないと正しくインポートされません。
CSV ファイルに一致する単位機能の項番があるものだけ、原要求項目識別子が変更されます。
環境設定のトレーサビリティで階層を指定すると、指定階層のみインポートされます。
インポートされた単位機能の原要求項目識別子は、「検査・検索等結果」ウィンドウに出力されます。
原要求項目識別子と単位機能の対応は、一対一にして下さい。

●原要求項目識別子一覧表示
（メニュー[工程間連携]-[要求トレース表作成]-[一覧を表示]）
原要求項目識別子と単位機能の対応の一覧を､｢検査･検索等結果｣ウィンドウに出力します。

■工程マトリックス表作成

縦軸を単位機能、横軸を工程とする工程管理用の表を作成します。
（メニュー[工程間連携]-[工程マトリックス表作成]）

●ファイル名
作成する工程マトリックス表のファイル名を指定します。
●対象とする項目
工程マトリックス表の縦軸の項目を選択します。｢原要求項目識別子と単位機能｣｢原要求項目識別子｣「単位機能」から選択できます。
●工程一覧
「工程一覧」リストボックスで指定した項目が工程マトリックスの横軸に記載される工程名として表示されます。
●「OK」ボタン
「工程一覧」リストボックスで選択した工程名を変更します。
●「デフォルト」ボタン
「工程一覧」リストボックスで選択した工程名をデフォルトに戻します。

■機能属性表作成

機能属性の内容を確認します。
機能属性する項目として下記から選択します。
（メニュー[工程間連携]-[機能属性表作成]）

●機能属性一覧のエクスポート
（メニュー[工程間連携]-[機能属性表作成]-[エクスポート]）

機能属性と単位機能の対応表を CSV 形式ファイルにエクスポートします。
エクスポートした CSV 形式ファイルを編集して、機能属性をインポートすることができます。

●機能属性一覧のインポート
（メニュー[工程間連携]-[機能属性表作成]-[インポート]）

CSV 形式ファイルから機能属性をインポートします。
インポートする CSV 形式ファイルは、機能属性一覧のエクスポートでエクスポートしたファイルを使用して下さい。
機能属性一覧のフォーマットが一致しないと正しくインポートされません。
CSV 形式のファイルに一致する単位機能の項番があるもは、機能属性が変更されます。
追加された機能属性と、インポートされた単位機能の機能属性は、「検査・検索等結果」ウィンドウに出力されます。機能属性と単位機能の対応は一対一にして下さい。
原要求項目識別子と各工程との対応のマトリックスをエクスポートします。

●一覧表示
（メニュー[工程間連携]-[機能属性表作成]-[一覧表示]）
機能属性と単位機能の対応を、「検査・検索等結果」ウィンドウに出力します。

１４．　検討過程プロット機能

SLP には、下記の検討過程プロット機能があります。

■マーク機能
（メニュー[検討過程プロット]-[検討過程名設定]）
単位機能の論理記述欄の各行に、属性をマークすることができます。
論理記述欄の行番号・行マーク表示部分を、マウスの右クリックでポップアップメニューであるコンテキストメニューが表示され、マークする属性を選択することができます。
属性をマークすることで、特定の対象とすることができます。
属性は、「検討過程名設定」で変更できます。
属性のマークのアイコン形状や色は、「検討過程名設定」で選択できます。
属性は、「検討過程名設定」でグループ分け（最大 16 グループ）できます。

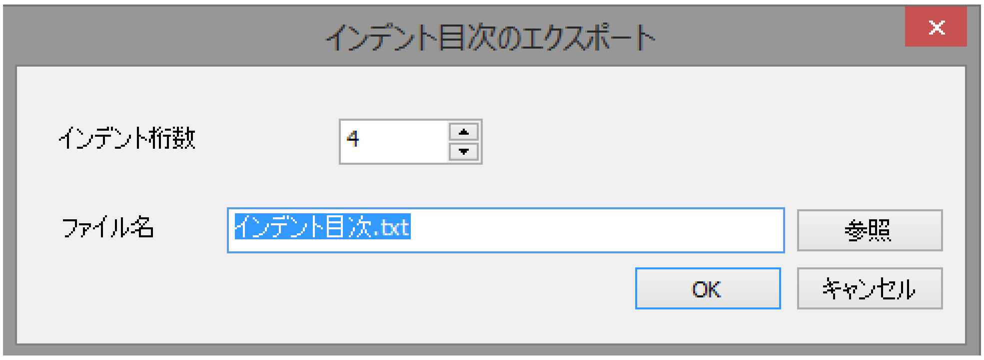
属性のデフォルトは、以下となります。

・考え中
・迷ってる
・ひとまず保留
・もっと調べよ
・意見を聞け
・レビューせよ
・定義し直せ
・Fn 構文は暫定追加のものです
・量化記号があります
・量化記号にエラーがあります
・属性 11
・属性 12
・属性 13
・属性 14
・属性 15
・属性 16

■マーク内容
属性をマークした行に、マーク内容（情報）を付加することができます。
論理記述欄の行番号・行マーク表示部分のマークのアイコンを、マウスの右クリックでポップアップメニューであるコンテキストメニューが表示され、マーク内容の編集操作を選択することができます。
なお、「検討過程名設定」の設定より、表示されるコンテキストメニューの内容は変わります。

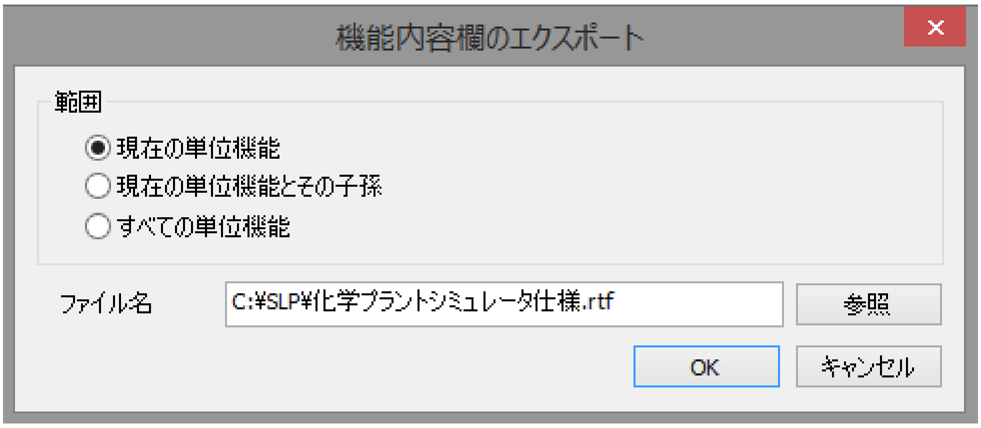
１５．　各ダイアログの詳細説明

■ダイアログ名　　：インデント目次のエクスポート
■メニュー　　　　：[ファイル]-[他ファイルへの出力]-[インデント目次のエクスポート]
■機能概要　　　　：インデント目次をテキストファイル形式でエクスポートします
■各項目説明　　　：



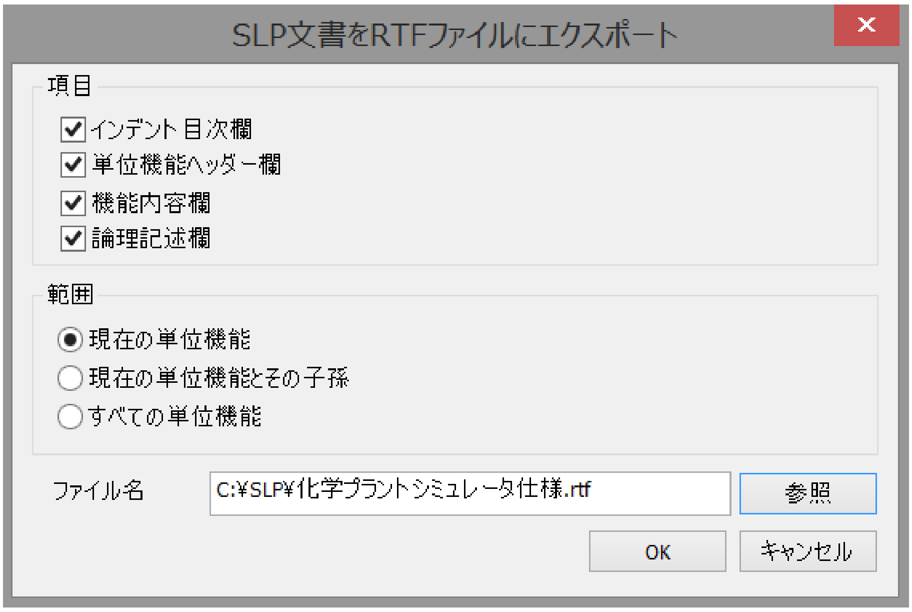
● 「インデント桁数」テキストボックス
　インデントする桁数を指定します。
● 「ファイル名」テキストボックス
　インデント目次をエクスポートするファイル名を指定します。
● 「参照」ボタン
　インデント目次をエクスポートするファイル名を、Windows の「名前を付けて保存」ウィンドウで選択します。
● 「OK」ボタン
　インデント目次をファイルにエクスポートします。
● 「キャンセル」ボタン
　「インデント目次のエクスポート」ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：機能内容欄のエクスポート
■メニュー　　　：[ファイル]-[他ファイルへの出力]-[機能内容欄のエクスポート]
■機能概要　　　：単位機能の機能内容欄を RTF (Rich Text Format) ファイルにエクスポートする機能です。
■各項目説明　　：



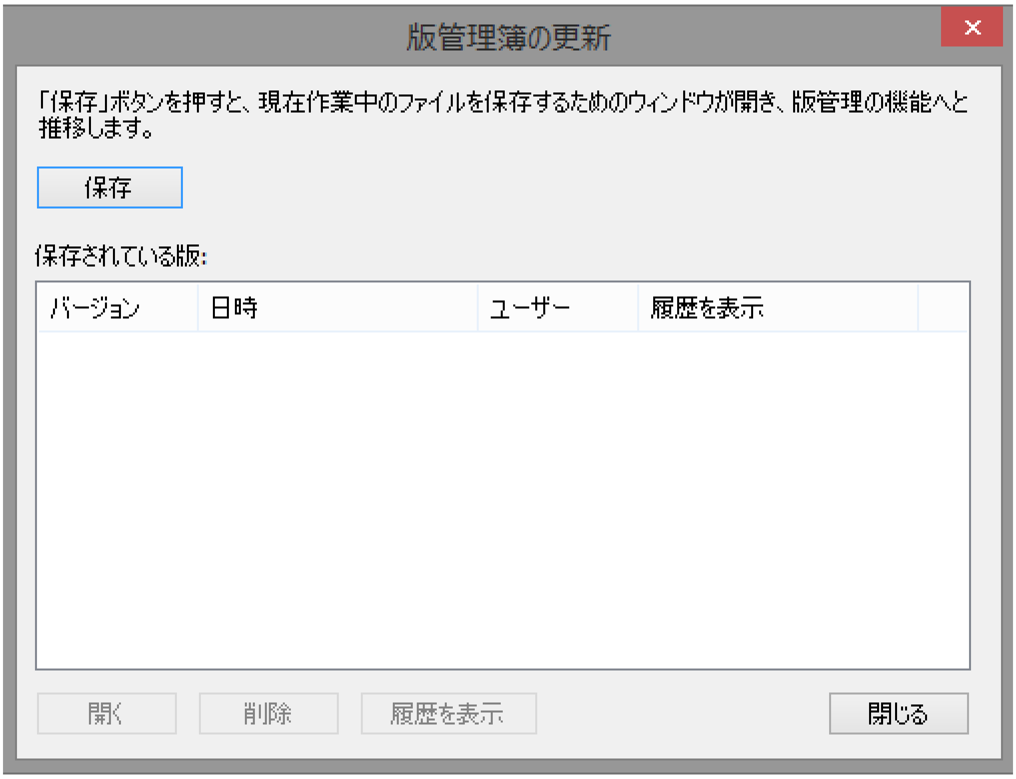
●範囲：「現在の単位機能」ラジオボタン
現在の単位機能のみをエクスポートします。
●範囲：「現在の単位機能とその子孫」ラジオボタン
現在の単位機能とその子孫のみをエクスポートします。
●範囲：「すべての単位機能」ラジオボタン
すべての単位機能をエクスポートします。
●「ファイル名」テキストボックス
機能内容欄をエクスポートするファイル名を指定します。
●「参照」ボタン
機能内容欄をエクスポートするファイル名を、Windows の「名前を付けて保存」ウィンドウで選択します。
●「OK」ボタン
単位機能の機能内容欄を RTF (Rich Text Format) ファイルにエクスポートします。
●「キャンセル」ボタン
「機能内容欄のエクスポート」ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：SLP文書をRTFファイルにエクスポート
■メニュー　　　　：[ファイル]-[他ファイルへの出力]-[SLP 文書を RTF ファイルにエクスポート]
■機能概要　　　　：選択された項目欄を RTF (Rich Text Format) ファイルにエクスポートする機能です。
■各項目説明　　　：



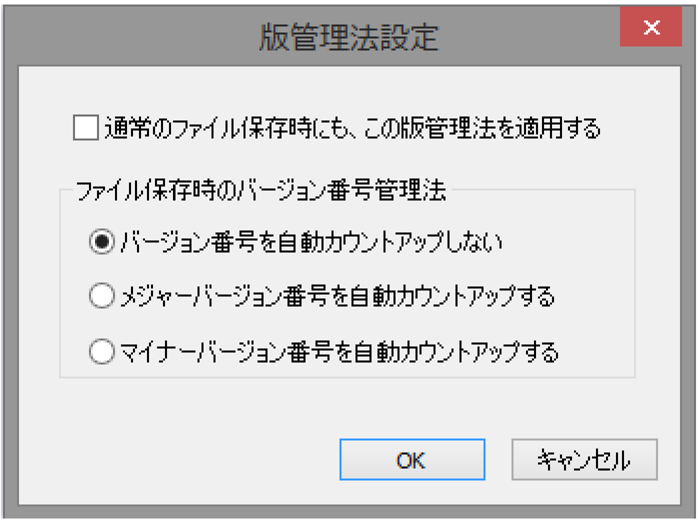
●項目：「インデント目次欄」チェックボックス
　インデント目次欄を選択します。
●項目：「単位機能ヘッダー欄」チェックボックス
　単位機能ヘッダー欄を選択します。
●項目：「機能内容欄」チェックボックス
　機能内容欄を選択します。
●項目：「論理記述欄」チェックボックス
　論理記述欄を選択します。
●範囲：「現在の単位機能」ラジオボタン
　現在の単位機能のみをエクスポートします。
●範囲：「現在の単位機能とその子孫」ラジオボタン
　現在の単位機能とその子孫のみをエクスポートします。
●範囲：「すべての単位機能」ラジオボタン
　すべての単位機能をエクスポートします。
●「ファイル名」テキストボックス
　ファイル名を指定します。
●「参照」ボタン
　エクスポートするファイル名を、Windows の「名前を付けて保存」ウィンドウで選択します。
●「OK」ボタン
　単位機能の機能内容欄を RTF (Rich Text Format) ファイルにエクスポートします。
●「キャンセル」ボタン
　「SLP 文書を RTF ファイルにエクスポート」ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：版管理簿の更新
■メニュー　　　：[ファイル]-[版の管理]-[版管理簿の更新]
■機能概要　　　：SLP 文書の版数を更新して保存します。
　　　　　　　　　一つの SLP 文書で 10 版まで保存できます。
■各項目説明　　：



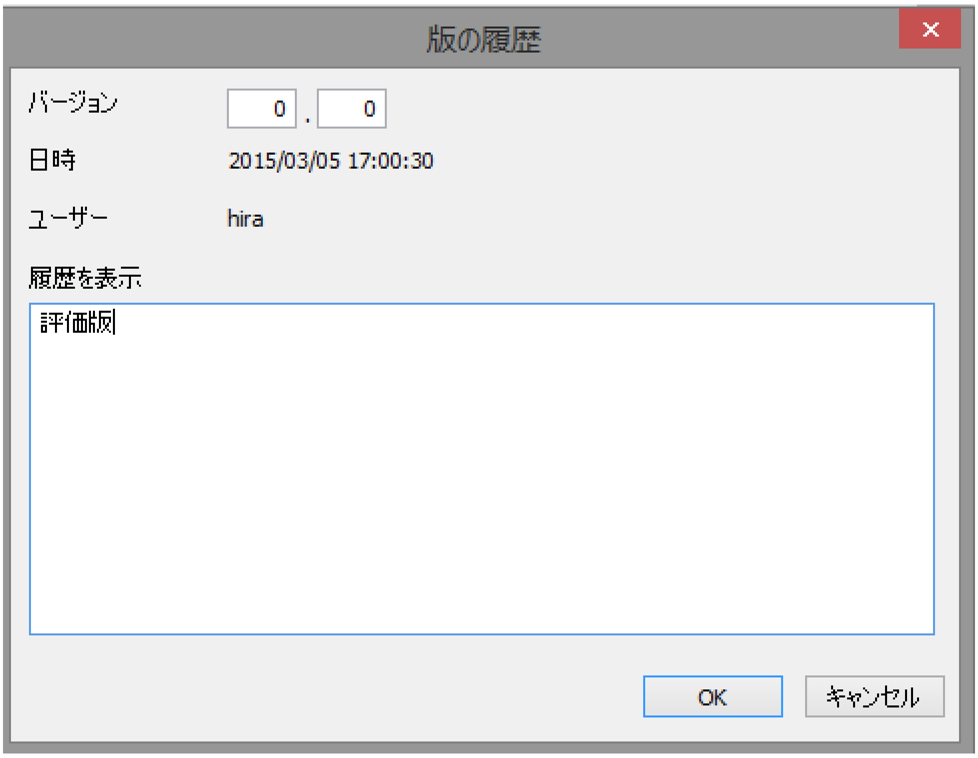
● 「保存」ボタン
SLP 文書の現在の状態を、別の版として保存します。 ボタンを押下すると、版の履歴入力ダイアログを表示します。
版の履歴入力ダイアログで、版に関する履歴を入力して、他の版と区別します。
● 「保存されている版」リストボックス
現在の SLP 文書で保存されている版の一覧をリスト表示します。
表示する版の内容は、バージョン、保存日時、保存担当者、および履歴です。
● 「開く」ボタン
「保存されている版」リストで選択した版を開きます。
この機能で開いた版を別 SLP 文書として保存する場合は、メニュー[ファイル] - [名前を付けて保存] を選択して、別のファイル名で保存します。
● 「削除」ボタン
「保存されている版」リストで選択した版を削除します。
削除されるのはこの版のみで、SLP 文書自体は削除されません。
● 「履歴を表示」ボタン
「保存されている版」リストで選択した版の履歴のすべてを表示します。(版の履歴表示ダイアログを開きます)
● 「閉じる」ボタン
「版管理簿の更新」ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：版管理法設定
■メニュー　　　　：[ファイル]-[版の管理]-[版管理法設定]
■機能概要　　　　：バージョン番号の更新方法を指定します。
■各項目説明　　　：



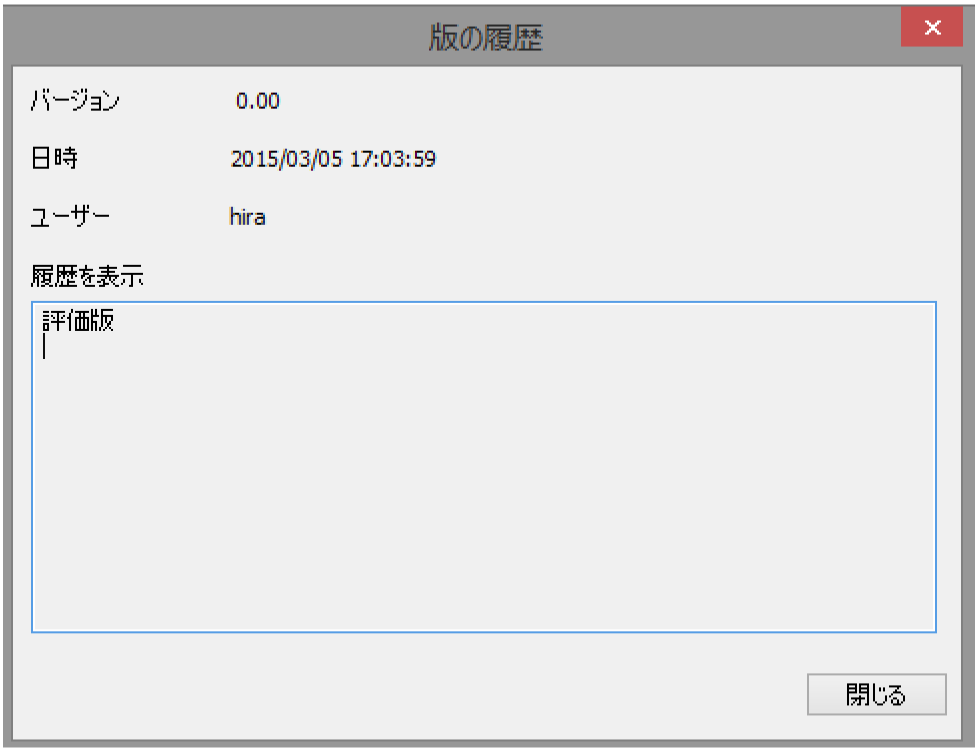
●「通常のファイル保存時にも、この版管理法を適用する」チェックボックス
ファイルの保存時に版管理法を利用する場合にはこのチェックボックスを ON にします。
●ファイル保存時のバージョン番号管理法:「バージョン番号を自動カウントアップしない」ラジオボタン
保存時にバージョン番号をカウントアップしない時はこれを選択します。
●ファイル保存時のバージョン番号管理法：「メジャーバージョン番号を自動カウントアップする」ラジオボタン
保存時にメジャーバージョン番号をカウントアップする時はこれを選択します。
●保存時のバージョン更新方法：「マイナーバージョン番号を自動カウントアップする」ラジオボタン
保存時にマイナーバージョン番号をカウントアップする時はこれを選択します。
●「OK」ボタン
変更内容で版を保存し、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容で版を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：版の履歴
■メニュー　　　：[ファイル]-[版の管理]-[版管理簿の更新]-[保存]
■機能概要　　　：版数に関する履歴を入力します。
■各項目説明　　：



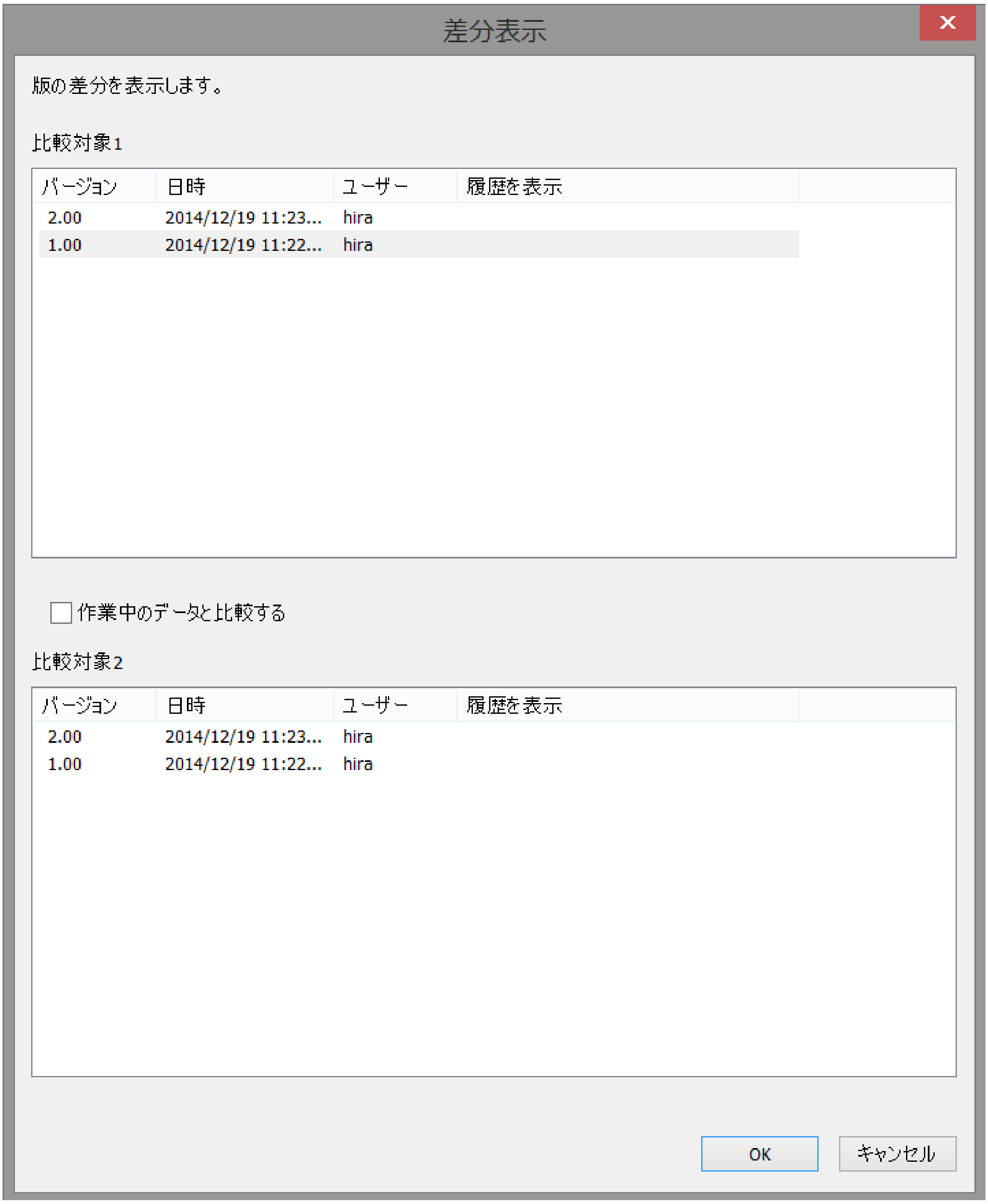
●「バージョン」テキストボックス
　メジャーバージョン番号とマイナーバージョン番号を入力します。
　保存後には、バージョンを変更することはできません。
●日時
　保存する版の保存日時を表示します。
●ユーザー
　保存する版の保存担当者を表示します。
●「履歴を表示」テキストボックス
　保存する版への履歴を入力します。
　保存後には、履歴を変更することはできません。
●「OK」ボタン
　変更内容で版を保存し、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容で版を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：版の履歴
■メニュー　　　：[ファイル]-[版の管理]-[版管理簿の更新]-[履歴を表示]
■機能概要　　　：保存されている版リストで選択した版の履歴をすべて表示します。
■各項目説明　　：



●バージョン
保存されている版リストで選択した版のバージョンを表示します。
●日時
保存されている版リストで選択した版の保存日時を表示します。
●ユーザー
保存されている版リストで選択した版の保存担当者を表示します。
●「履歴を表示」リストボックス
保存されている版リストで選択した版の履歴をすべて表示します。
履歴を変更することはできません。
●「閉じる」ボタン
「版の履歴」ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：差分表示
■メニュー　　　：[ファイル]-[版の管理]-[差分表示]
■機能概要　　　：指定した版どうしの差分を表示します。
■各項目説明　　：

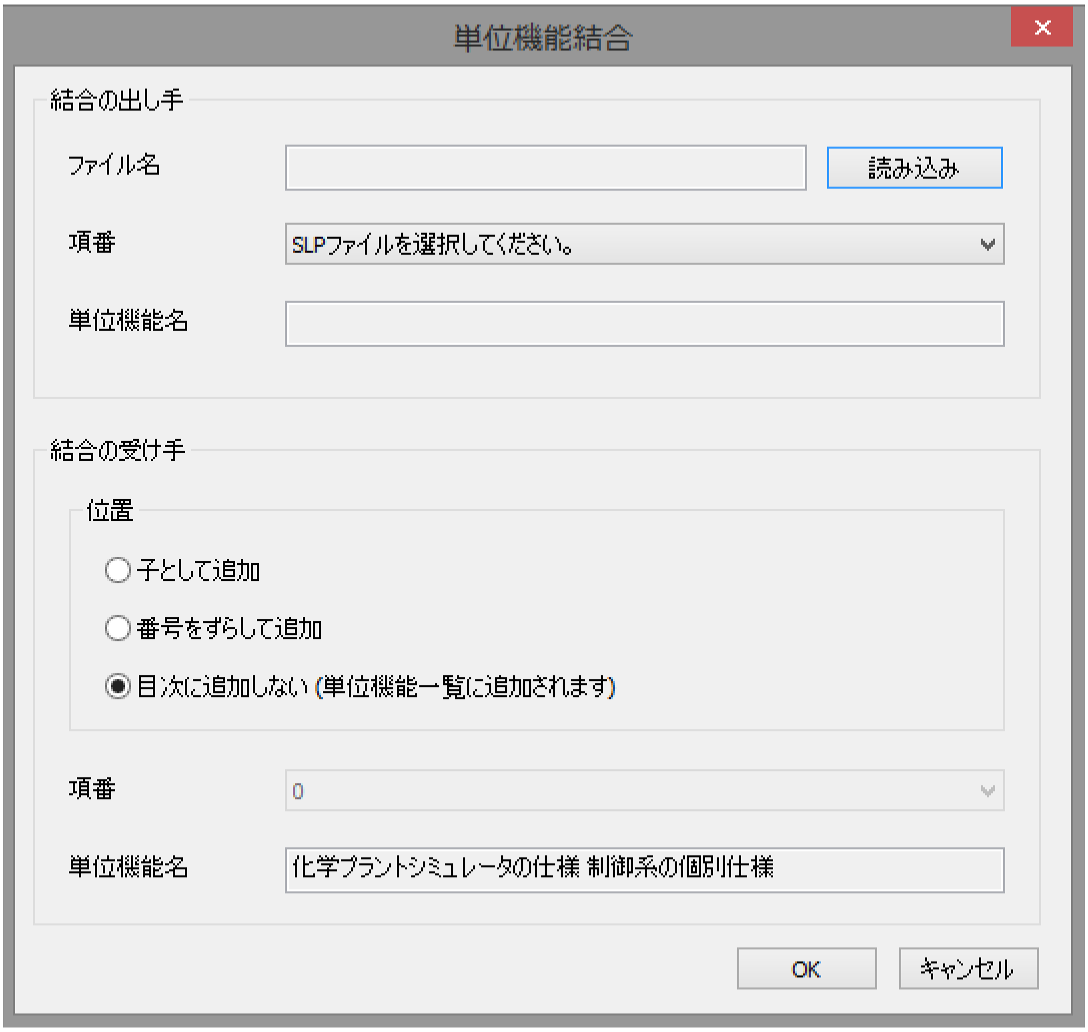


●比較対象 1
リストボックスからマウスで版を指定します。
●比較対象 2
比較対象 1 より新しい版をリストボックスからマウスで指定します。
●作業中のデータと比較する
比較対象 1 で指定された版と作業中の SLP 文書を比較します。

●「OK」ボタン
　比較をおこない「差分表示」ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　何もせずに「差分表示」ダイアログボックスを閉じます。

比較した結果は「検査・検索等結果」ウィンドウに表示されます。

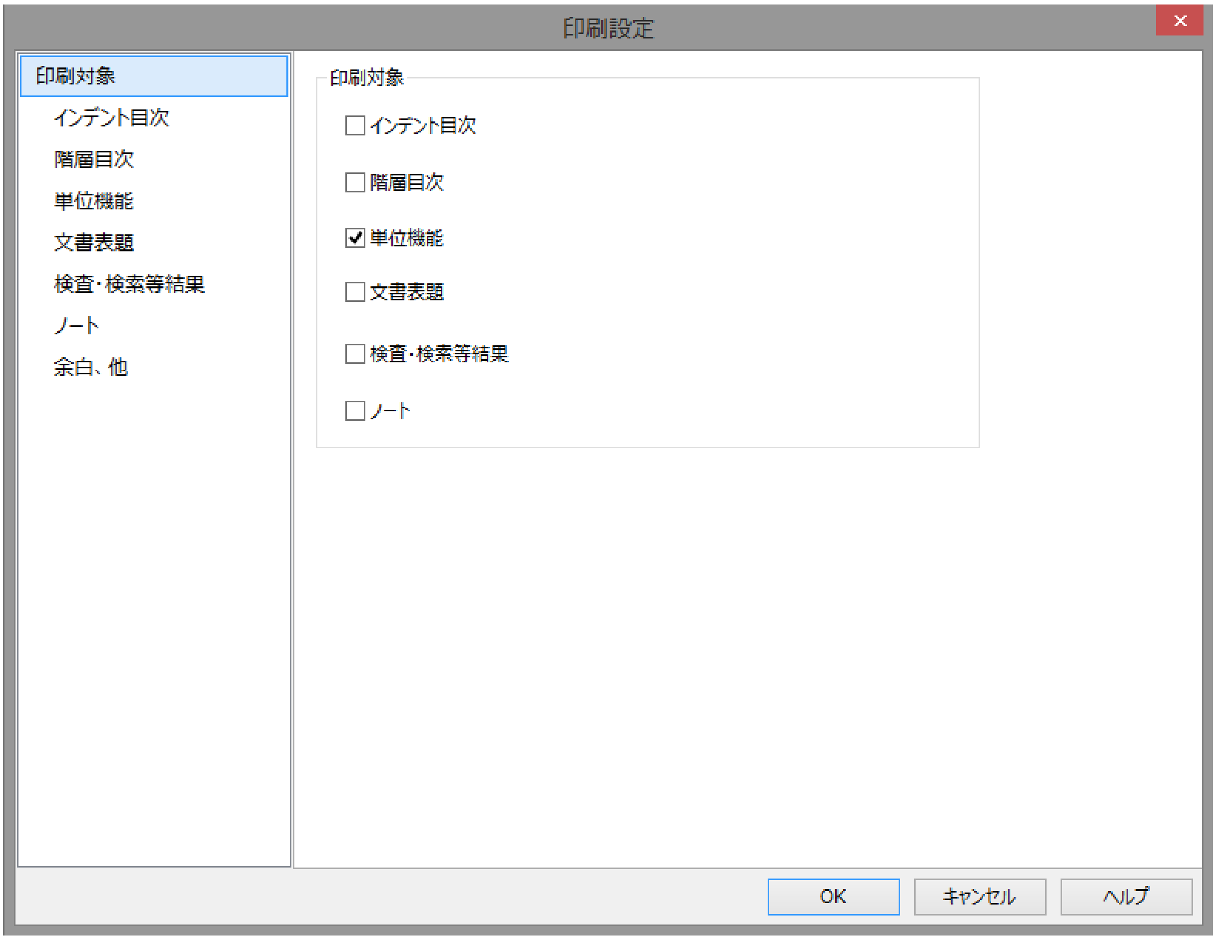
■ダイアログ名　：単位機能結合
■メニュー　　　：[ファイル]-[ファイル連携]-[単位機能結]
■機能概要　　　：異なる SLP 文書間で、単位機能をコピーします。
■各項目説明　　：



●結合の出し手：ファイル名
　「読み込み」ボタンにより、結合元となる SLP 文書を指定します。
●結合の出し手：「項番」ドロップダウンリスト
　結合元の単位機能の項番を指定します。
●結合の出し手：「単位機能名」テキストボックス
　結合元の単位機能名が表示されます。このテキストボックスは編集できません。
●結合の受け手：「項番」ドロップダウンリスト
　結合先の単位機能の項番を指定します。

●結合の受け手：「単位機能名」テキストボックス
　結合先の単位機能名が表示されます。このテキストボックスは編集できません。
●結合の受け手「位置」：子として追加
　結合元の単位機能を結合先の単位機能の子単位機能として結合します。
　結合先が再利用の単位機能である場合には選択できません。
●結合の受け手「位置」：番号をずらして追加
　結合先の単位機能を結合元の単位機能で置き換えます。
　結合先が起点単位機能である場合には選択できません。
●結合の受け手「位置」：目次に追加しない(単位機能一覧に追加されます)
　目次には追加されず、単位機能一覧に追加されます。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：印刷設定（印刷対象）
■メニュー　：[ファイル]-[印刷設定]-[印刷対象]
■機能概要　：印刷する対象を設定します。複数項目が選択可能です。
■各項目説明　：



●印刷対象：「インデント目次」チェックボックス

インデント目次の印刷をします。

●印刷対象：「階層目次」チェックボックス
階層目次の印刷をします。

●印刷対象：「単位機能」チェックボックス
単位機能の印刷をします。

●印刷対象：「文書表題」チェックボックス
文書表題の印刷をします。

●印刷対象：「検査・検索等結果」チェックボックス
検査・検索等結果の印刷をします。

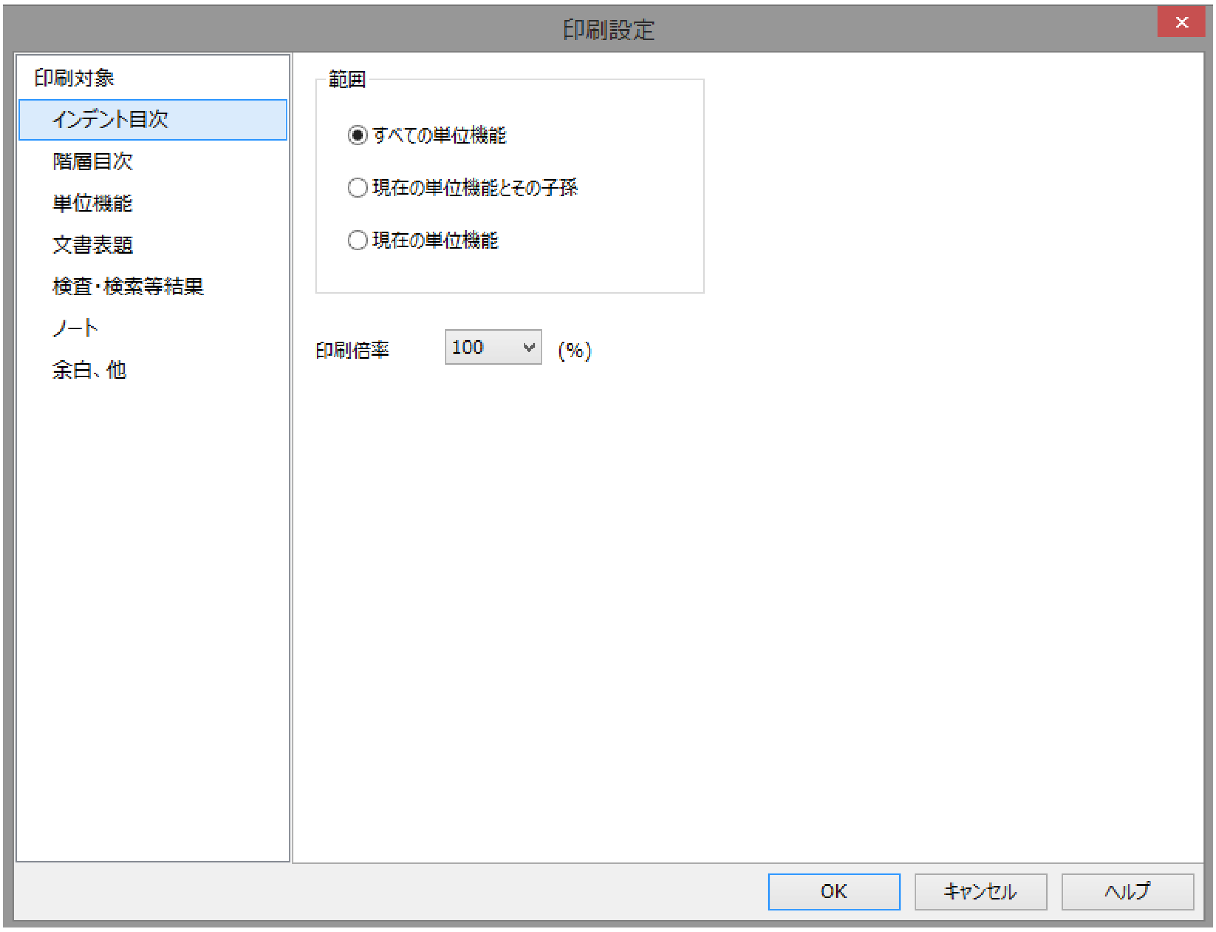
●印刷対象：「ノート」チェックボックス
ノートの印刷をします。

●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

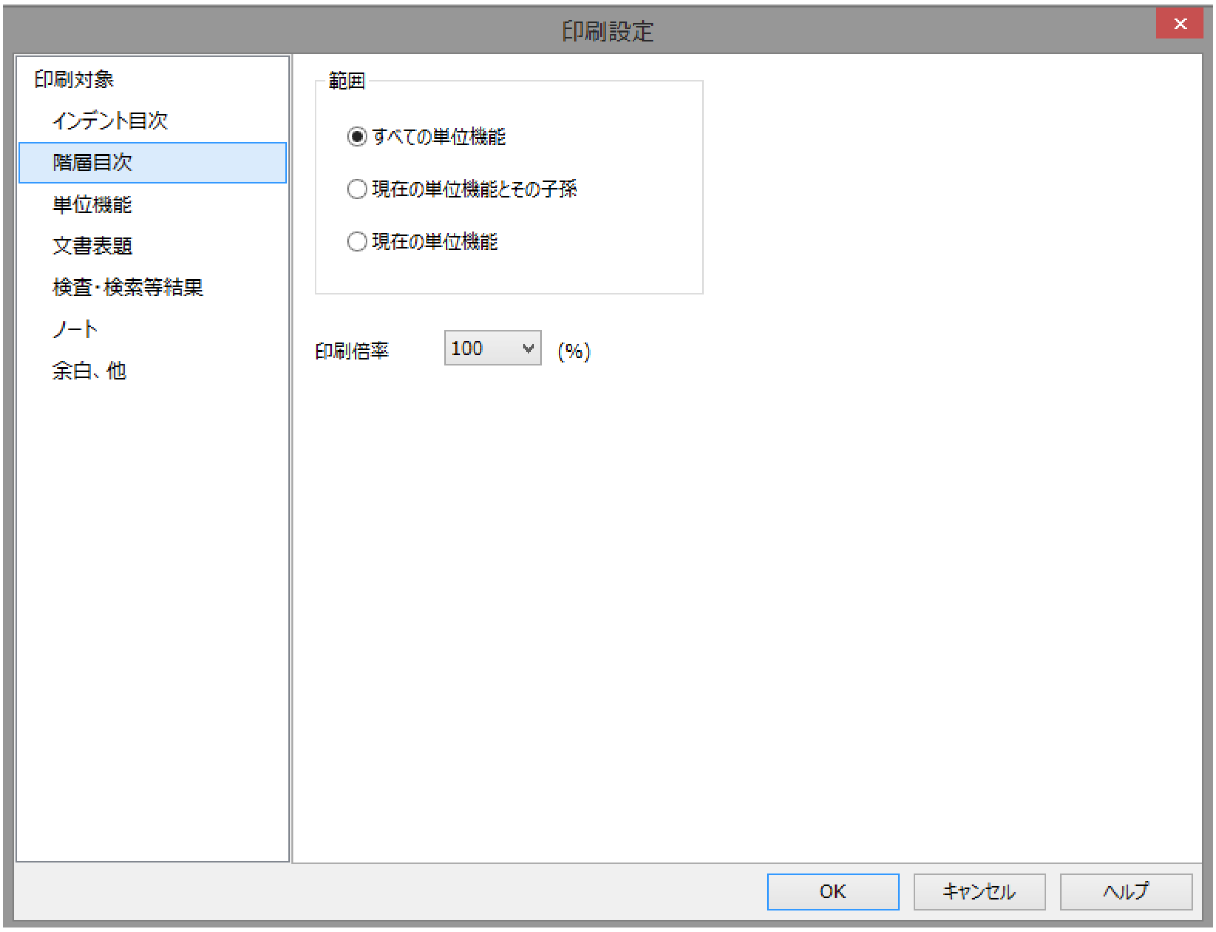
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：印刷設定（インデント目次）
■メニュー　：[ファイル]-[印刷設定]-[インデント目次]
■機能概要　：インデント目次の印刷設定をします。
■各項目説明　：



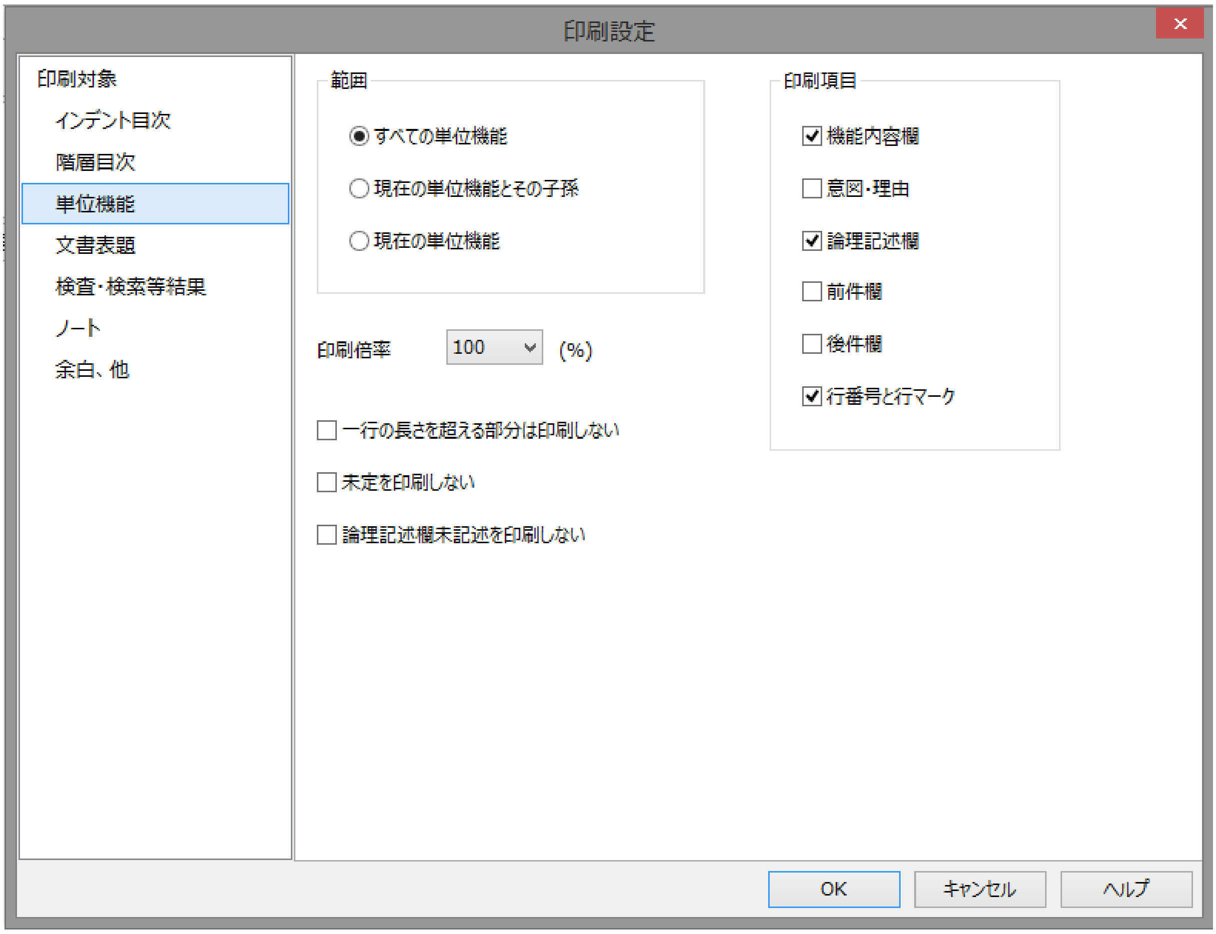
●範囲：「すべての単位機能指定」ラジオボタン
すべての単位機能を印刷します。
●範囲：「現在の単位機能とその子孫」ラジオボタン
印刷を選択時に表示している単位機能以下、すべての単位機能を印刷します。
●範囲：「現在の単位機能」ラジオボタン
印刷を選択時に表示している単位機能のみを印刷します。
●「印刷倍率」ドロップダウンリスト
インデント目次印刷の印刷倍率を設定します。（概算値）印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：印刷設定（階層目次）
■メニュー　　　　：[ファイル]-[印刷設定]-[階層目次]
■機能概要　　　　：階層目次の印刷設定をします。
■各項目説明　　　：



●範囲：「すべての単位機能指定」ラジオボタン
　すべての単位機能を印刷します。
●範囲：「現在の単位機能とその子孫」ラジオボタン
　印刷を選択時に表示している単位機能以下、すべての単位機能を印刷します。
●範囲：「現在の単位機能」
　印刷を選択時に表示している単位機能のみを印刷します。
●「印刷倍率」ドロップダウンリスト
　階層目次印刷の印刷倍率を設定します。（概算値）印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：印刷設定（単位機能）
■メニュー　　　　：[ファイル]-[印刷設定]-[単位機能]
■機能概要　　　　：単位機能の印刷設定をします。
■各項目説明　　　：



●範囲：「すべての単位機能指定」ラジオボタン
　すべての単位機能を印刷します。
●範囲：「現在の単位機能とその子孫」ラジオボタン
　印刷を選択時に表示している単位機能以下、すべての単位機能を印刷します。
●範囲：「現在の単位機能」ラジオボタン
　印刷を選択時に表示している単位機能のみを印刷します。
●「印刷倍率」ドロップダウンリスト
　　単位機能印刷の印刷倍率を設定します。（概算値）
　　印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。
●「一行の長さを超える部分は印刷しない」チェックボックス
　　単位機能で、画面上で１行の行が印刷することで１行に収まらない場合、収まらない箇所を省略します。
　　行を省略しない場合は、改行します。
●「未定を印刷しない」チェックボックス
　　「未定」状態の単位機能を印刷しないようにします。
●「論理記述欄未記述を印刷しない」チェックボックス
　　論理記述欄が空である単位機能を印刷しないようにします。
●印刷項目：「機能内容欄」チェックボックス

単位機能の機能内容欄を印刷します。

●印刷項目：「意図・理由」チェックボックス

単位機能の意図・理由欄を印刷します。

●印刷項目：「論理記述欄」チェックボックス

単位機能の論理記述欄を印刷します。

●印刷項目：「前件欄」チェックボックス

単位機能の前件欄を印刷します。

●印刷項目：「後件欄」チェックボックス

単位機能の後件欄を印刷します。

●印刷項目：「行番号と行マーク」チェックボックス

単位機能の行番号と行マークを印刷します。

●「OK」ボタン

変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

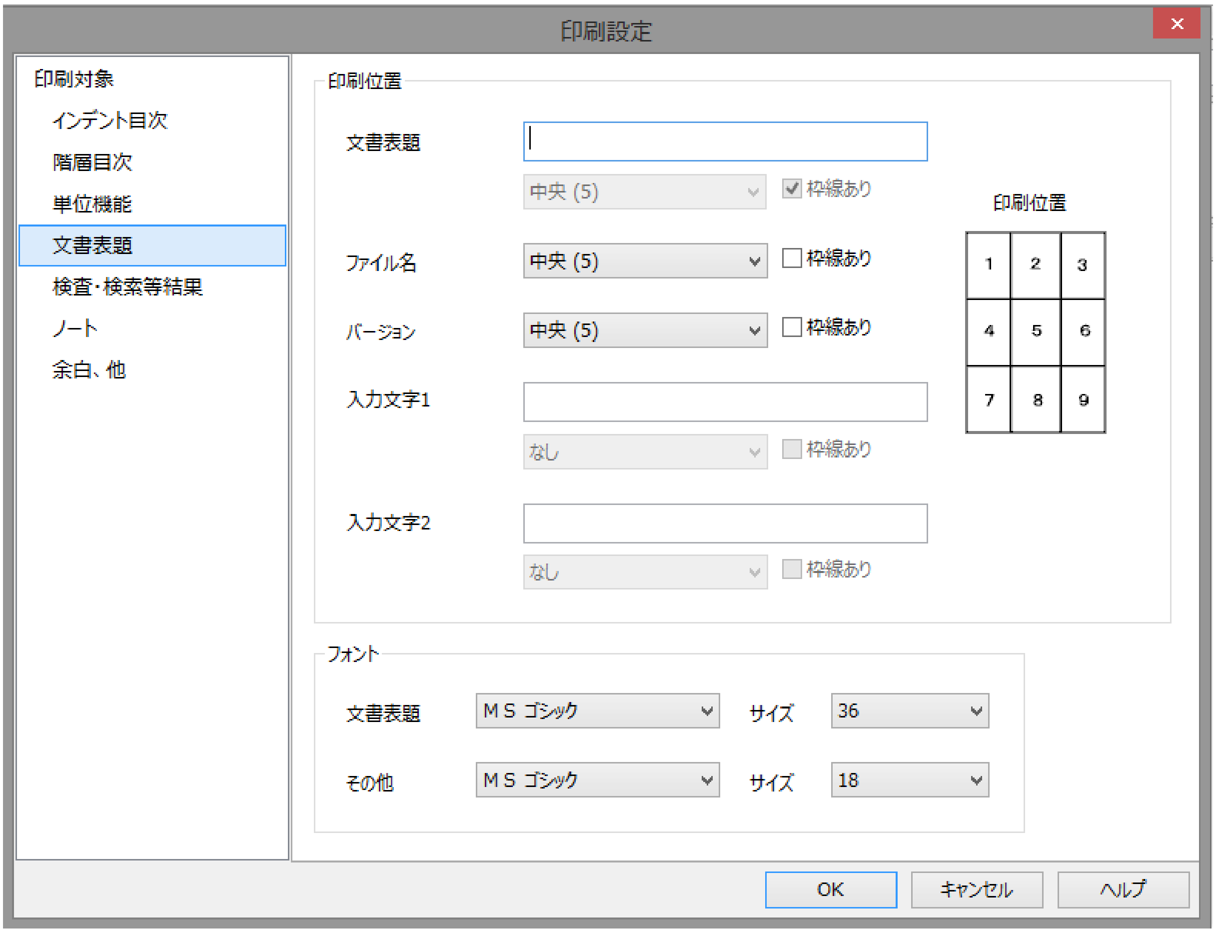
●「キャンセル」ボタン

変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

●「ヘルプ」ボタン

この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

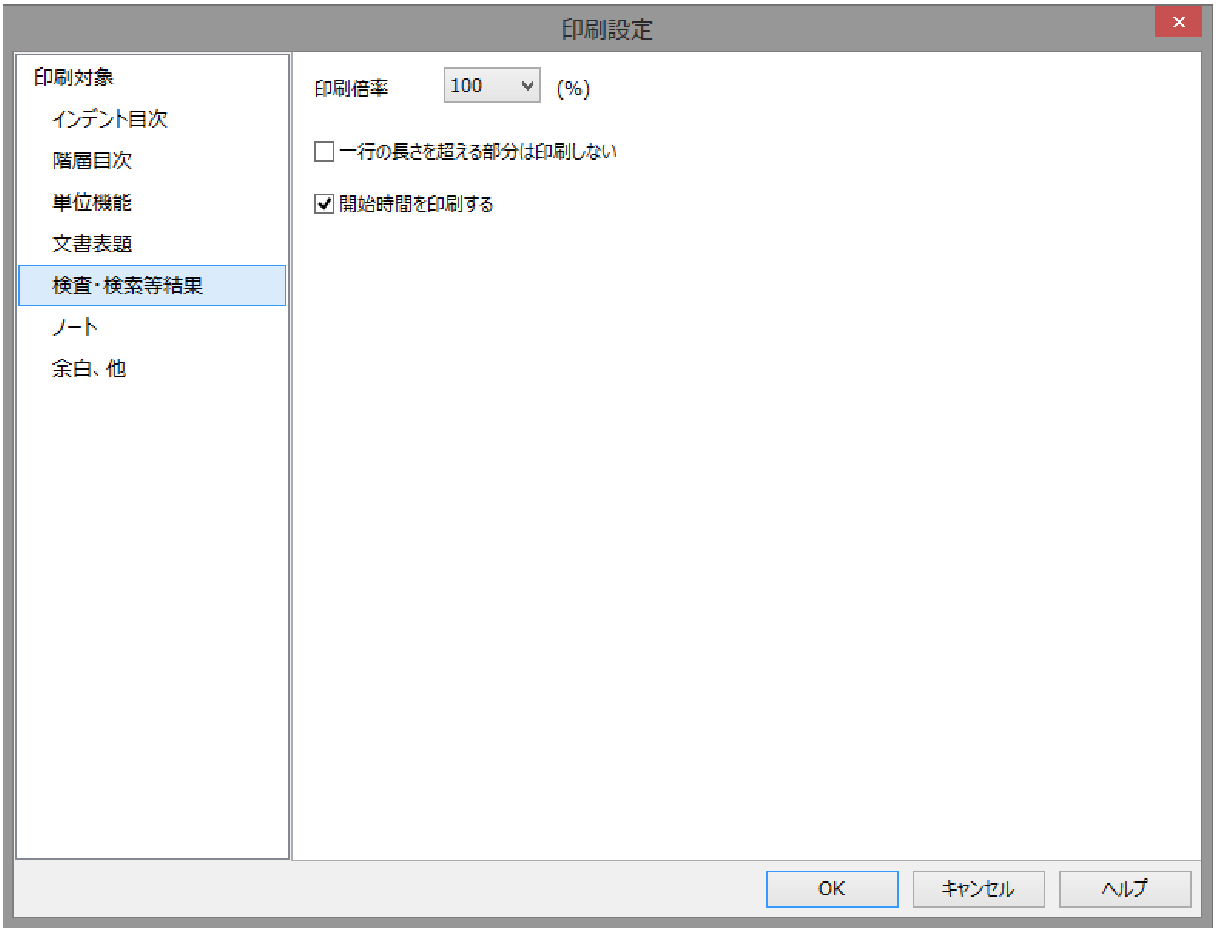
■ダイアログ名　　：印刷設定（文書表題）
■メニュー　　　　：[ファイル]-[印刷設定]-[文書表題]
■機能概要　　　　：文書表題の印刷設定をします。
■各項目説明　　　：



●印刷位置：「文書表題」テキストボックス
　文書表題を入力します。
●印刷位置：「文書表題」ドロップダウンリスト
　文書表題を印刷する位置を指定します。
●「枠線あり」チェックボックス
　文書表題を枠線で囲み印刷します。
●印刷位置：「ファイル名」ドロップダウンリスト
　ファイル名を印刷する位置を指定します。
●「枠線あり」チェックボックス
　ファイル名を枠線で囲み印刷します。
●印刷位置：「バージョン」ドロップダウンリスト
　バージョン情報を印刷する位置を指定します。
●「枠線あり」チェックボックス
　バージョン情報を枠線で囲み印刷します。
●印刷位置：「入力文字 1」テキストボックス
　印刷する文字列を入力文字 1 として入力します。
　入力文字 1 を印刷する位置を選択します。
●「枠線あり」チェックボックス
　入力文字 1 を枠線で囲み印刷します。

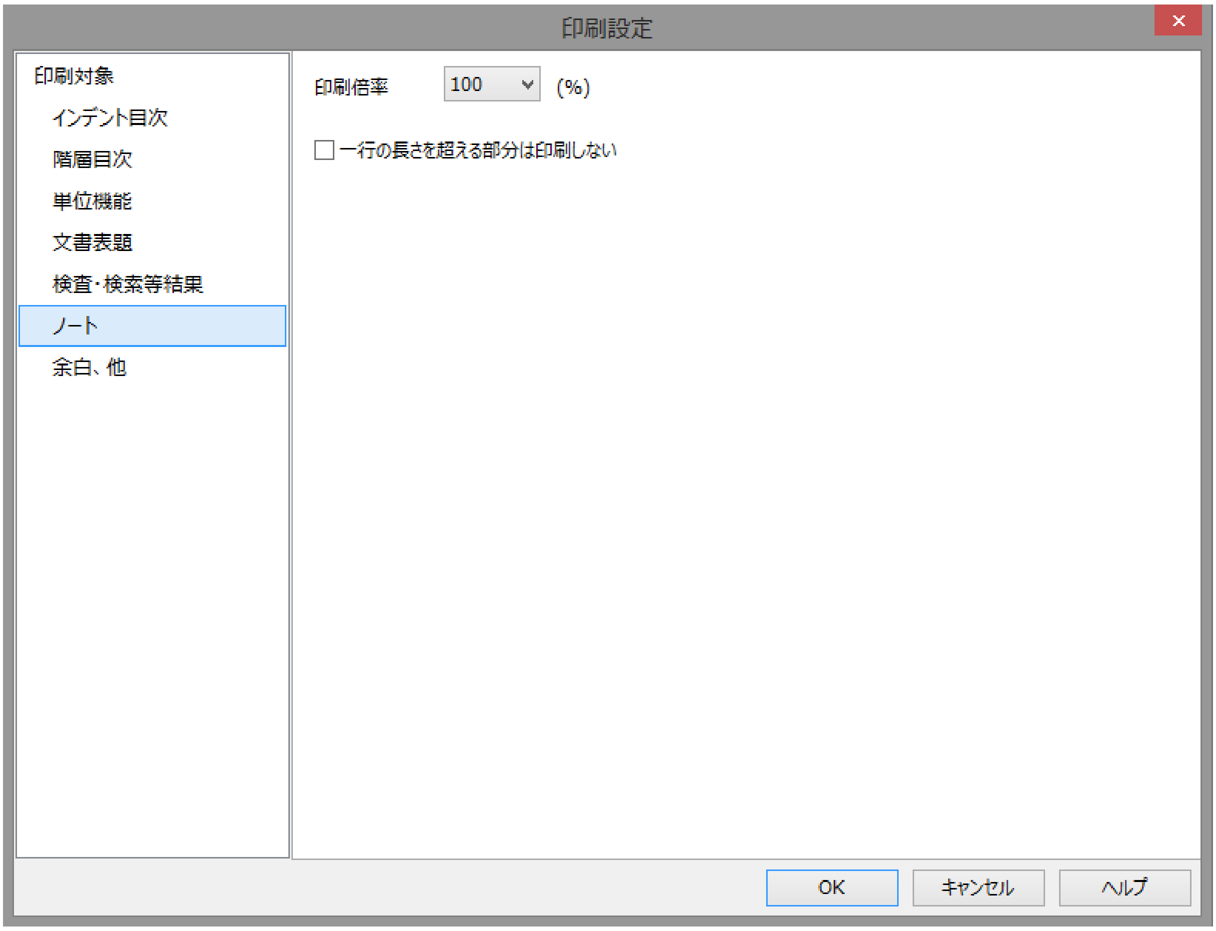
●印刷位置 :「入力文字 2」テキストボックス
　印刷する文字列を入力文字 2 として入力します。
　入力文字 2 を印刷する位置を選択します。
●「枠線あり」チェックボックス
　入力文字 2 を枠線で囲み印刷します。
●フォント :「文書表題」ドロップダウンリスト
　文書表題の印刷のフォントを設定します。
●フォント :「サイズ」ドロップダウンリスト
　文書表題の印刷のフォントサイズを設定します。
●フォント :「その他」ドロップダウンリスト
　文書表題以外の印刷のフォントを設定します。
●フォント :「サイズ」ドロップダウンリスト
　文書表題以外の印刷のフォントサイズを設定します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：印刷設定（検査・検索等結果）
■メニュー　　　　：[ファイル]-[印刷設定]-[検査・検索等結果]
■機能概要　　　　：検査・検索等結果の印刷設定をします。
■各項目説明　　　：



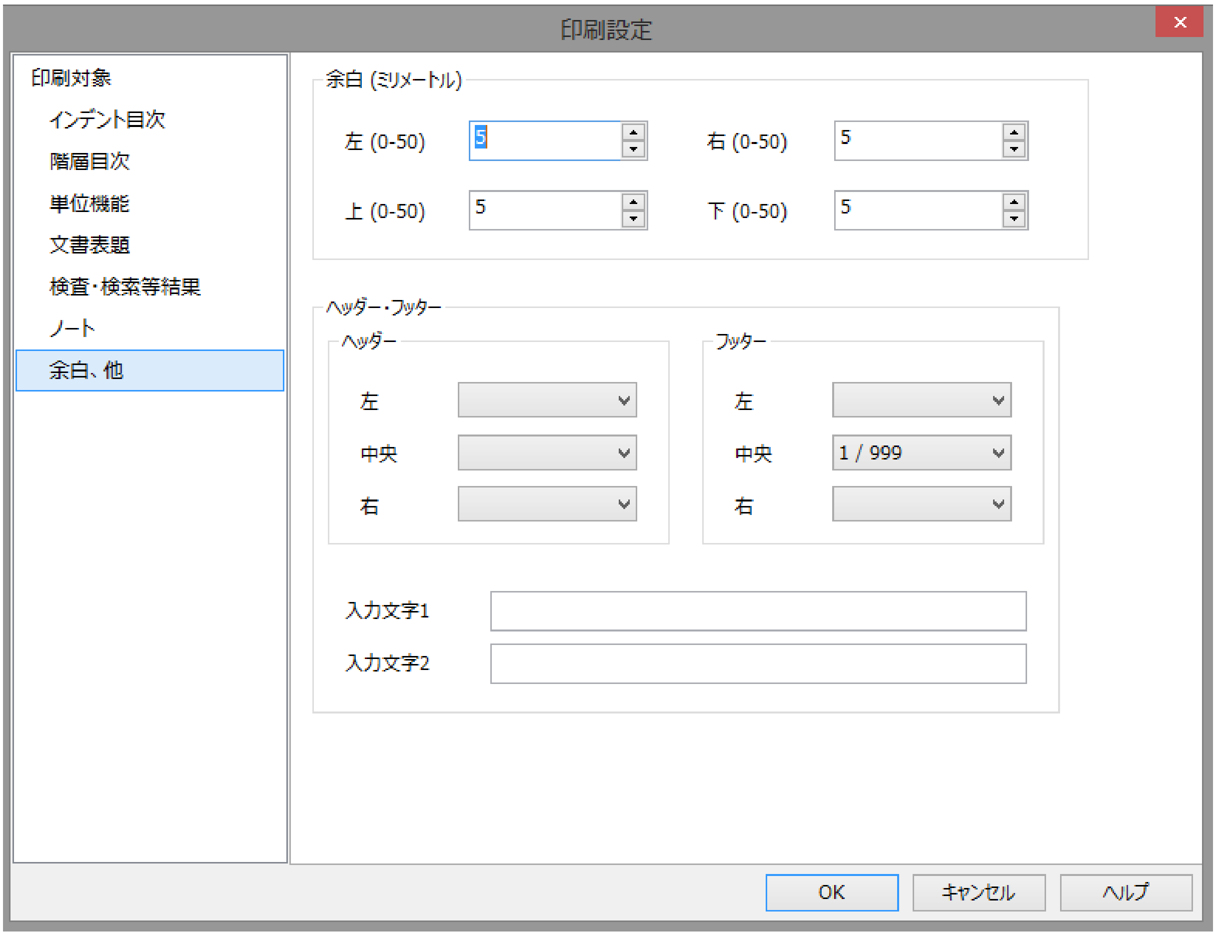
●「印刷倍率」ドロップダウンリスト
「検査・検索等結果」ウィンドウの印刷倍率を設定します。（概算値）印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。
●「一行の長さを超える部分は印刷しない」チェックボックス
画面上での１行が印刷することで１行に収まらない場合、収まらない箇所を省略します。行を省略しない場合は、改行します。
●「開始時間を印刷する」チェックボックス
印刷時に「検査・検索等結果」ウィンドウに出力を開始した時間を印刷します。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：印刷設定（ノート）
■メニュー　　　　：[ファイル]-[印刷設定]-[ノート]
■機能概要　　　　：ノート画面の印刷設定を定します。
■各項目説明　　　：



●「印刷倍率」ドロップダウンリスト
　ノート画面印刷の印刷倍率を設定します。(概算値）印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。
●「一行の長さを超える部分は印刷しない」チェックボックス
　１行が印刷することで１行に収まらない場合、収まらない箇所を省略します。
　行を省略しない場合は、改行します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：印刷設定（余白、他）
■メニュー　　　　：[ファイル]-[印刷設定]-[余白、他]
■機能概要　　　　：余白、ヘッダー及びフッターの印刷設定をします。
　　　　　　　　　　文書表題印刷には適応されません。
■各項目説明　　　：



●「余白（ミリメートル）」テキストボックス
　左/右/上/下の余白をミリメートル単位で指定します。
　0-50 まで指定できます。
　上/下は余白の他に、常にヘッダー・フッター分が確保されます。
●ヘッダー：各ドロップダウンリスト
　ヘッダーの左/中/右の印刷する項目を指定します。
●フッター：各ドロップダウンリスト
　フッターの左/中/右の印刷する項目を指定します。
●「入力文字 1」テキストボックス
　印刷項目として入力文字 1 を選択した場合に、印刷する文字列を入力します。
●「入力文字 2」テキストボックス
　印刷項目として入力文字 2 を選択した場合に、印刷する文字列を入力します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：検索
■メニュー　　　　：[編集]-[検索]
■機能概要　　　　：現在編集中の単位機能の論理記述欄に対して、指定の文字列を検索します。
■　各項目説明　　：



●「検索する文字列」テキストボックス
　検索する文字列を指定します。
●検索対象：「単位機能」チェックボックス
　当該ダイアログの「単位機能の詳細な検索対象」で指定されている項目に含まれている文字列を検索対象にします。
●検索対象：「機能内容欄」チェックボックス
　機能内容欄に含まれている文字列を検索対象にします。
●検索対象：「論理記述欄」チェックボックス
　当該ダイアログの「論理記述欄の詳細な検索対象」で指定されている項目に含まれている文字列を検索対象にします。
●範囲：「すべての単位機能」ラジオボタン
　すべての単位機能を検索対象にします。
●範囲：「現在の単位機能とその子孫」ラジオボタン
　現在の単位機能とその子孫を検索対象にします。
●範囲：「現在の単位機能」ラジオボタン
　現在の単位機能を検索対象にします。

●単位機能の詳細な検索対象：「項番」チェックボックス
項番を検索対象にします。
●単位機能の詳細な検索対象：「単位機能名」チェックボックス
単位機能名を検索対象にします。
●単位機能の詳細な検索対象：「ユニークラベル」チェックボックス
ユニークラベルを検索対象にします。
●単位機能の詳細な検索対象：「原要求項目識別子」チェックボックス
原要求項目識別子を検索対象にします。
●単位機能の詳細な検索対象：「実装時の関数名」チェックボックス
実装時の関数名を検索対象にします。
●論理記述欄の詳細な検索対象：「メンバー名」チェックボックス
メンバー名を検索対象にします。
●論理記述欄の詳細な検索対象：「状態名」チェックボックス
状態名を検索対象にします。
●論理記述欄の詳細な検索対象：「単位機能名」チェックボックス
単位機能名を検索対象にします。
●論理記述欄の詳細な検索対象：「助詞と助動詞とコメント」チェックボックス
助詞と助動詞とコメントを検索対象にします。
●「検索」ボタン
検索する文字列を指定された検索範囲の検索対象に対して検索します。
●「閉じる」ボタン
「検索」ダイアログボックスを閉じます。

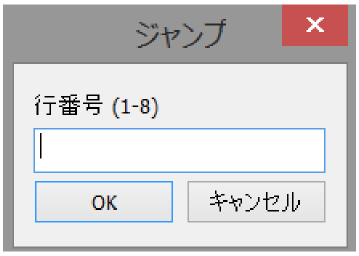
■ダイアログ名　　：置換
■メニュー　　　　：[編集]-[置換]
■機能概要　　　　：現在編集中の単位機能の論理記述欄に対して、指定した文字列を他の文字列に置換します。
■各項目説明　　　：



●「検索する文字列」テキストボックス
　検索する文字列を指定します。
●「置換後の文字列」テキストボックス
　検索する文字列を置換する文字列を指定します。
●検索対象：「単位機能名」チェックボックス
　単位機能名を検索対象にします。
●検索対象：「機能内容欄」チェックボックス
　機能内容欄を検索対象にします。
●検索対象：「論理記述欄」チェックボックス
　論理記述欄を検索対象にします。
●論理記述欄の詳細な検索対象：「メンバー名」チェックボックス
　メンバー名を検索対象にします。
●論理記述欄の詳細な検索対象：「状態名」チェックボックス
　状態名を検索対象にします。
●論理記述欄の詳細な検索対象：「助詞と助動詞」チェックボックス
　助詞と助動詞を検索対象にします。

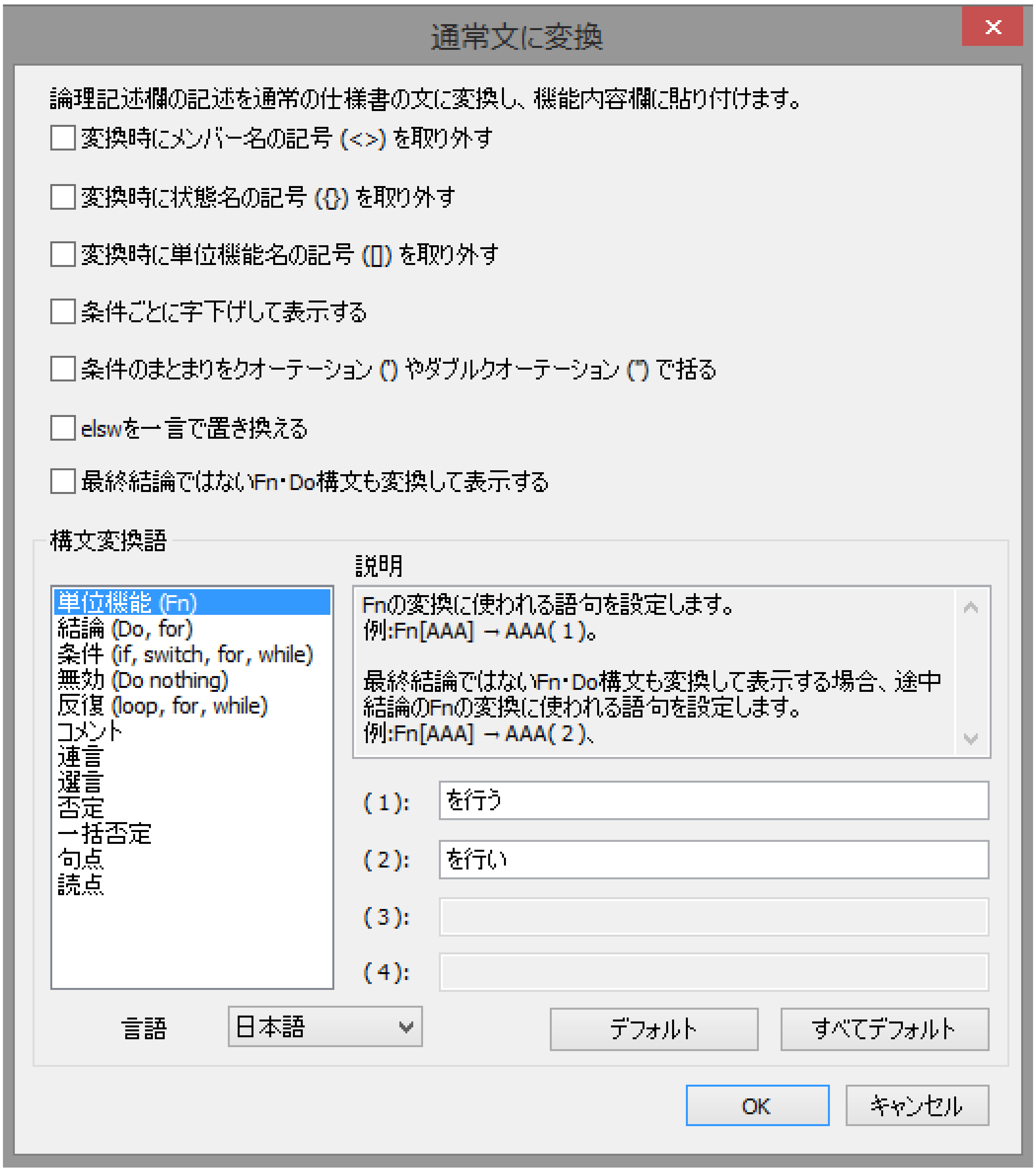
●論理記述欄の詳細な検索対象：「コメント」チェックボックス
　コメントを検索対象にします。
●範囲：「すべての単位機能」チェックボックス
　すべての単位機能を検索対象にします。
●範囲：「現在の単位機能とその子孫」チェックボックス
　現在の単位機能とその子孫を検索対象にします。
●範囲：「現在の単位機能」チェックボックス
　現在の単位機能を検索対象にします。
●「置換によって字数制限を越えるメンバー名または状態名があっても、他の部分については置換を続行する」チェックボックス
　置換によって行末の文字が制限を越えた分欠落しても良い場合はこれを指定します。
●「置換」ボタン
　指定した文字、選択した範囲と対象で置換が実施されます。
●「閉じる」ボタン
　「置換」ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：ジャンプ
■メニュー　　　：[編集]-[ジャンプ]
■機能概要　　　：現在記述中の単位機能の、論理記述欄内の指定行にジャンプします。
■各項目説明　　：



●行番号
ジャンプ可能な行番号を表示します。
ジャンプ可能な範囲より小さい行番号を入力した場合、先頭行にジャンプします。
ジャンプ可能な範囲より大きい行番号を入力した場合は、最終行にジャンプします。
●「行番号」テキストボックス
ジャンプ先の行番号を入力します。
●「OK」ボタン
ダイアログボックスを閉じ、ジャンプを実行します。
●「キャンセル」ボタン
ダイアログボックスを閉じ、ジャンプは実行しません。

■ダイアログ名　　：通常文に変換
■メニュー　　　　：[編集]-[通常文に変換]
■機能概要　　　　：論理記述欄の記述を通常の仕様書の文に変換して機能内容欄に貼り付けます。
■各項目説明　　　：



● 「変換時にメンバー名の記号(< >)を取り外す」チェックボックス
　省略
● 「変換時に状態名の記号({ })を取り外す」チェックボックス
　省略
● 「変換時に単位機能名の記号([ ])を取り外す」チェックボックス
　省略
● 「条件ごとに字下げして表示する」チェックボックス
　省略
● 「条件のまとまりをクオーテーション(')やダブルクオーテーション(")で括る」チェックボックス
　省略

●「elsw を一言で置き換える」チェックボックス
　省略

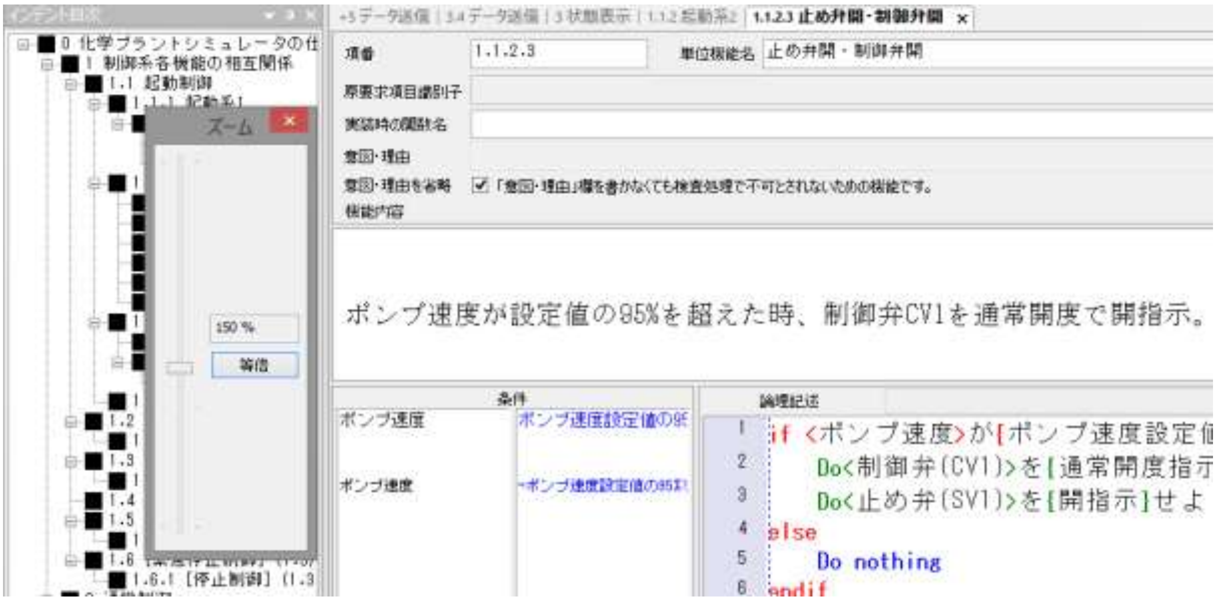
●「最終結論ではない Fn・Do 構文も変換して表示する」チェックボックス
　省略

●構文変換語
　リストボックス：構文変換語のグループを選択します。
　(1):テキストボックス
　　「構文変換語」リストボックスで選択されたグループのうち、1 番目の構文変換語を設定します。
　(2):テキストボックス
　　「構文変換語」リストボックスで選択されたグループのうち、2 番目の構文変換語を設定します。
　(3):テキストボックス
　　「構文変換語」リストボックスで選択されたグループのうち、3 番目の構文変換語を設定します。
　(4):テキストボックス
　　「構文変換語」リストボックスで選択されたグループのうち、4 番目の構文変換語を設定します。
　「デフォルト」ボタン
　　「構文変換語」リストボックスで選択されたグループの構文変換語をデフォルトに戻します。
　「言語」ドロップダウンリスト
　　「すべての構文変換語をデフォルトに戻す」を押したときの構文変換語の言語を指定します。「日本語」と「英語」から選択できます。
　「すべてデフォルト」ボタン
　　すべての構文変換語をデフォルトに戻します。「言語」ドロップダウンリストで選択した言語のデフォルトが使われます。

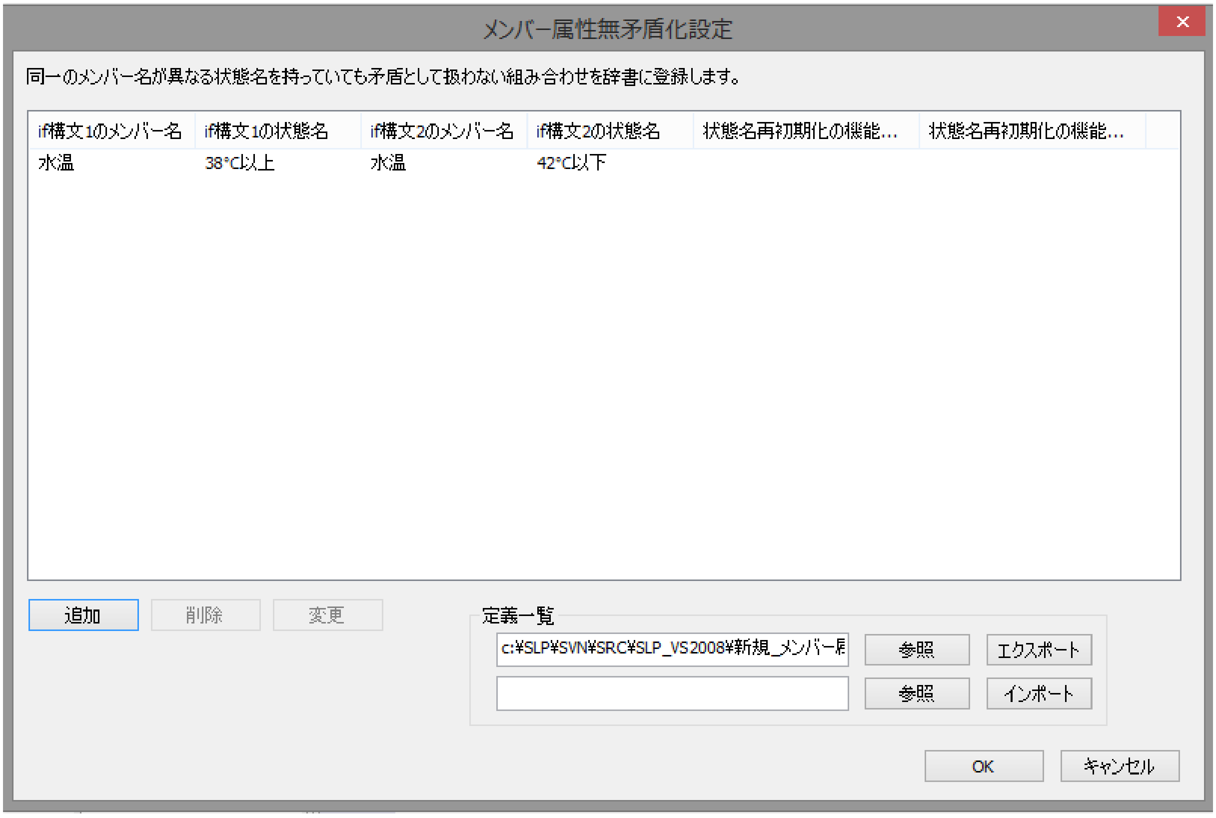
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：ズーム
■メニュー　　　：[表示]-[ズーム]
■機能概要　　　：機能内容欄と論理記述欄の文字の拡大／縮小率をスライドバーにより指定します。
■各項目説明　　：下図は 150%に拡大した例です。



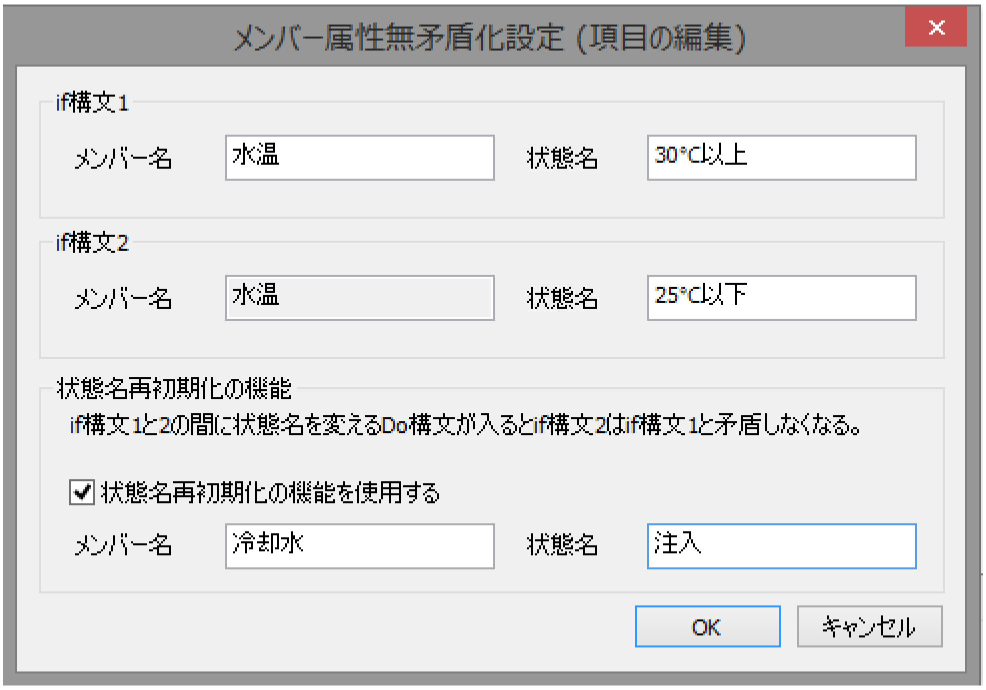
■ダイアログ名　：メンバー属性無矛盾化設定
■メニュー　　　：[意味設定]-[メンバー属性無矛盾化設定]
■機能概要　　　：検査結果で矛盾の誤判定に対して、メンバー属性無矛盾化（誤判定抑止のパターン）を追加登録、削除、変更をします。
登録により、誤判定が解消されます。
■各項目説明　　：



●「メンバー属性無矛盾化設定一覧」リストボックス
削除または変更するメンバー属性無矛盾化設定を選択します。
●「追加」ボタン
メンバー属性無矛盾化設定を追加します。
「メンバー属性無矛盾化設定（項目の編集)」ダイアログボックスが開きます。
●「削除」ボタン
選択したメンバー属性無矛盾化設定を削除します。
●「変更」ボタン
選択したメンバー属性無矛盾化設定を変更します。
「メンバー属性無矛盾化設定（項目の編集)」ダイアログボックスが開きます。
●定義一覧：「参照」ボタン
エクスポートするファイル名を選択します。
●定義一覧：「エクスポート」ボタン
登録情報を CSV ファイル形式で出力します。
●定義一覧：「参照」ボタン
インポートするファイル名を選択します。
●定義一覧：「インポート」ボタン
登録情報を CSV ファイル形式で入力します。

●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：メンバー属性無矛盾化設定（項目の編集）
■メニュー　：[意味設定]-[メンバー属性無矛盾化設定]-[追加]
■機能概要　：検査結果で矛盾の誤判定に対して、メンバー属性無矛盾化（誤判定抑止のパターン）を追加登録します。
登録により、誤判定が解消されます。
■各項目説明　：

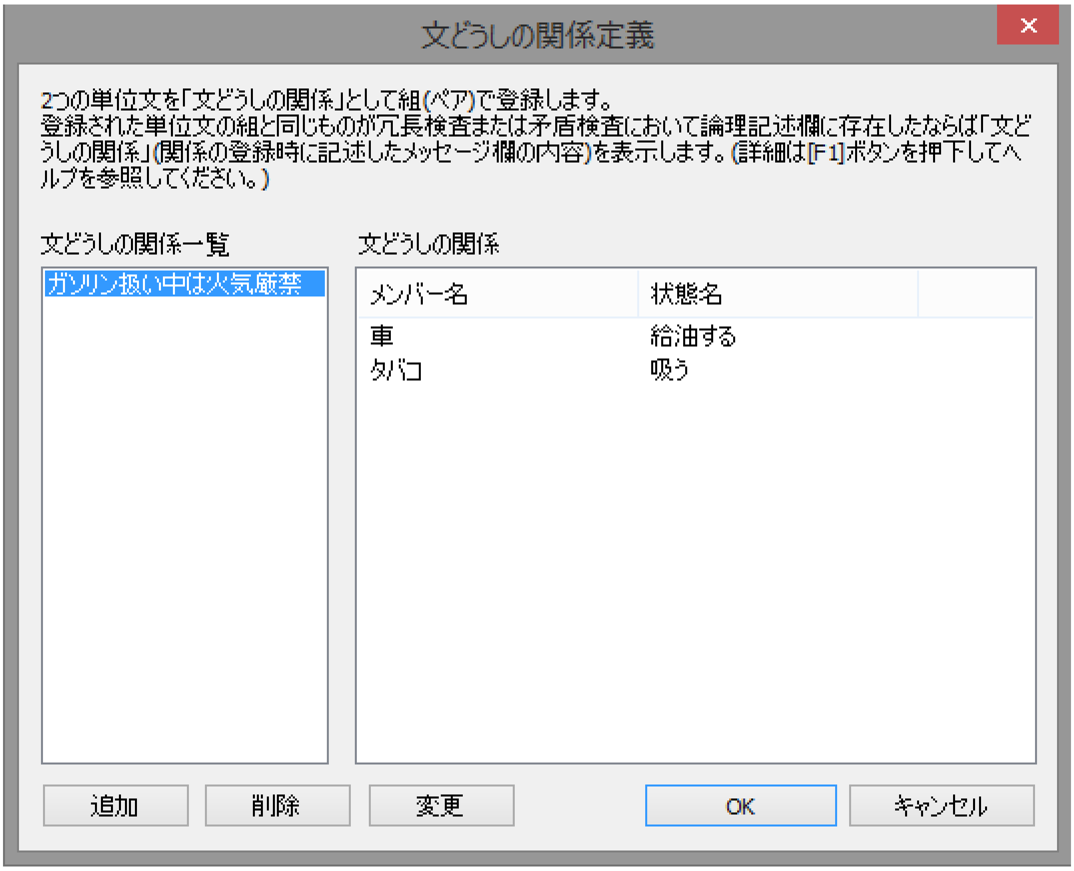


まず、矛盾判定の基準となる条件文を指定します。
●条件 1「メンバー名」テキストボックス
条件文(if 構文、switch 構文)のメンバー名を指定します。
●条件 1「状態名」テキストボックス
条件文(if 構文、switch 構文)の状態名を指定します。

次に、矛盾誤判定される条件文を指定します。
●条件 2「メンバー名」テキストボックス
条件 1 のメンバー名が自動で設定されます。
●条件 2「状態名」テキストボックス
条件文(if 構文、switch 構文)の状態名を指定します。
条件 2 が Do 構文に依存して矛盾ではなくなる場合に、入力します。
●状態名初期化：「状態名初期化を使用する」チェックボックス
状態名初期化を使用する場合には、選択します。
●「メンバー名」テキストボックス
メンバー名を指定します。

● 「状態名」テキストボックス
　状態名を指定します。
● 「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
● 「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：文どうしの関係定義
■メニュー　　　：[意味設定]-[文どうしの関係定義]
■機能概要　　　：論理的に矛盾判定が不能なケース(メンバー名どうしが異なる条件文)に対して、不整合な記述の条件を登録します。
　登録により、不整合な記述を検出ができます。
■各項目説明　　：



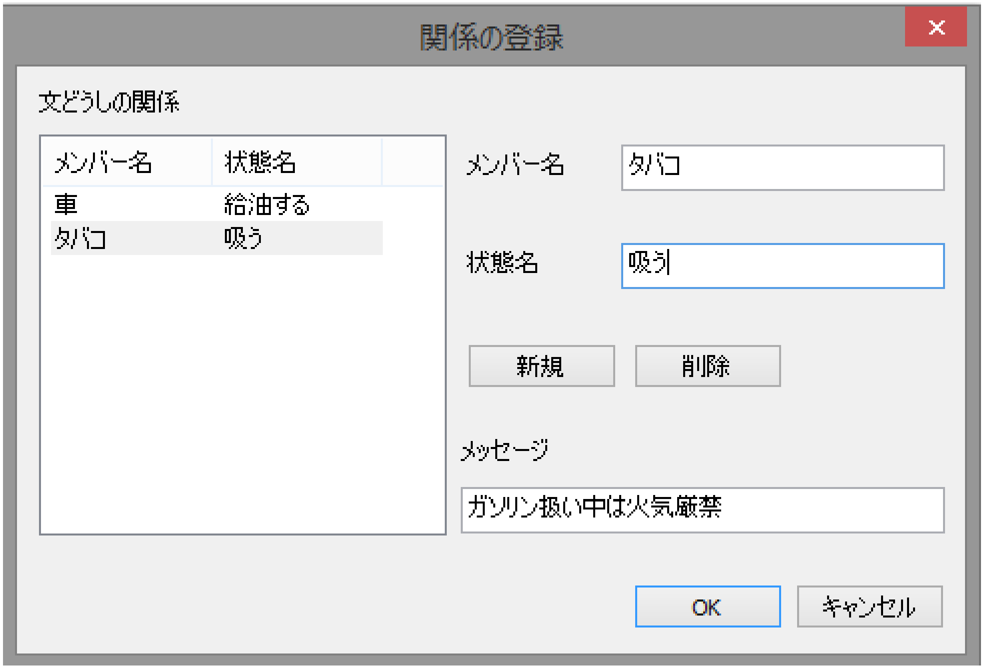
● 「文どうしの関係一覧」リストボックス
　削除または変更する、文どうしの関係を選択します。
● 「文どうしの関係」リストボックス
　文どうしの関係を構成する文要素（メンバー名と状態名）の組が表示されます。
● 「追加」ボタン
　文どうしの関係を追加します。
　「関係の登録」ダイアログボックスが開きます。
● 「削除」ボタン
　選択した文どうしの関係を削除します。
● 「変更」ボタン

選択した文どうしの関係を変更します。
「関係の登録」ダイアログボックスが開きます。

●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：関係の登録
■メニュー　：[意味設定]-[文どうしの関係定義]-[追加]
■機能概要　：論理的に矛盾判定が不能なケース(メンバー名どうしが異なる条件文)に対して、不整合な記述の条件を登録します。
登録により、不整合な記述を検出ができます。
■各項目説明　：



●「文どうしの関係」リストボックス
文どうしの関係（メンバー名、状態名の対の集まり）を表示します。

●「メンバー名」テキストボックス
不整合な記述の条件文のメンバー名を入力します。

●「状態名」テキストボックス
不整合な記述の条件文の状態名を入力します。

●「新規」ボタン
入力された文要素（メンバー名と状態名）の対を文どうしの関係に追加します。

●「削除」ボタン
登録済のメンバー名と状態名の対の文どうしの関係を削除します。
リストボックスから選択した文要素（メンバー名と状態名）の対が、登録から削除されます。

●「メッセージ」テキストボックス
登録した意味の関係（文要素の対の集まり）を、検出時に表示するメッセージを記述します。

●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：文要素候補リストの作成
■メニュー　　　：[意味設定]-[文要素候補リストの作成]
■機能概要　　　：文要素（メンバー名と状態名）を文要素辞書に登録します。
文要素は、単位機能論理記述欄の if 構文、Do 構文、switch 構文で使用します。
■各項目説明　　：



●メンバー名
if 構文、Do 構文、switch 構文で使用するメンバー名を定義します。
ここで定義したメンバー名は、各構文のメンバー名を入力する際に右クリックメニューで選択することができます。
●「メンバー名」リストボックス
メンバー名リスト：登録済みのメンバー名の一覧を表示します。一覧から選択することにより、メンバー名を変更したり削除したりすることができます。
●メンバー名：「名称」テキストボックス
登録するメンバー名を入力します。
●メンバー名：「定義」テキストボックス
登録するメンバー名の説明文を入力します。
ここで入力した説明文は、論理記述欄内のメンバー名の上にマウスカーソルを移動するとポップアップ表示されます。
●メンバー名：「新規」ボタン
入力したメンバー名を追加登録します。
●メンバー名：「削除」ボタン
メンバー名リストの登録をすべて削除します。
●メンバー名：「すべて削除」ボタン
メンバー名リストで選択したメンバーを修正したメンバー名に変更します（上書き）。

●メンバー名「検索」:「検索」ボタン
「名称」や「定義」テキストボックスに入力された文字列を検索します。
検出された文字列は、メンバー名 :「名称」または「定義」テキストボックスに表示されます。
また、「メンバー名」リストボックスの該当文字列にフォーカスします。

●メンバー名「検索」:「次」ボタン
次に一致する文字列の検出処理を行います。

●状態名
if 構文、Do 構文、switch 構文で使用する状態名を定義します。
ここで定義した状態名は、論理記述欄で各構文の状態名を入力する際に、右クリックメニューで候補リストから選択することができます。
状態名はメンバー名リストで選択しているメンバー名に対して登録します。
右クリックメニューで表示する状態名は、入力されているメンバー名に対して登録状態名を表示します。

●「状態名」リストボックス
状態名リスト:登録済みの状態名の一覧を表示します。一覧から選択することにより、状態名を変更・削除することができます。
状態名はメンバー名リストで選択しているメンバー名に対して登録します。

●状態名 :「名称」テキストボックス
登録する状態名を入力します。

●状態名 :「定義」テキストボックス
登録する状態名の説明文を入力します。
ここで入力した説明文は、論理記述欄内の状態名の上にマウスカーソルを移動するとポップアップ表示されます。

●状態名 :「新規」ボタン
入力した状態名を追加登録します。

●状態名 :「削除」ボタン
状態名リストで選択した状態名の登録を削除します。

●状態名 :「否定記号を挿入」ボタン
状態名に否定記号を付加します。

●状態名 : 否定語記号
否定語記号を入力します。
ある状態名に対して反対の意味を持つものを否定語とします。
登録する状態名の中で、先頭に登録された否定語記号が使われていて、否定語記号のつかない状態名を登録している場合に否定語として登録します。
状態名には否定語も登録できます。特定の状態名と同じ語句の状態名で先頭に否定語記号がつくものを同時に状態名に登録すると、否定後記号をもつ状態名は否定語となります。

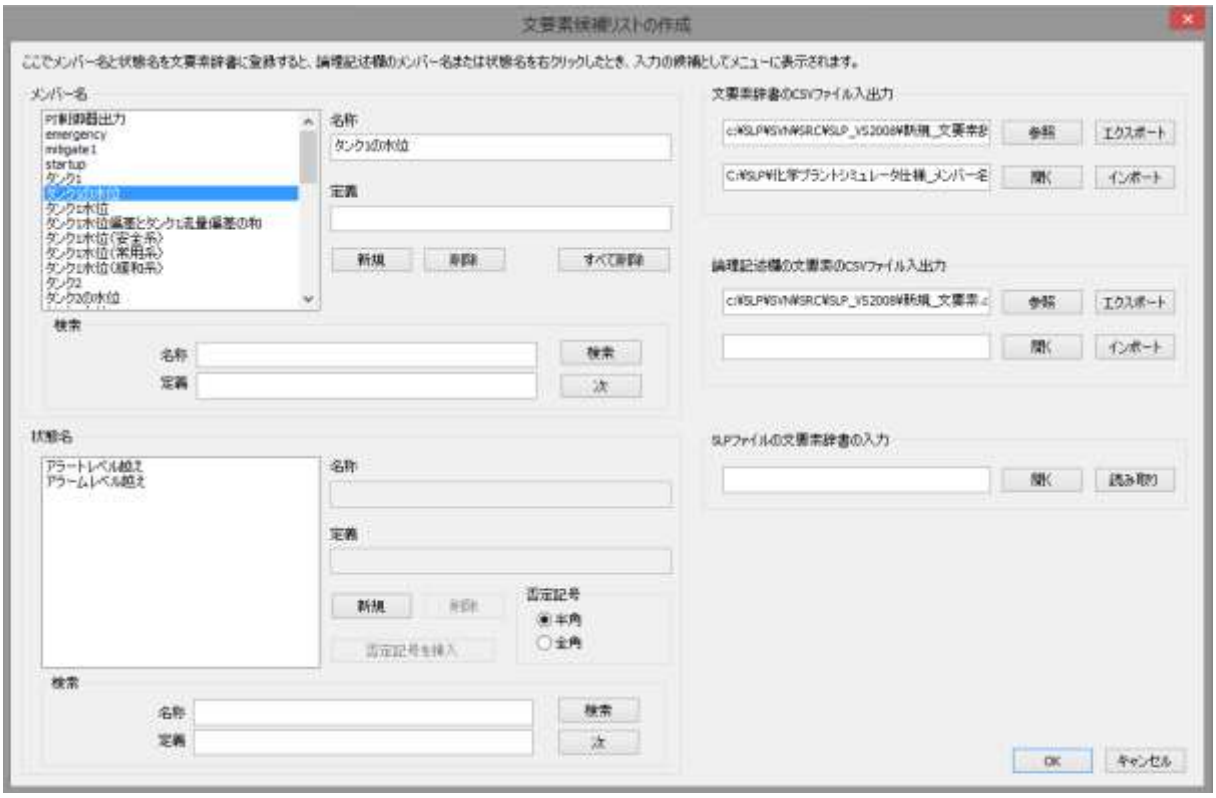
●状態名「検索」:「検索」ボタン
「名称」や「定義」テキストボックスに入力された文字列を検索します。
検出された文字列は、状態名 :「名称」または「定義」テキストボックスに表示されます。
また、「状態名」リストボックスの該当文字列にフォーカスします。

●状態名「検索」:「次」ボタン
次に一致する文字列の検出処理を行います。

●文要素辞書の CSV ファイル入出力 :「参照」ボタン
エクスポートするファイル名を選択します。

●文要素辞書の CSV ファイル入出力 :「エクスポート」ボタン
登録情報を CSV ファイル形式で出力します。

●文要素辞書の CSV ファイル入出力：「開く」ボタン
インポートするファイル名を選択します。
●文要素辞書の CSV ファイル入出力：「インポート」ボタン
登録情報を CSV ファイル形式で入力します。
インポートされたメンバー名が「メンバー名」リストボックスに表示されます。
また、このリストボックスからメンバー名を左クリックで選択すると、関連づけられた状態名が、「状態名」リストボックスに表示されます。
●論理記述欄の文要素の CSV ファイル入出力：「参照」ボタン
エクスポートするファイル名を選択します。
●論理記述欄の文要素の CSV ファイル入出力：「エクスポート」ボタン
登録情報を CSV ファイル形式で出力します。
●論理記述欄の文要素の CSV ファイル入出力：「開く」ボタン
インポートするファイル名を選択します。
●論理記述欄の文要素の CSV ファイル入出力：「インポート」ボタン
登録情報を CSV ファイル形式で入力します。
●SLP ファイルの文要素辞書の入力：「開く」ボタン
登録情報を読み取る SLP 文書を選択します。
読み込む SLP 文書は、あらかじめ本メニューで登録した後に保存されたものである必要があります。
●SLP ファイルの文要素辞書の入力：「読み取り」ボタン
他の SLP 文書から登録情報を読み取ります。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。



上図は、「文要素辞書の CSV ファイル」をインポートした後のリスト表示の例です。

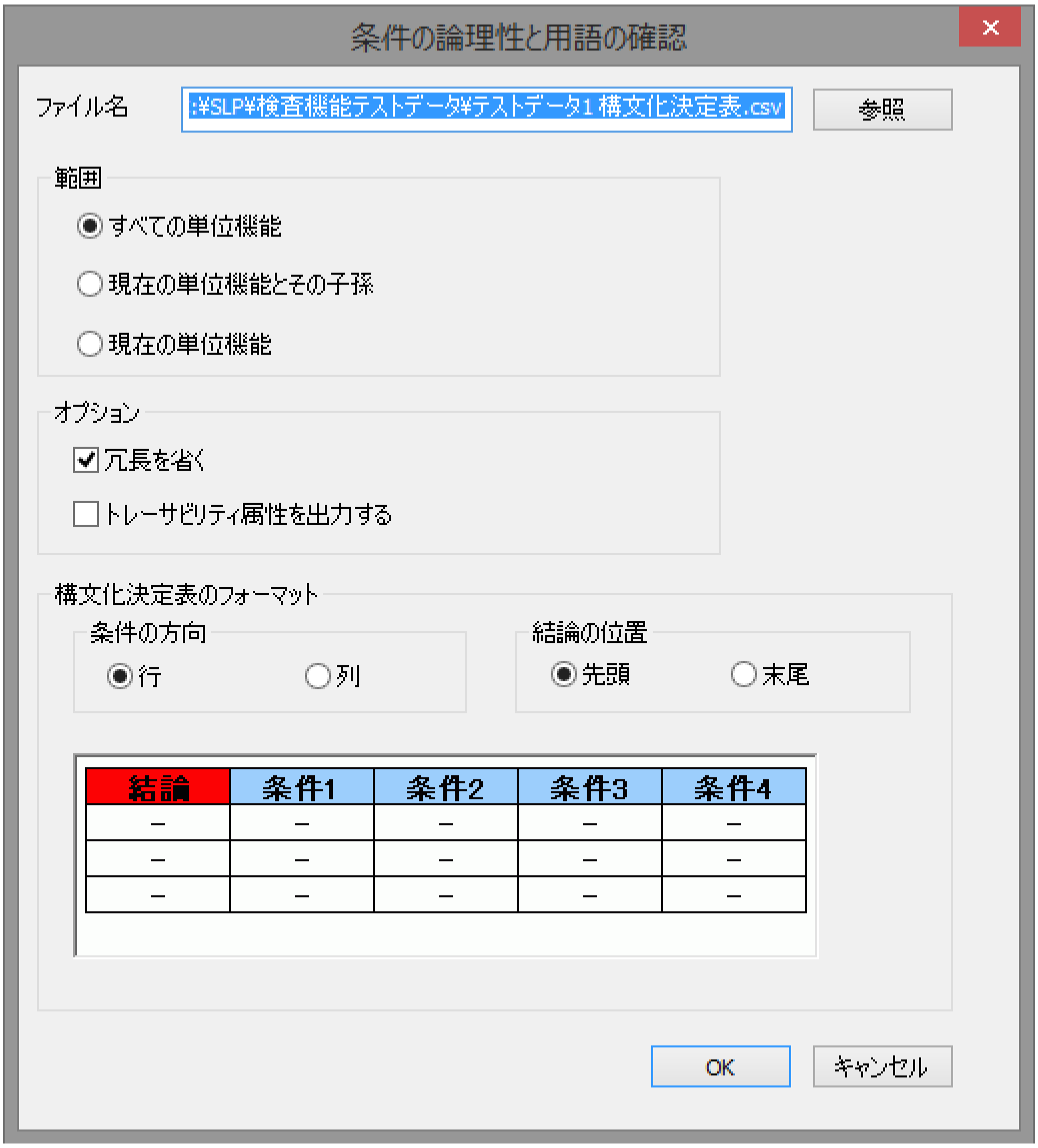
■ダイアログ名　：量化記号の設定
■メニュー　　　：[意味設定]-[量化記号の設定]
■機能概要　　　：述語論理を扱えるように量化記号を定義します。
全称記号（全ての、任意の）と存在記号（ある）の文言を定義して、
メンバー名と一緒に用いることができます。
■各項目説明　　：



●リストボックス
削除または変更する量化記号を選択します。
●「新規」ボタン
新しい量化記号を追加します。
●「削除」ボタン
選択されている量化記号を削除します。
●「上へ」ボタン
選択されている量化記号を上に移動します。
●「下へ」ボタン
選択されている量化記号を下に移動します。
●「デフォルト」ボタン
すべての量化記号をデフォルトに戻します。
●「量化記号」テキストボックス
選択されている量化記号を変更します。
●「対記号」テキストボックス
選択されている量化記号の対義語を変更します。通常文に変換 と 構文化決定表 と

テスト仕様原案 で、否定文を出力するとき、メンバー名の量化記号を対義語に置き換えます。
●「種類」ラジオボタングループ
選択されている量化記号が全称記号と存在記号のどちらであるかを指定します。
●「中置」チェックボックス
選択されている量化記号の中置を、有効にするかどうかを指定します。
ON にすると中置が有効になります。
中置が無効のときは、メンバー名の先頭に量化記号があるときのみ、その量化記号を有効にします。中置が有効であれば、メンバー名の途中または末尾に量化記号が出現したときにも、その量化記号を有効にします。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
なお、量化記号のうち「∀」と「∃」は、削除、移動、変更ができません。中置の有無だけは設定できます。

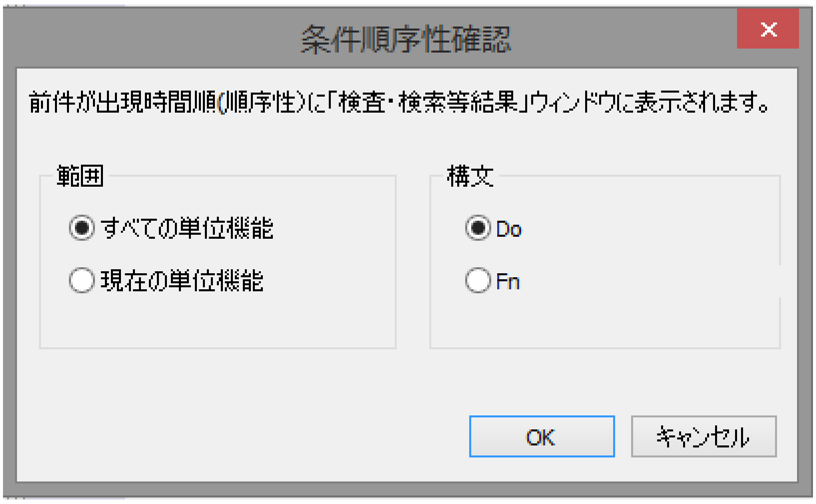
■ダイアログ名　　：条件の論理性と用語の確認
■メニュー　　　　：[検査]-[条件の論理性と用語の確認]
■機能概要　　　　：構文化決定表作成のパラメータを設定し、出力します。
■各項目説明　　　：



●「ファイル名」テキストボックス
　構文化決定表を出力するファイル名を指定します。
●「参照」ボタン
　構文化決定表を出力するファイル名を「名前を付けて保存」ウィンドウで指定します。
●「範囲」ラジオボタングループ
　構文化決定表を作成する対象となる単位機能を選択します。「すべての単位機能」「現在の単位機能とその子孫」「現在の単位機能」から選択できます。
●「冗長を省く」チェックボックス
　冗長な記述を一つにまとめてから構文化決定表を作成するかどうかを選択します。
●「トレーサビリティ属性を出力する」チェックボックス
　トレーサビリティ属性を出力するかどうかを選択します。
●「条件の方向」ラジオボタングループ
　条件と結論の組み合わせを、行方向に書くか列方向に書くかを選択します。

- 「結論の位置」ラジオボタングループ
  結論を条件の最後に置くか、先頭に置くかを選択します。
- 「OK」ボタン
  構文化決定表を出力して、ダイアログボックスを閉じます。
- 「キャンセル」ボタン
  構文化決定表を出力せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：条件順序性確認
■メニュー　　　：[検査]-[条件順序性確認]
■機能概要　　　：SLP 記述内容を確認します。
■各項目説明　　：



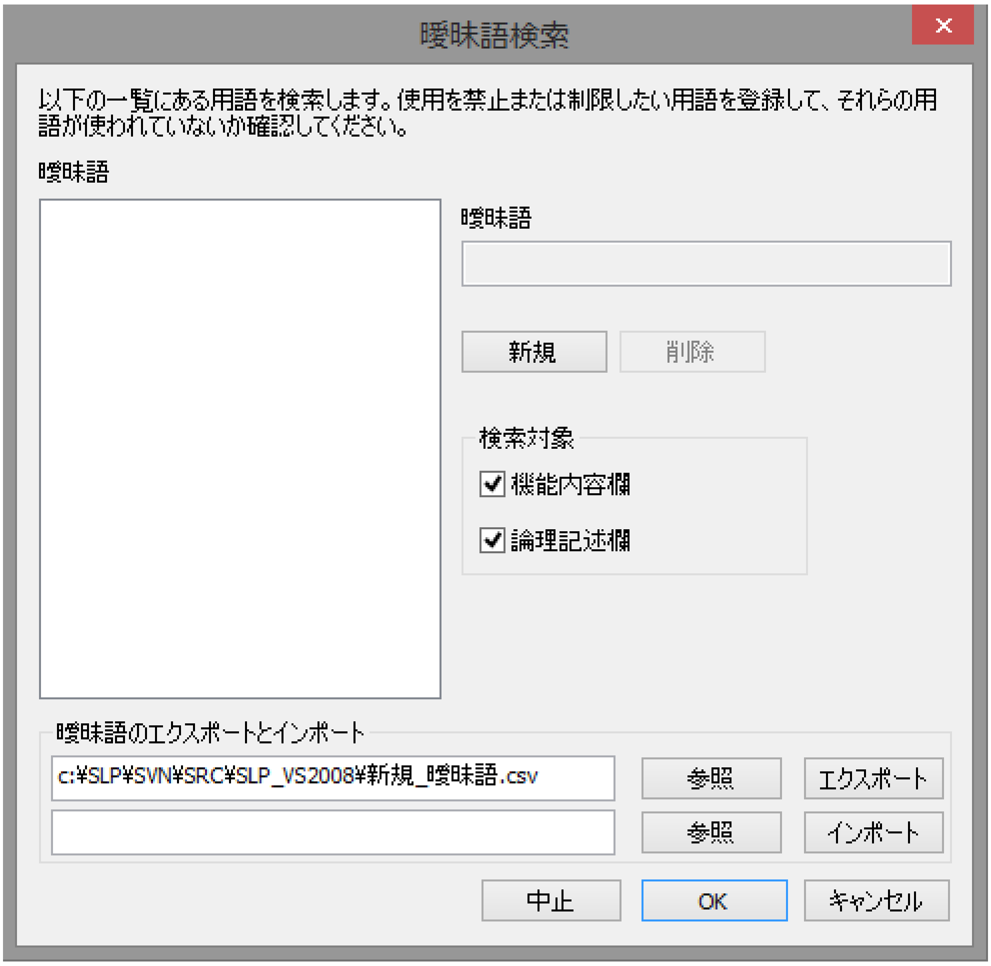
● 「範囲」ラジオボタングループ
前件（条件）と後件（結論）の対応関係を調査する範囲を指定します。「すべての単位機能」または「現在の単位機能」を選択できます。

● 「構文」ラジオボタングループ
条件と結論の対応関係を調査するにあたって、「結論」に該当する構文を選択します。「Do」または「Fn」から選択できます。「範囲」で「現在の単位機能」を選択したときには、「構文」ラジオボタングループは操作できなくなり、Do と Fn の両方が常に有効になります。

● 「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
設定により、条件と結論の対応関係を「検査・検索等結果」ウィンドウに表示します。

● 「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

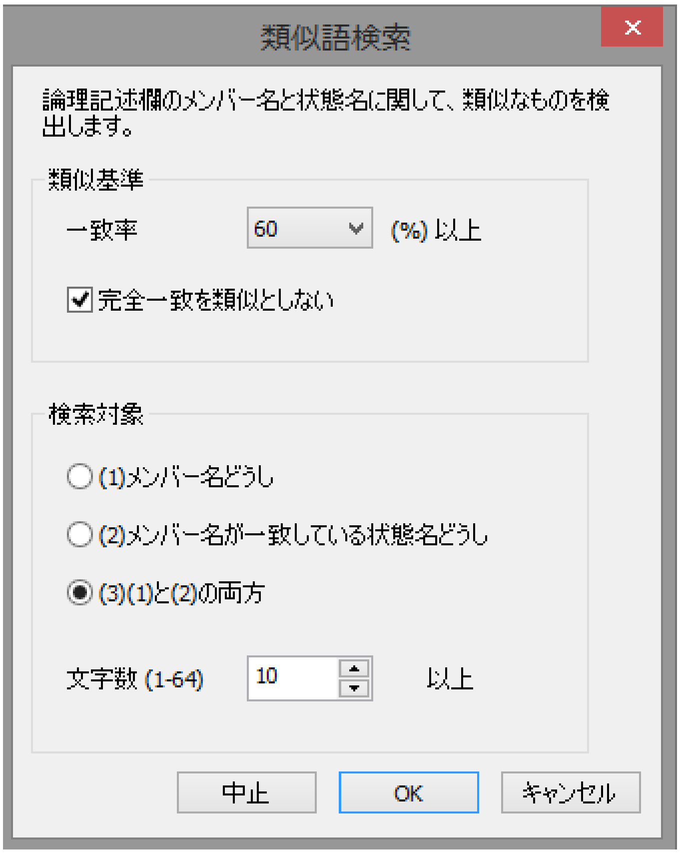
■ダイアログ名　　：曖昧語検索
■メニュー　　　　：[検査]-[曖昧語検索]
■機能概要　　　　：機能内容欄と論理記述欄から指定された曖昧語を検索します。
■各項目説明　　　：



●「曖昧語」リストボックス
　削除または変更する曖昧語を選択します。
●「曖昧語」テキストボックス
　追加または変更する曖昧語を入力します。
●「新規」ボタン
　曖昧語を追加します。
●「削除」ボタン
　選択した曖昧語を削除します。
●検索対象：「機能内容欄」チェックボックス
　機能内容欄を検索対象にします。
●検索対象：「論理記述欄」チェックボックス
　論理記述欄を検索対象にします。
●「中止」ボタン
　検索処理を中止します。
●「OK」ボタン
　「曖昧語検索」ダイアログボックスを閉じて、曖昧語一覧に登録されている用語を検索します。曖昧語検索の結果は「検査・検索等結果」ウィンドウに表示されます。

●「キャンセル」ボタン
検索を行わずに、ダイアログボックスを閉じます。

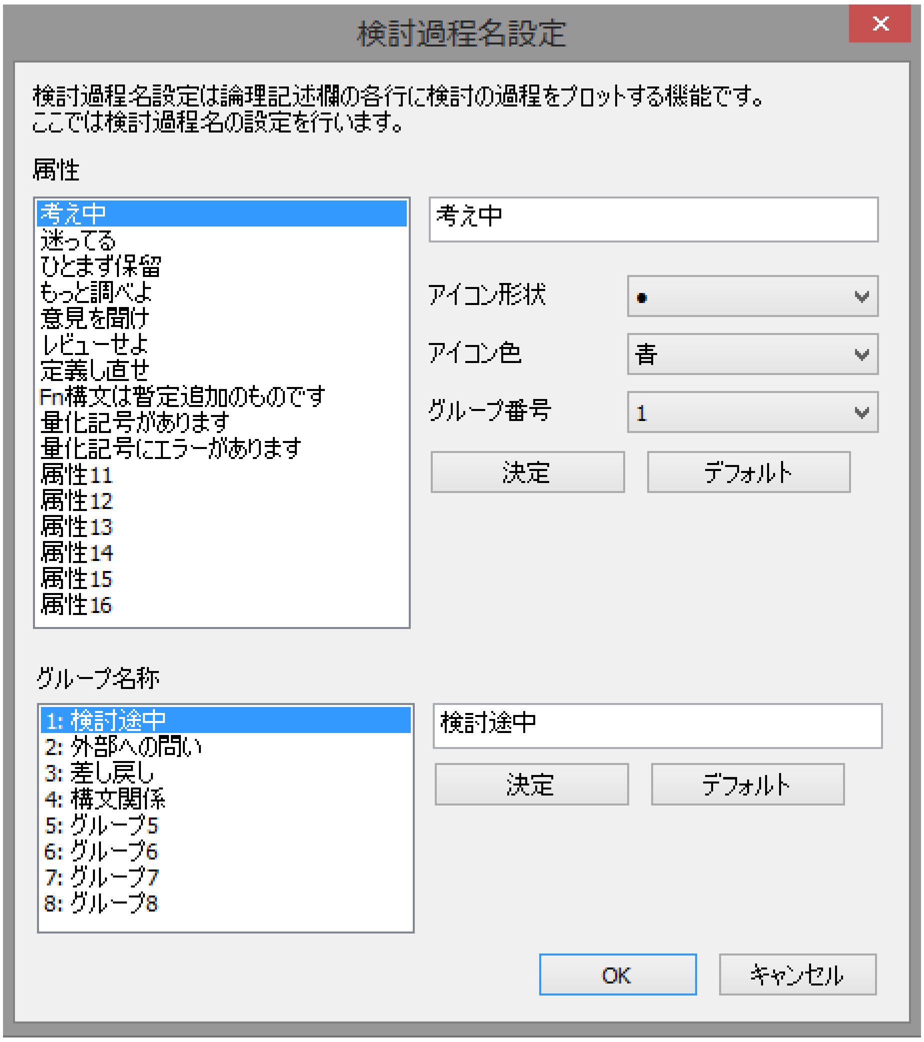
■ダイアログ名　　：類似語検索
■メニュー　　　　：[検査]-[類似語検索]
■機能概要　　　　：論理記述内容で類似しているものを検索します。
■各項目説明　　　：



●「一致率」ドロップダウンリスト
一致率の基準を指定します。
●「完全一致を類似としない」チェックボックス
完全に一致する語は類似語でないものとします。
●「検索対象」ラジオボタングループ
検索対象を選択します。「メンバー名どうし」「メンバー名が一致している状態名どうし」「前記２条件の両方」から選択できます。
●「文字数」テキストボックス
検索対象となる語の文字数の基準を指定します。
●「中止」ボタン
検索処理を中止します。
●「OK」ボタン
「類似語検索」ダイアログボックスを閉じて、類似語検索の結果を「検査・検索等結果」ウィンドウに表示します。
●「キャンセル」ボタン

検索を行わずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：検討過程名設定
■メニュー　　　：[検討過程プロット]-[検討過程名設定]
■機能概要　　　：論理記述欄での行マークの設定条件を指定します。
■各項目説明　　：



●「属性」リストボックス
　変更したい属性を選択します。
●「属性」テキストボックス
　属性を入力します。
●「アイコン形状」ドロップダウンリスト
　選択された属性のアイコンの形状を選択します。
●「アイコン色」ドロップダウンリスト
　選択された属性のアイコンの色を選択します。
●「グループ番号」ドロップダウンリスト
　選択された属性のグループを選択します。
●属性：「決定」ボタン
　属性の変更内容を保存します。　このボタンを押下しないと変更されません。
●属性：「デフォルト」ボタン

属性をデフォルトに戻します。

●「グループ名称」リストボックス
変更したいグループを選択します。

●「グループ名称」テキストボックス
グループ名称を入力します。

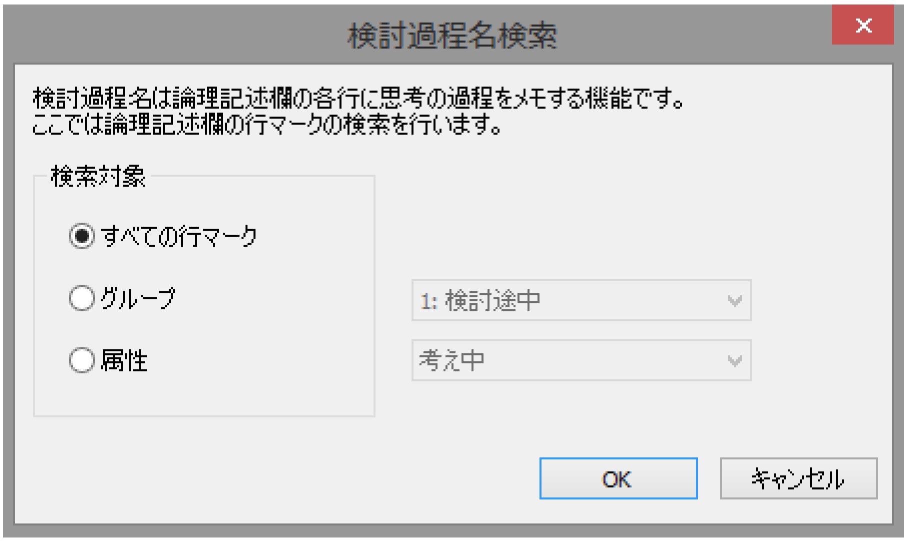
●グループ名称：「決定」ボタン
グループ名称の変更内容を保存します。このボタンを押下しないと変更されません。

●グループ名称：「デフォルト」ボタン
グループ名称をデフォルトに戻します。

●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

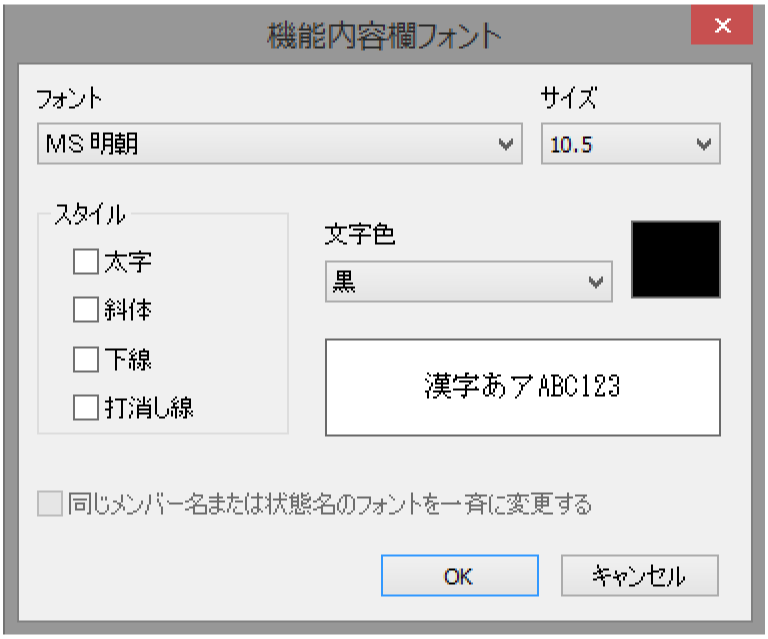
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：検討過程名検索
■メニュー　　　　：[検討過程プロット]-[検討過程名検索]
■機能概要　　　　：検討過程名設定で設定したマークを検索します。
■各項目説明　　　：



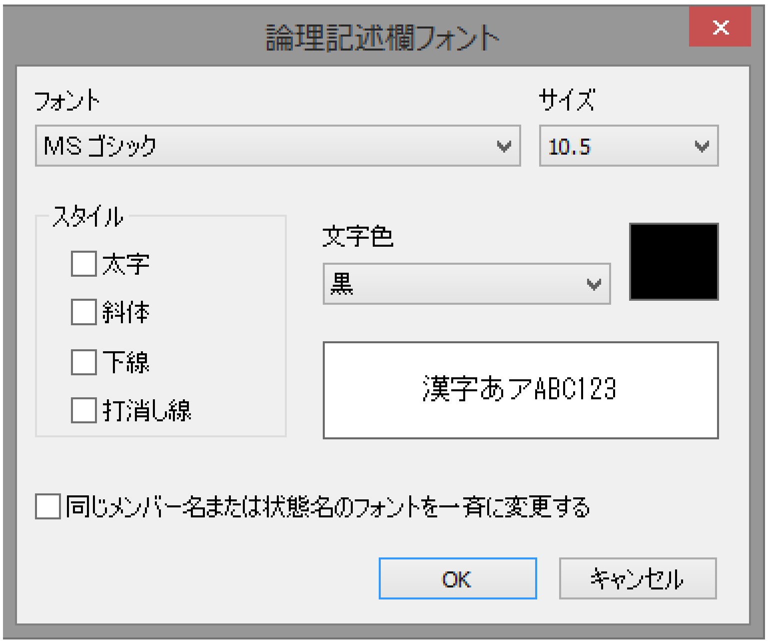
●検索対象：「すべての行マーク」ラジオボタン
すべての行マークを検索します。
●検索対象：「グループ」ラジオボタン
ドロップダウンリストで指定されたグループの行マークを検索します。
●「グループ」ドロップダウンリスト
検索するグループを指定します。「グループ」ラジオボタンが選択されているとき有効になります。
●検索対象：「属性」ラジオボタン
ドロップダウンリストで指定された属性の行マークを検索します。
●「属性」ドロップダウンリスト
検索する属性を指定します。「属性」ラジオボタンが選択されているとき有効になります。
●「OK」ボタン
行マークを検索した結果を「検査・検索等結果」ウィンドウに表示して、「思考過程検索」ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
検索を行わずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：機能内容欄フォント
■メニュー　　　　：[主要欄フォント設定]-[機能内容欄フォント]
■機能概要　　　　：単位機能の機能内容欄のフォントを設定します。
■各項目説明　　　：



●「フォント」ドロップダウンリスト
　使用するフォントを設定します。
●「サイズ」ドロップダウンリスト
　文字サイズを設定します。
●スタイル：「太字」チェックボックス
　文字のスタイルを設定します。チェックすると文字が太字になります。チェックを外すと標準の太さになります。
●スタイル：「斜体」チェックボックス
　文字のスタイルを設定します。チェックすると文字が斜体になります。チェックを外すと標準体になります。
●スタイル：「下線」チェックボックス
　文字のスタイルを設定します。チェックすると文字に下線が付きます。チェックを外すと下線は付きません。
●「文字色」ドロップダウンリスト
　文字色を設定します。
●色見本
　選択中の色を表示します。
●フォント見本
　選択中のフォントで文字を表示します。
●「同じメンバー名または状態名のフォントを一斉に変更する」チェックボックス
　同じメンバー名または状態名のフォントを一斉に変更したい場合に ON にします。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

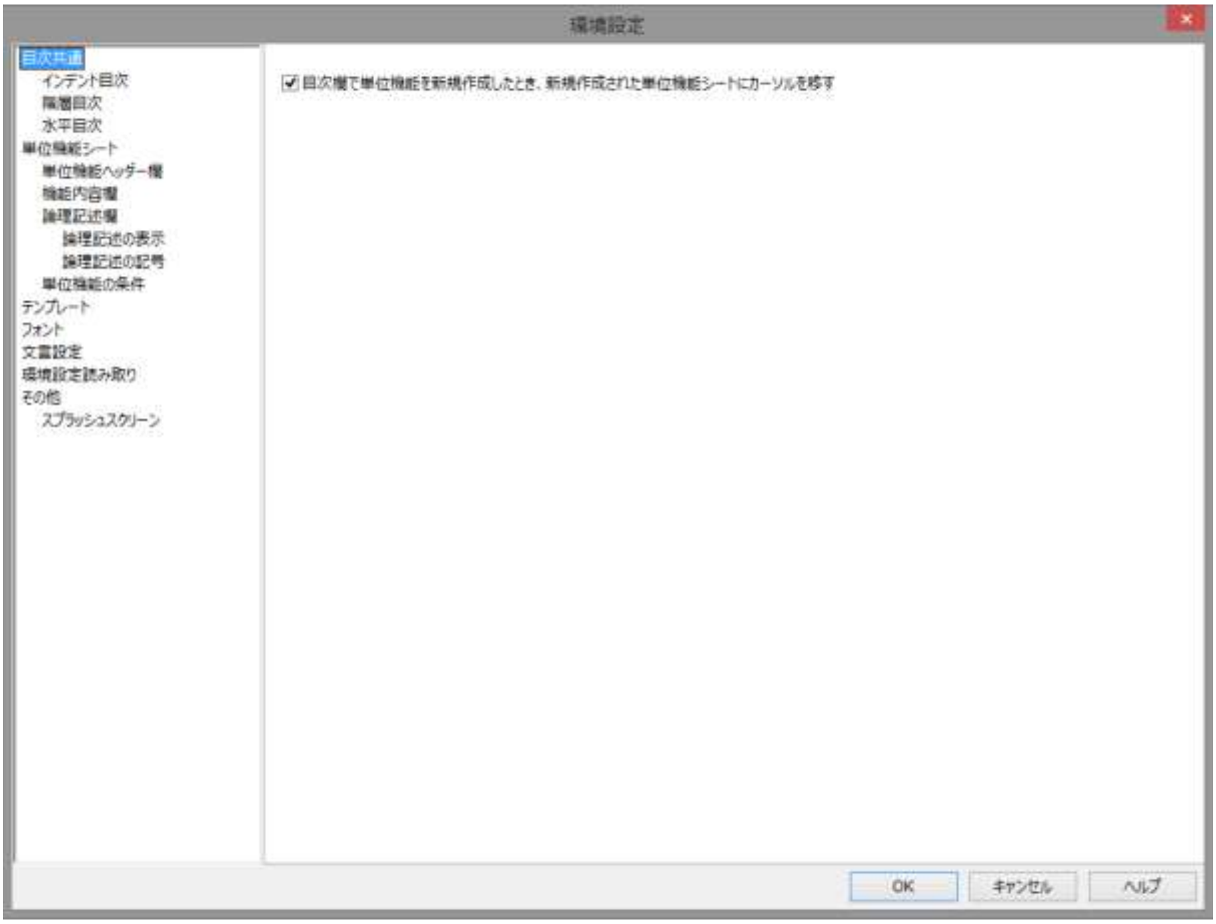
■ダイアログ名　：論理記述欄フォント
■メニュー　　　：[主要欄フォント設定]-[論理記述欄フォント]
■機能概要　　　：単位機能の論理記述欄のフォントを設定します。
論理記述欄の変項領域を選択している場合は、その文字のフォントを変更します。選択していない場合は、次の記述から適用されます。
■各項目説明　　：



●「フォント」ドロップダウンリスト
使用するフォントを設定します。
●「サイズ」ドロップダウンリスト
文字サイズを設定します。
●スタイル：「太字」チェックボックス
文字のスタイルを設定します。チェックすると文字が太字になります。チェックを外すと標準の太さになります。
●スタイル：「斜体」チェックボックス
文字のスタイルを設定します。チェックすると文字が斜体になります。チェックを外すと標準体になります。
●スタイル：「下線」チェックボックス
文字のスタイルを設定します。チェックすると文字に下線が付きます。チェックを外すと下線は付きません。
●「文字色」ドロップダウンリスト
文字色を設定します。
●色見本
選択中の色を表示します。
●フォント見本
選択中のフォントで文字を表示します。
●「同じメンバー名または状態名のフォントを一斉に変更する」チェックボックス
同じメンバー名または状態名のフォントを、すべて変更します。カーソルが論理記述欄のメンバー名または状態名に置かれているときに限り選択できます。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

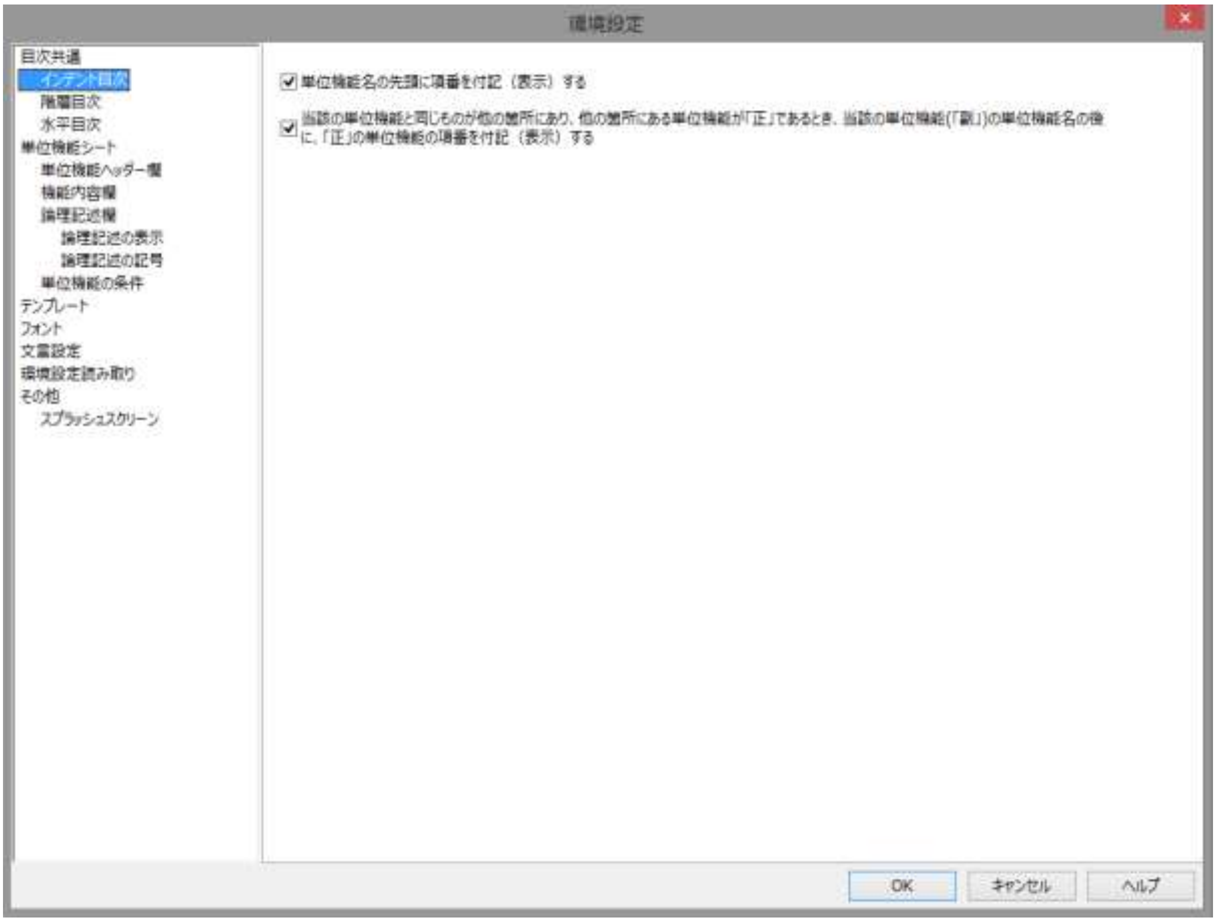
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（目次共通）
■メニュー　　　：[環境設定]-[目次共通]
■機能概要　　　：目次共通の動作環境を設定します。
■各項目説明　　：



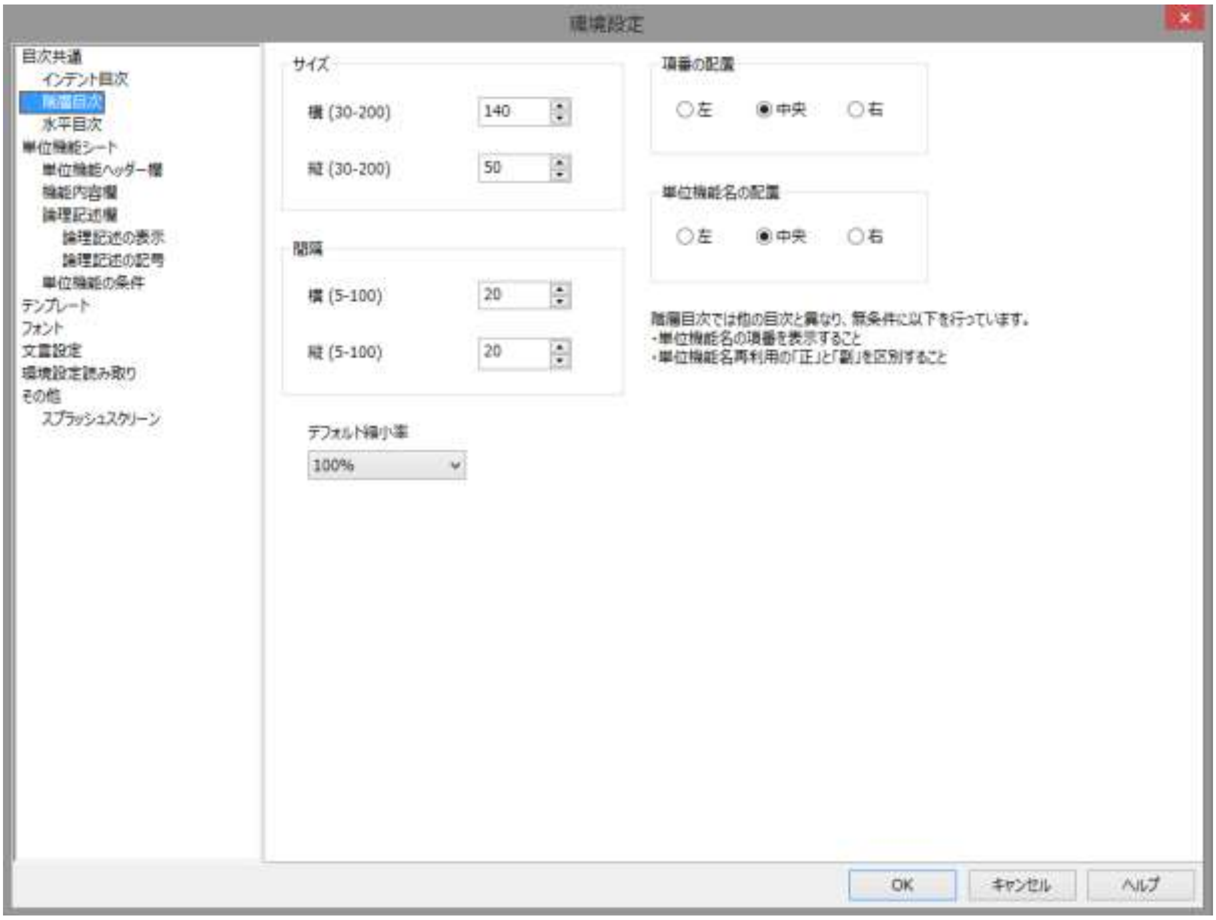
●「目次欄で単位機能を新規作成したとき、新規作成された単位機能シートにカーソルを移す」チェックボックス
新規作成されたシートにカーソルを移動させるか否かを選択します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：環境設定（インデント目次）
■メニュー　　　　：[環境設定]-[インデント目次]
■機能概要　　　　：インデント目次の動作環境を設定します。
■各項目説明　　　：



●「単位機能名の先頭に項番を付記（表示）する」チェックボックス
　インデント目次で、現在の項番を表示する場合に選択します。
●「当該の単位機能と同じものが他の箇所にあり、他の箇所にある単位機能が「正」であるとき、当該の単位機能（「副」）の単位機能名の後に、「正」の単位機能の項番を付記（表示）する」チェックボックス
　単位機能が複数箇所で用いられているとき、オリジナルの単位機能の位置を示す項番を表示する場合に選択します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：環境設定（階層目次）
■メニュー　　　：[環境設定]-[階層目次]
■機能概要　　　：階層目次の動作環境を設定します。
■各項目説明　　：



●サイズ
　階層図のサイズを指定します。
●間隔
　階層図の間隔を指定します。
●「デフォルト縮小率」ドロップダウンリスト
　階層目次を表示する際の縮小率を選択します。
●「項番の配置」ラジオボタングループ
　「左」「中央」「右」から選択します。
●「単位機能名の配置」ラジオボタングループ
　「左」「中央」「右」から選択します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：環境設定（水平目次）
■メニュー　　　　：[環境設定]-[水平目次]
■機能概要　　　　：水平目次の動作環境を設定します。
■各項目説明　　　：



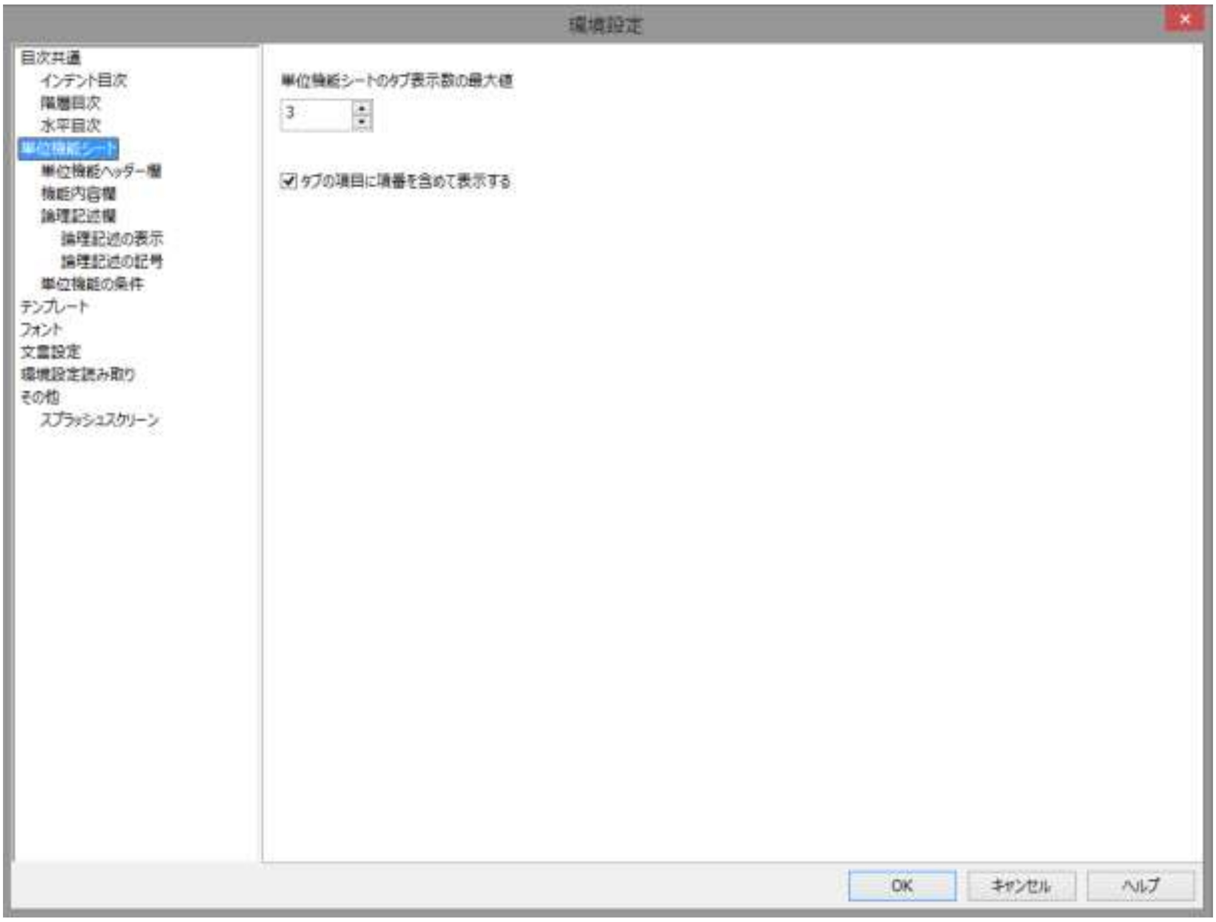
●サイズ
　水平目次のサイズを指定します。
●間隔
　水平目次の間隔を指定します。
●「単位機能名の先頭に項番を付記（表示）する」チェックボックス
　項番の表示を選択します。
●「当該の単位機能と同じものが他の箇所にあり、他の箇所にある単位機能が「正」であるとき、当該の単位機能（「副」）の単位機能名の後に、「正」の単位機能の項番を付記（表示）する」チェックボックス
　再利用されている単位機能名の項番の表示条件を選択します。
●「水平階層のレベル深さを表示する」チェックボックス
　階層の深さを表示するか否かを選択します。
●「最上位の水平階層のレベルの数値」テキストボックス
　最上位の水平階層のレベルを指定します。
●「デフォルト縮小率」ドロップダウンリスト
　階層目次を表示する際の縮小率を選択します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン

変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

●「ヘルプ」ボタン

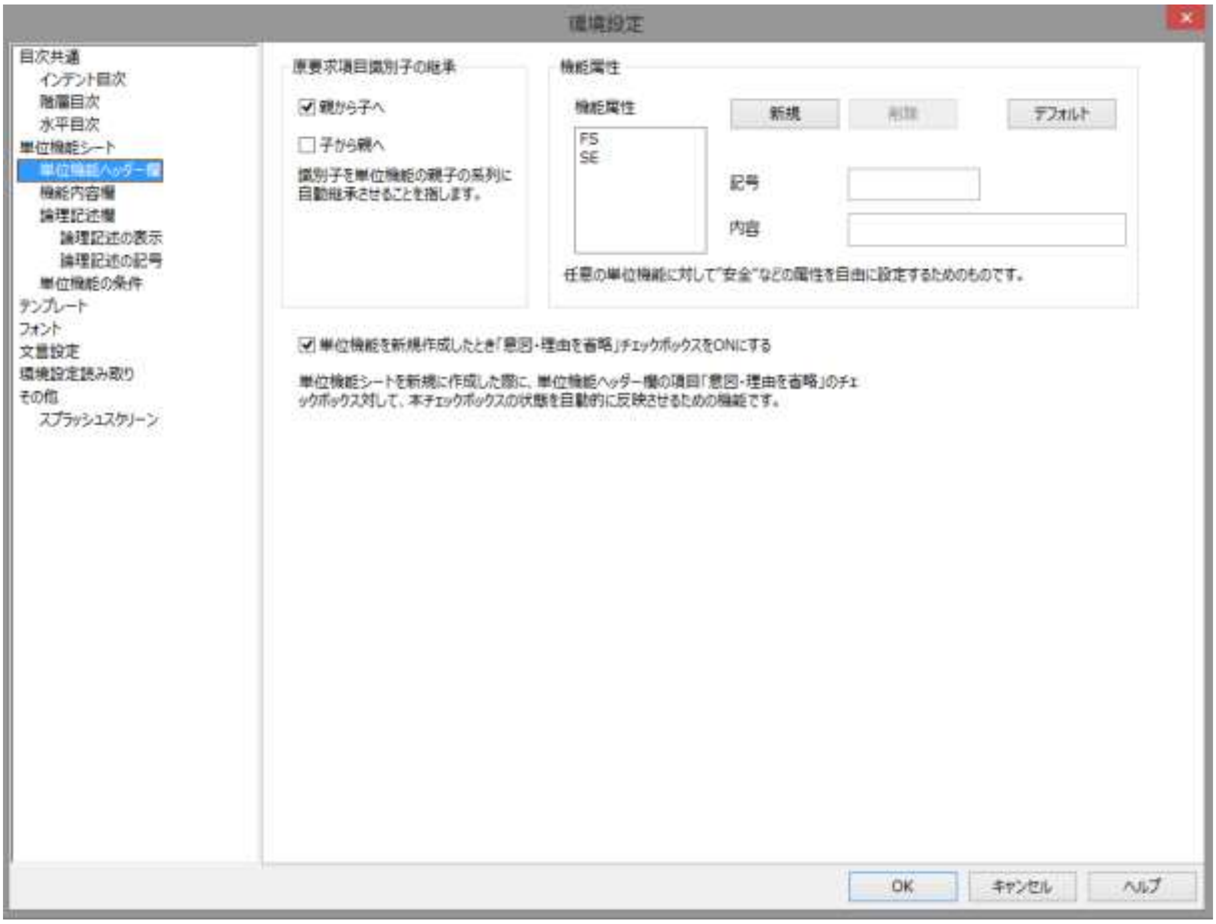
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：環境設定（単位機能シート）
■メニュー　　　　：[環境設定]-[単位機能シート]
■機能概要　　　　：単位機能シートの動作環境を設定します。
■各項目説明　　　：



●「単位機能シートのタブ表示数の最大値」テキストボックス
　単位機能シートのタブ表示の最大値を指定します。
●「タブの項目に項番を含めて表示する」チェックボックス
　単位機能に項番を表示するか否かを選択します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

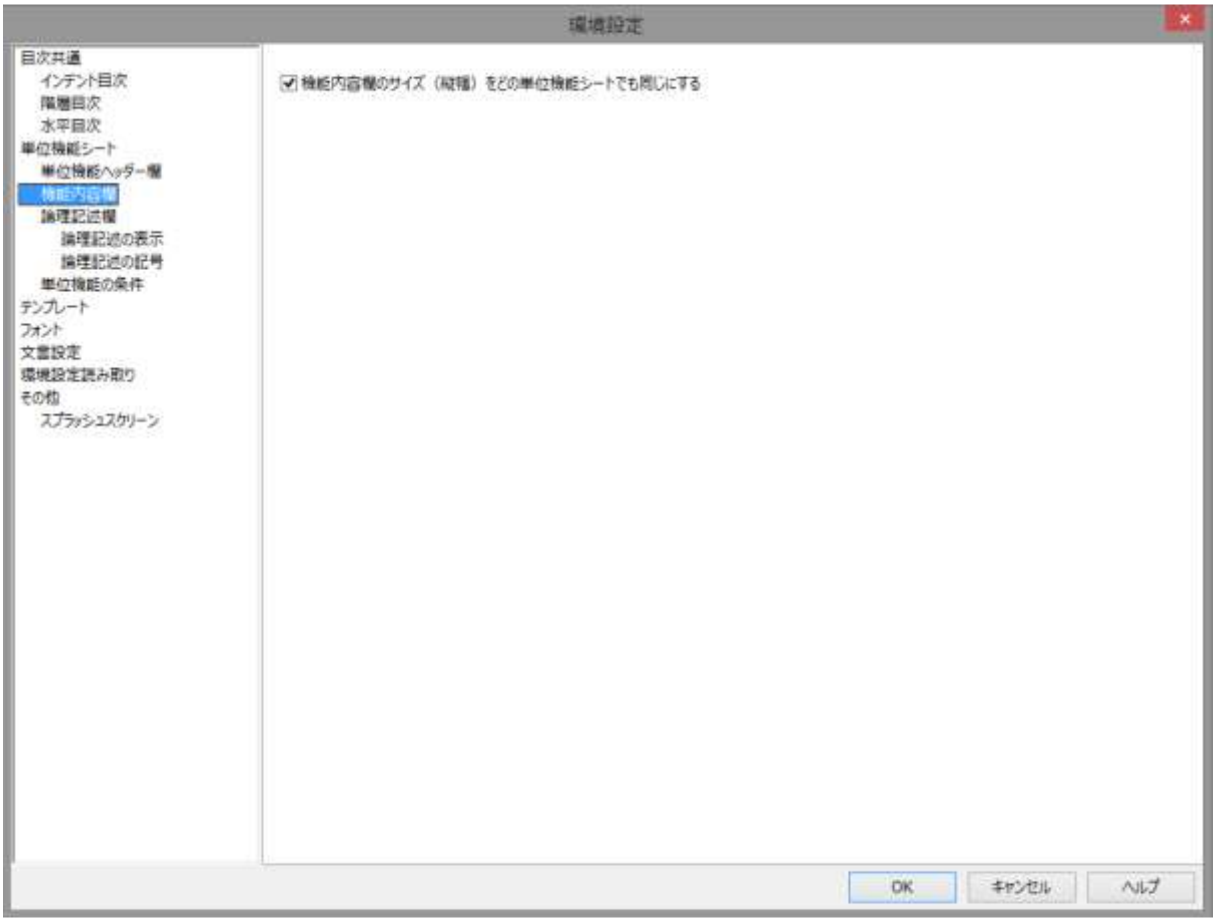
■ダイアログ名　　：環境設定（単位機能ヘッダー欄）
■メニュー　　　　：[環境設定]-[単位機能ヘッダー欄]
■機能概要　　　　：単位機能ヘッダー欄の動作環境を設定します。
■各項目説明　　　：



●「原要求項目識別子の継承 」チェックボックス
　継承する規則を選択します。
●機能属性「新規」ボタン
　機能属性を新規に編集して追加する場合に使用します。
●機能属性「削除」ボタン
　選択された機能属性を削除する場合に使用します。
●機能属性「デフォルト」ボタン
　デフォルト設定に戻ります。
●機能属性「記号」テキストボックス
　記号の入力や修正を行います。
●機能属性「内容」テキストボックス
　内容の入力や修正を行います。
●「単位機能を新規作成したとき「意図・理由を省略する」チェックボックスを ON する」チェックボックス
　単位機能の新規作成時の動作を選択します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン

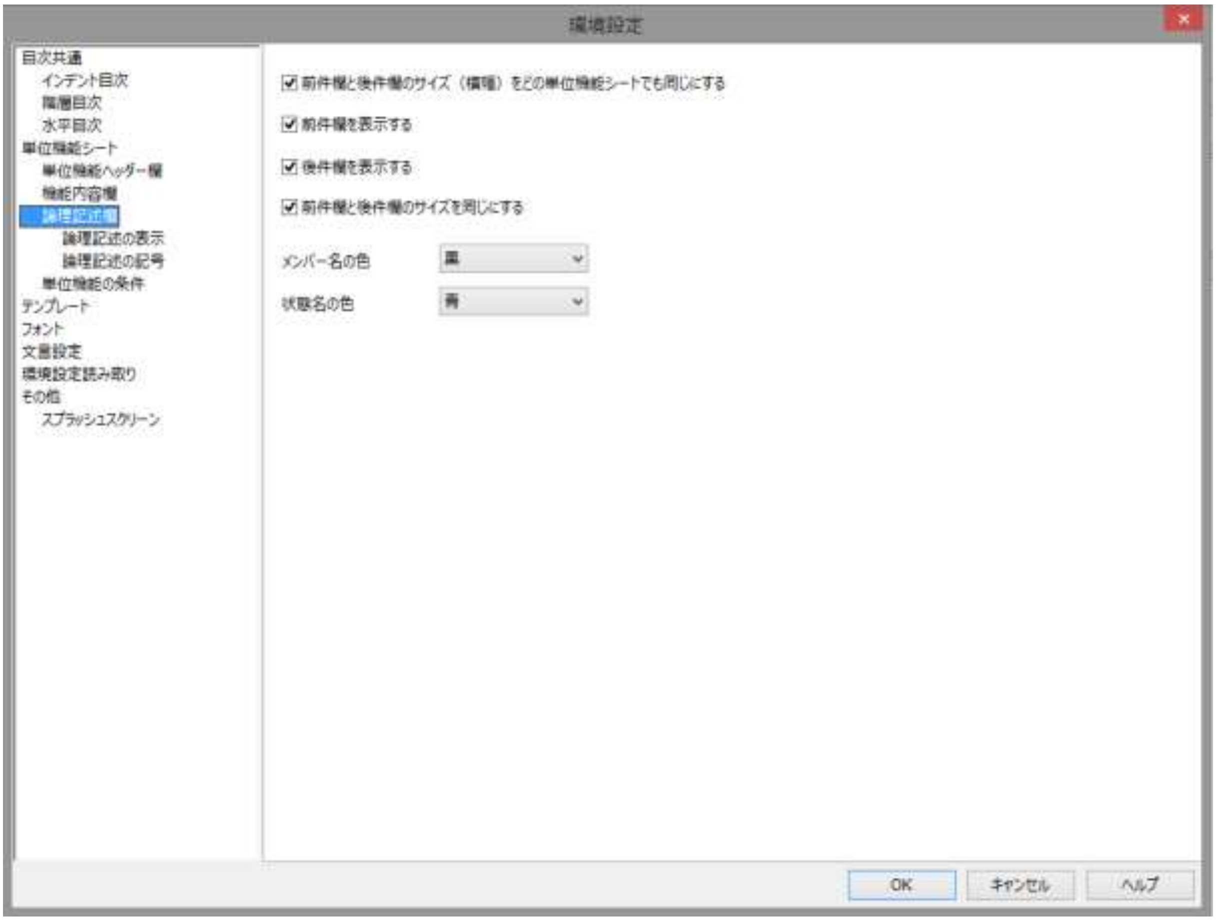
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：環境設定（機能内容欄）
■メニュー　　　：[環境設定]-[機能内容欄]
■機能概要　　　：機能内容欄の動作環境を設定します。
■各項目説明　　：



●「機能内容欄のサイズ(縦幅）をどの単位機能シートでも同じにする」
チェックボックス
機能内容欄と論理記述欄の境界の位置をすべてのシートで同期するか否かを選択します。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：環境設定（論理記述欄）
■メニュー　　　　：[環境設定]-[論理記述欄]
■機能概要　　　　：論理記述欄の動作環境を設定します。
■各項目説明　　　：

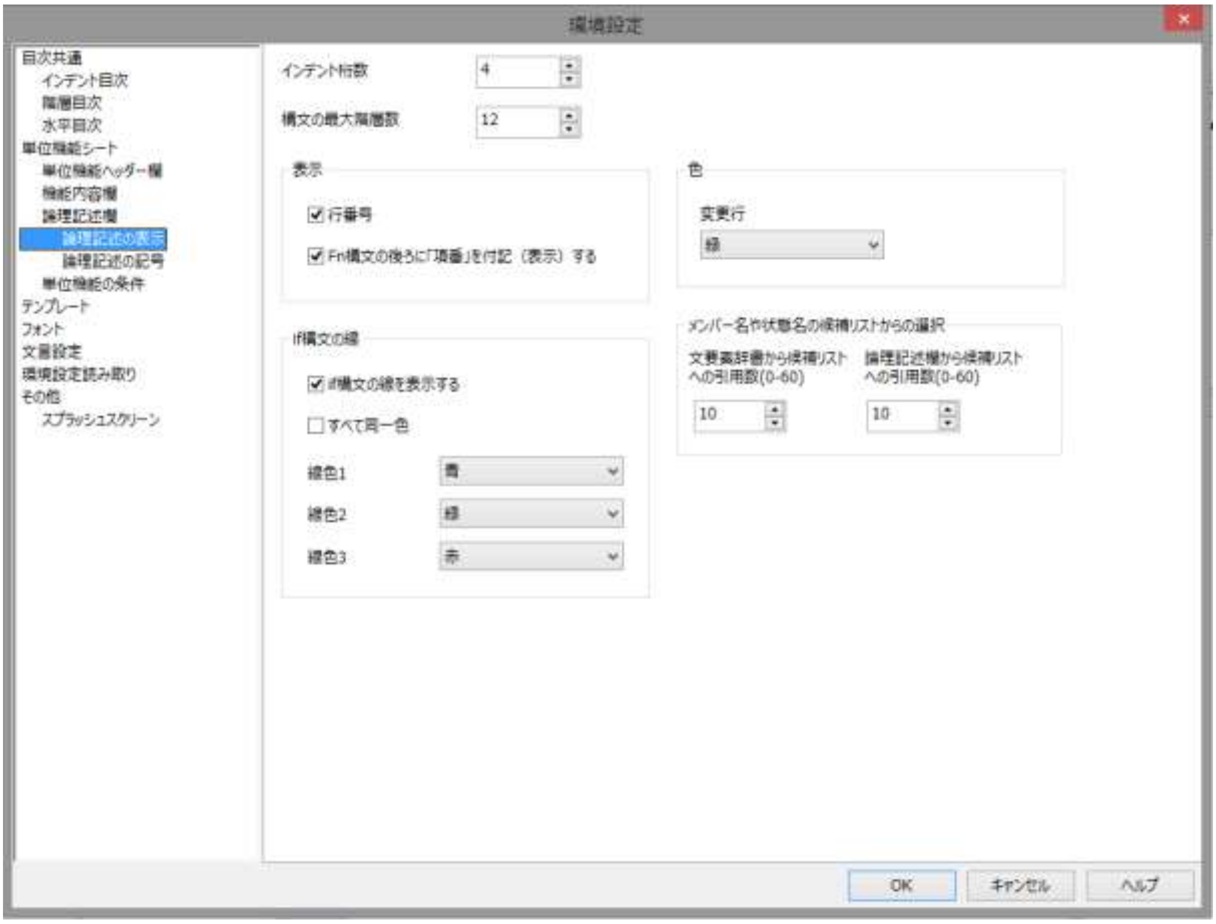


●「「前件欄と後件欄のサイズ（横幅）をどの単位機能シートでも同じにする」
　チェックボックス
　前件欄と論理記述欄の境界、論理記述欄と後件欄の境界の位置を、すべてのシートで同期するか否かを選択します。
●「前件欄を表示する」チェックボックス
　前件欄を表示するか否かを選択します。
●「後件欄を表示する」チェックボックス
　後前件欄を表示するか否かを選択します。
●「前件欄と後件欄のサイズを同じにする」チェックボックス
　前件欄と後前件欄の横幅のサイズを同じにするか否かを選択します。
●「メンバー名の色」ドロップダウンリスト
　メンバー名の表示色を選択します。
●「状態名の色」ドロップダウンリスト
　状態名の表示色を選択します。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

●「ヘルプ」ボタン

この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：環境設定（論理記号の表示）
■メニュー　　　：[環境設定]-[論理記号の表示]
■機能概要　　　：論理記号表示の動作環境を設定します。
■各項目説明　　：



●「インデント桁数」テキストボックス
　論理記述欄のインデント桁数を設定します。
●「構文の最大階層数」テキストボックス
　論理記述欄のネスト（階層）の最大数を設定します。
●「行番号」チェックボックス
　行番号を表示するか否かを選択します。
●「Fn 構文の後ろに「項番」を付記（表示）する」チェックボックス
　Fn 構文の後ろに、項番を表示するか否かを選択します。
●「if 構文の線を表示する」チェックボックス
　if～endif 間に補助線を表示するか否かを選択します
●「すべて同一色」チェックボックス
　if 構文のネストに関係なく同じ色で補助線を表示するときに選択します。
●「線色 1,2,3」ドロップダウンリスト
　If 構文のネストに応じて色を変える場合の色を選択します。
●色：「変更行」ドロップダウンリスト
　SLP を起動した後に変更があった行を表示させる色を選択します。
●メンバー名や状態名の候補リストからの選択：「文要素辞書から候補リストへの引用数」テキストボックス
「候補リストから選択」メニューに表示する文要素（メンバー名と状態名）の候補のう

ち、文要素辞書に登録されているものの件数を指定します。

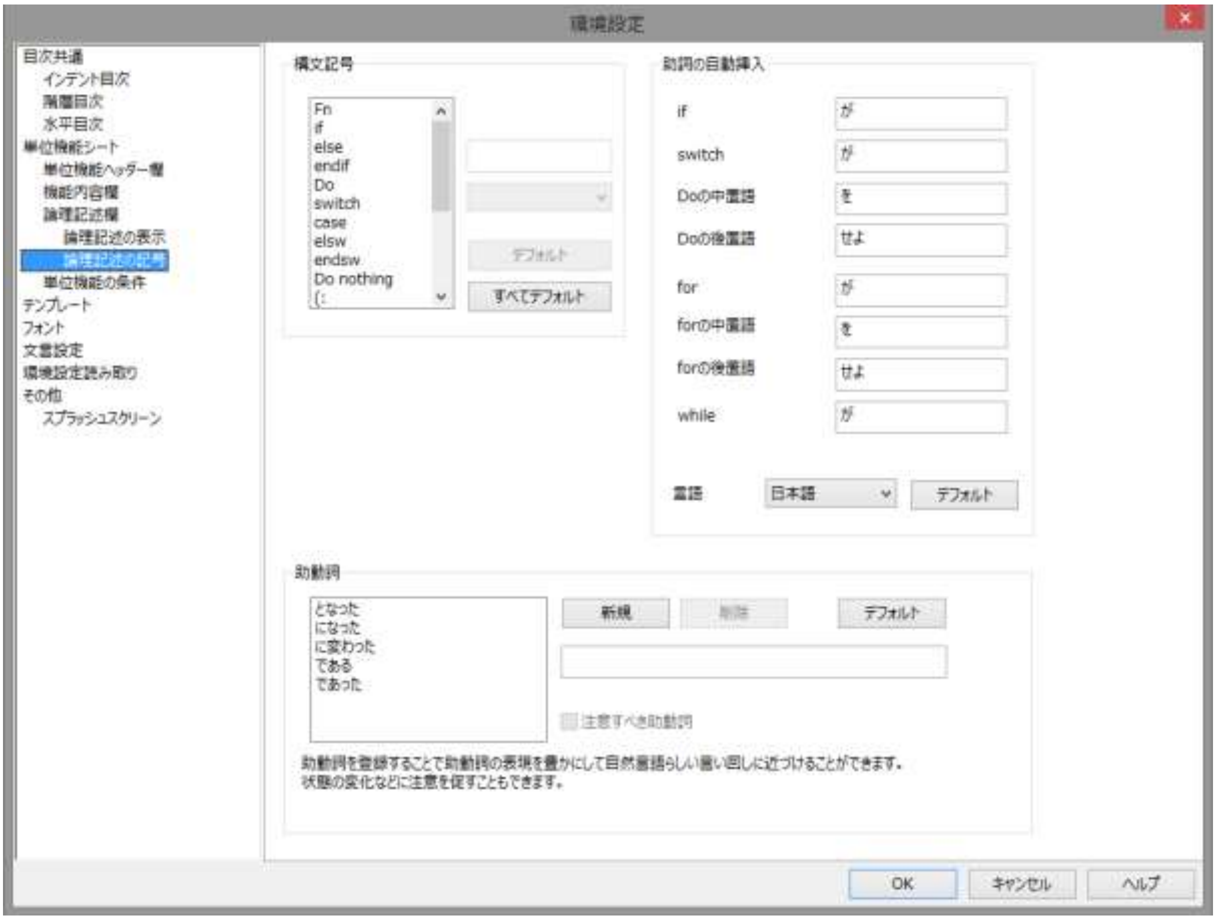
●メンバー名や状態名の候補リストからの選択:「論理記述欄から候補リストへの引用数」テキストボックス
「候補リストから選択」メニューに表示する文要素（メンバー名と状態名）の候補のうち、文要素辞書に登録されていないものの件数を指定します。

●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

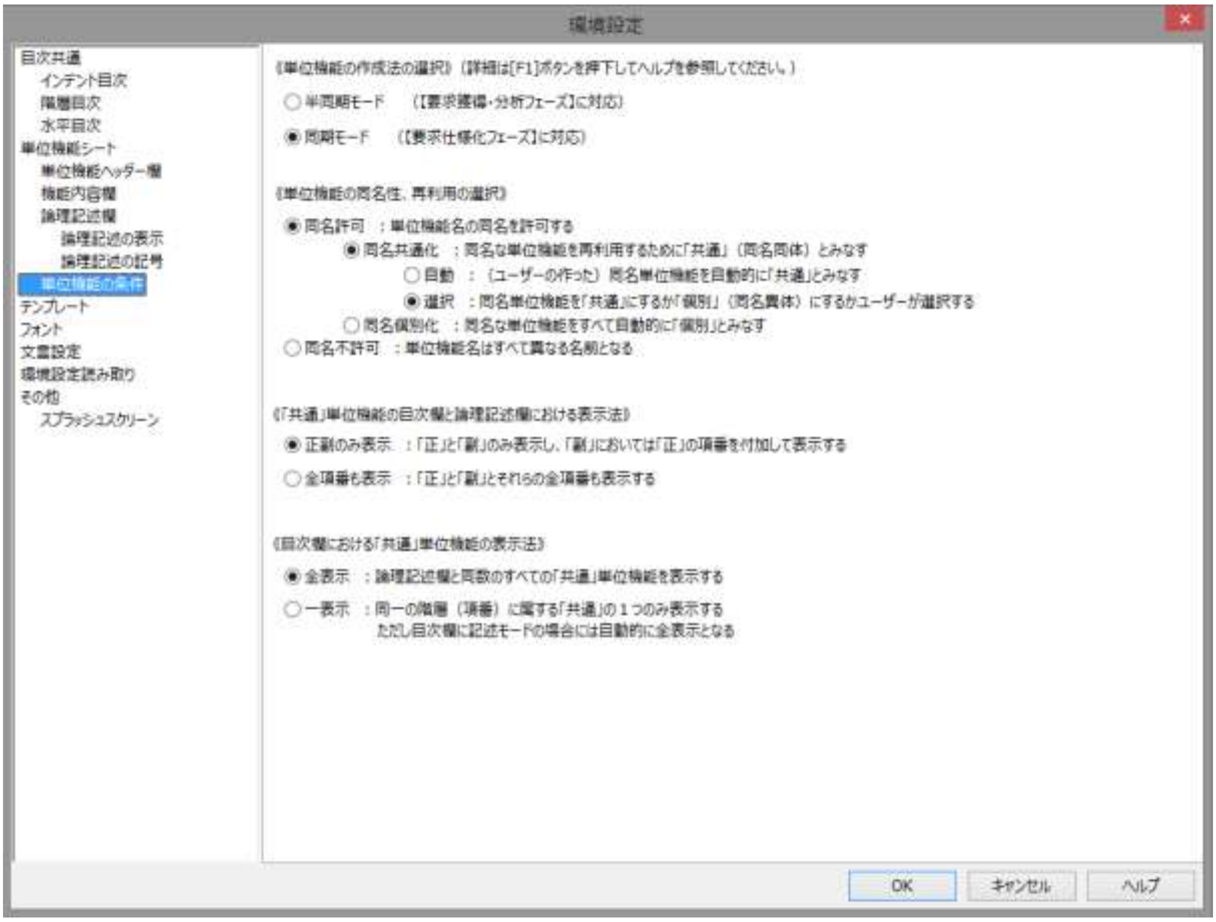
■ダイアログ名　：環境設定（論理記述の記号）
■メニュー　　　：[環境設定]-[論理記述の記号]
■機能概要　　　：論理記述の記号の動作環境を設定します。
■各項目説明　　：



●構文記号
変更する構文記号を選択します。選択するとドロップダウンリストから表示色を選択できます。
●構文記号　:「デフォルト」ボタン
選択されている構文記号をデフォルトに戻します。
●構文記号　:「すべてデフォルト」ボタン
すべての構文記号をデフォルトに戻します。
●助詞の自動挿入：if
If 構文の助詞（メンバー名と状態名の間にある入力エリア）に自動的に挿入する文字列を入力します。
●助詞の自動挿入：switch
switch 構文の助詞（メンバー名の後にある入力エリア）に自動的に挿入する文字列を入力します。
●助詞の自動挿入：Do の中間語
Do 構文の中置助詞（メンバー名と状態名の間にある入力エリア）に自動的に挿入する文字列を入力します。
●助詞の自動挿入：Do の後置語
Do 構文の後置助詞（状態名の後にある入力エリア）に自動的に挿入する文字列を入力します。

●助詞の自動挿入：for
for 構文の第 2 単位文の助詞（状態名の間にある入力エリア）に自動的に挿入する文字列を入力します。
●助詞の自動挿入：for の中間語
for 構文の第 1,第 3 単位文の中置助詞（メンバー名と状態名の間にある入力エリア）に自動的に挿入する文字列を入力します。
●助詞の自動挿入：for の後置語
for 構文の第 1,第 3 単位文の後置助詞（状態名の後にある入力エリア）に自動的に挿入する文字列を入力します。
●助詞の自動挿入：while
while 構文の助詞（状態名の間にある入力エリア）に自動的に挿入する文字列を入力します。
●助詞の自動挿入：「言語」ドロップダウンリスト
「デフォルト」ボタンを押したときに使用する言語を選択します。「日本語」と「英語」から選択できます。
●助詞の自動挿入：「デフォルト」ボタン
助詞の自動挿入の設定をデフォルトに戻します。「言語」ドロップダウンリストで選択した言語のデフォルトを使用します。
●助動詞：「新規」ボタン
新しい助動詞を追加します。
●助動詞：「削除」ボタン
選択した助動詞を削除します。
●助動詞：「デフォルト」ボタン
すべての助動詞をデフォルトに戻します。
●助動詞：「注意すべき助動詞」チェックボックス
助動詞を選択してこのチェックを ON にすると、助動詞が使われている文が検査欄に表示されます。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：環境設定（単位機能の条件）
■メニュー　　　　：[環境設定]-[単位機能の条件]
■機能概要　　　　：単位機能の条件と動作環境を設定します。
■各項目説明　　　：



●単位機能の作成法の選択：「半同期モード」ラジオボタン
単位機能を目次欄と論理記述欄で作成するモードで、目次欄で作成した単位機能は論理記述欄に自動的に書き込まれることはありません。
他方 論理記述欄で作成された単位機能（Fn 構文）は目次欄にも自動的に書き込まれます。このように書き込みが双方とも同じようになされる訳ではありませんので、これを「半同期」モードと呼びます。このボタンを選択すると、このモードでの動作になります。
またこの場合、目次欄のみに書き込まれる単位機能は論理記述欄には反映されませんので「未定」単位機能と呼び、論理記述欄で書かれた単位機能は目次欄にも書かれ、かつ項番も適切に自動採番されますので、「確定」単位機能と呼びます。
●単位機能の作成法の選択：「同期モード」ラジオボタン
単位機能は目次欄と論理記述欄のいずれか一方に作るだけで自動的に両欄に作られます。「同期」モードと呼びます。このボタンを選択するとこのモードでの動作になります。
論理記述欄で作成した場合には「半同期」の場合と同様で、「確定」単位機能が作成されます。
他方目次欄で作成した場合には、単位機能は論理記述欄にも自動記述されますが、記述される行がユーザーが考えている行に当てはまるとは限りません。
したがって、これを 「暫定」的と呼びます。 「暫定」を「確定」にするにはユーザー

の論理記述欄での修正確定作業が必要となります。

●単位機能の同名性、再利用の選択：「同名許可」ラジオボタン
単位機能の同名を許可します。

●単位機能の同名性、再利用の選択：「同名共通化」ラジオボタン
同名な単位機能を再利用するために「共通」（同名同体）とみなす指定です。

●単位機能の同名性、再利用の選択：「自動」ラジオボタン
ユーザーの作った同名単位機能を、自動的に「共通」とみなす指定です

●単位機能の同名性、再利用の選択：「選択」ラジオボタン
同名単位機能を「共通」にするか「個別」（同名異体）にするかユーザーが選択するよう指定します。

●単位機能の同名性、再利用の選択：「同名個別化」ラジオボタン
同名な単位機能をすべて自動的に「個別」とみなす指定です。

●単位機能の同名性、再利用の選択：「同名不許可」ラジオボタン
単位機能名はすべて異なる名前となる指定です。

●「共通」単位機能の目次欄と論理記述欄における表示法：「正副のみ表示」ラジオボタン
「正」と「副」のみ表示し、「副」においては「正」の項番をのみ付加して表示する指定です。

●「共通」単位機能の目次欄と論理記述欄における表示法：「全項番も表示」ラジオボタン
「正」と「副」と、それらの全項番も表示する指定です。

●目次欄における「共通」単位機能の表示法：「全表示」ラジオボタン
論理記述欄と同数のすべての「共通」単位機能を表示する指定です。

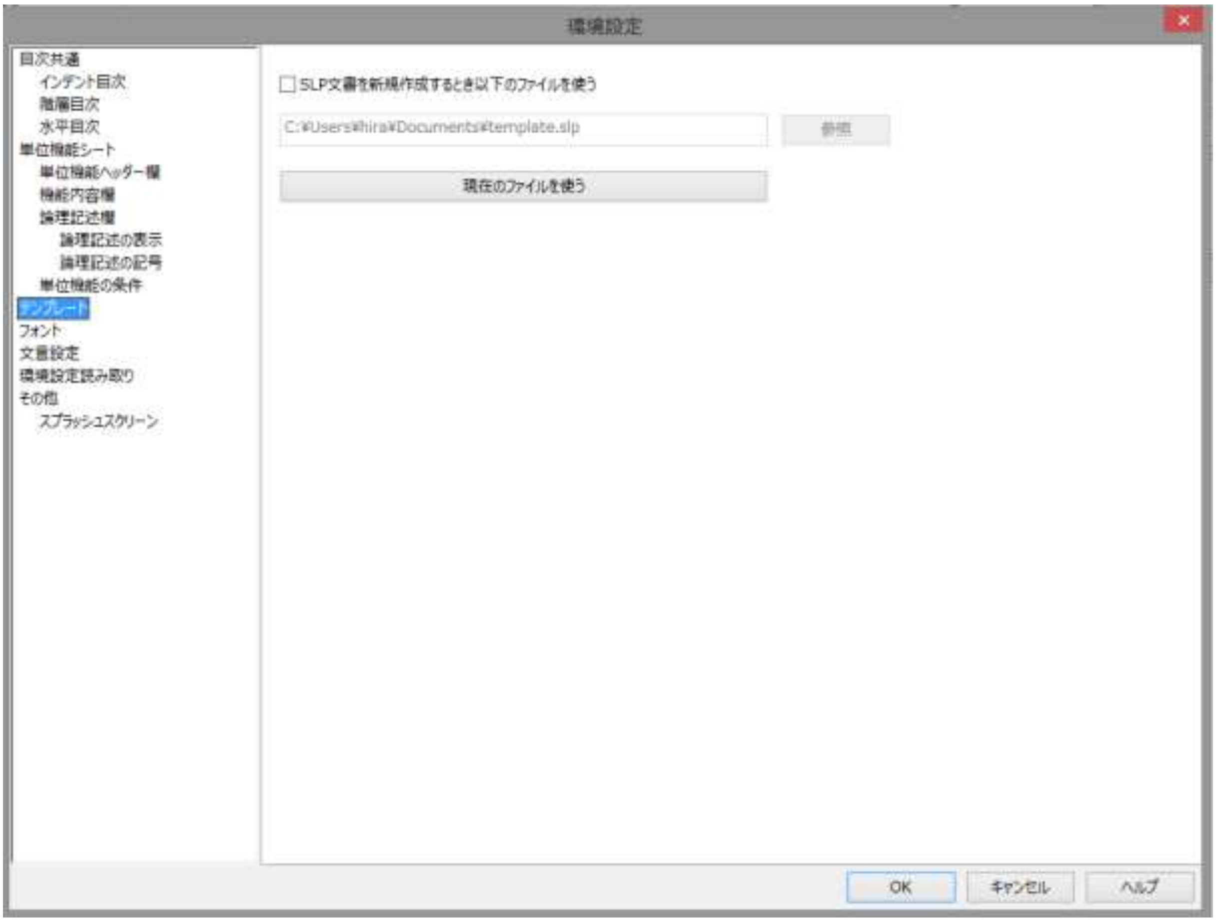
●目次欄における「共通」単位機能の表示法：「一表示」ラジオボタン
同一の階層（項番）に属する「共通」は１つのみ表示する指定です。
ただし「半同期モード」の場合には、自動的に全表示となります。

●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

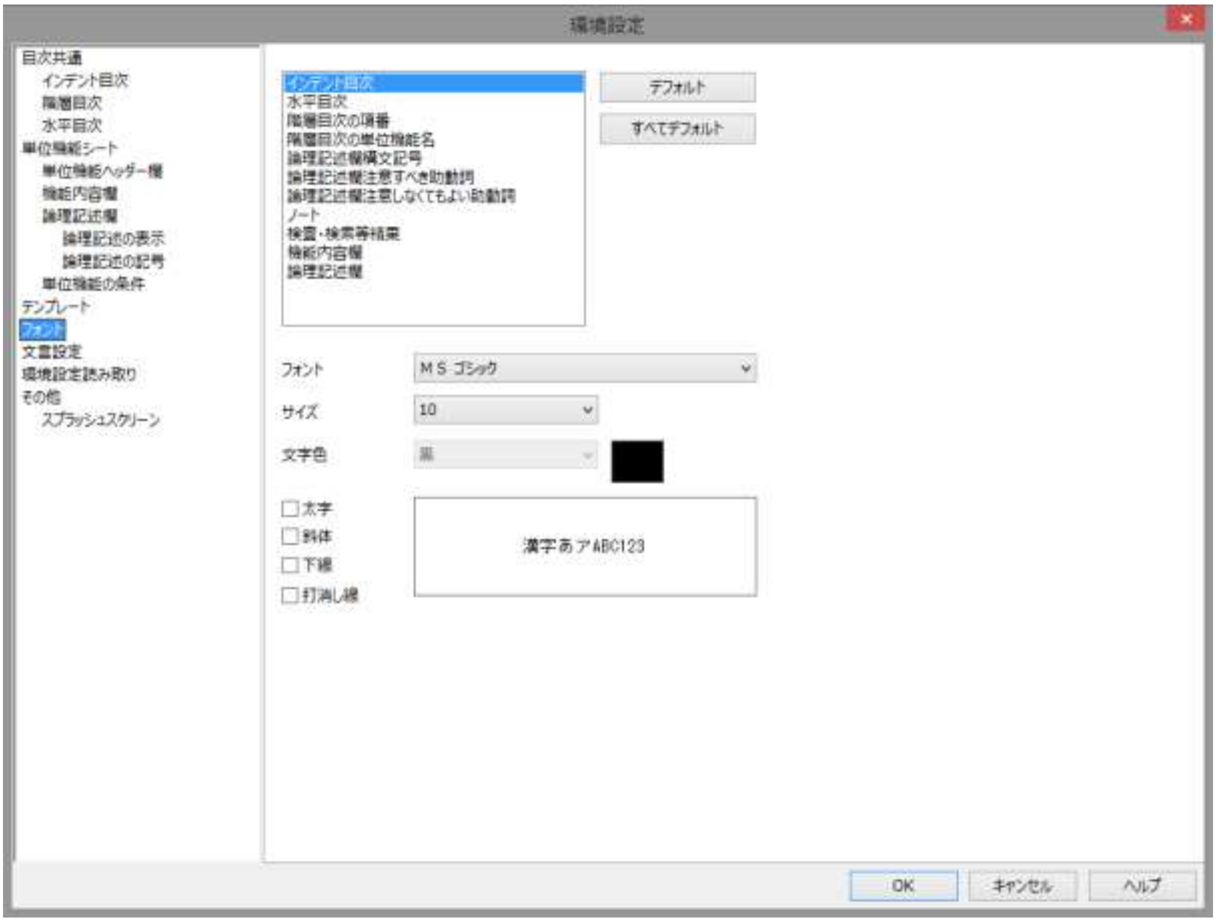
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：環境設定（テンプレート）
■メニュー　　　　：[環境設定]-[テンプレート]
■機能概要　　　　：各種設定を継承するテンプレートファイルを指定します。
■各項目説明　　　：



●「SLP 文書を新規作成するとき以下のファイルを使う」チェックボックス
SLP 文書を新規作成したとき、指定されたファイルから設定を引き継ぐようにします。選択したときに下のテキストボックスからファイル名を指定します。
●「参照」ボタン
ファイル選択メニューが開きます。
●「現在のファイルを使う」ボタン
現在開いている SLP 文書のファイル名をテキストボックスに自動的に入力するとともに、「SLP 文書を新規作成するとき以下のファイルを使う」チェックボックスを ON にします。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：環境設定（フォント）
■メニュー　　　：[環境設定]-[フォント]
■機能概要　　　：表示用フォントを選択します。
■各項目説明　　：



●リストボックス
　設定の対象を選択します。
●「デフォルト」ボタン
　リストボックスで選択されているフォントをデフォルトに戻します。
●「すべてデフォルト」ボタン
　すべてのフォントをデフォルトに戻します。
●「フォント」ドロップダウンリスト
　フォント名を指定します。
●「サイズ」ドロップダウンリスト
　文字の大きさを指定します。
●「文字色」ドロップダウンリスト
　文字の色を指定します。
●「太字」チェックボックス
　太字にします。
●「斜体」チェックボックス
　斜体にします。
●「下線」チェックボックス
　文字に下線を引きます。
●「OK」ボタン

変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：環境設定（文言設定）
■メニュー　　　：[環境設定]-[文言設定]
■機能概要　　　：文言を任意の単語に設定（変更）できます。
■各項目説明　　：



●リストボックス
　文言を選択します。
●「日本語」テキストボックス
　日本語の文言を指定します。
●「英語の単数形」テキストボックス
　英語の単数形の文言を指定します。
●「英語の複数形」テキストボックス
　英語の複数形の文言を指定します。単数形と複数形の区別がない品詞（動詞、形容詞など）では、単数形と同じ文言を入力してください。
●「デフォルト」ボタン
　リストボックスで選択された文言をデフォルトに戻します。
●「すべてデフォルト」ボタン
　すべての文言をデフォルトに戻します。
●「インポート」ボタン
　文言設定をファイルからインポートします。
　インポートできるファイルの形式は、文字コードが UTF-8 (BOM なし)、改行コードが LF または CR+LF のテキストファイルです。文言設定をエクスポートして、Windows の「メモ帳」等で編集した後、インポートすることができます。
●「エクスポート」ボタン

文言設定をファイルにエクスポートします。

●「OK」ボタン

変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

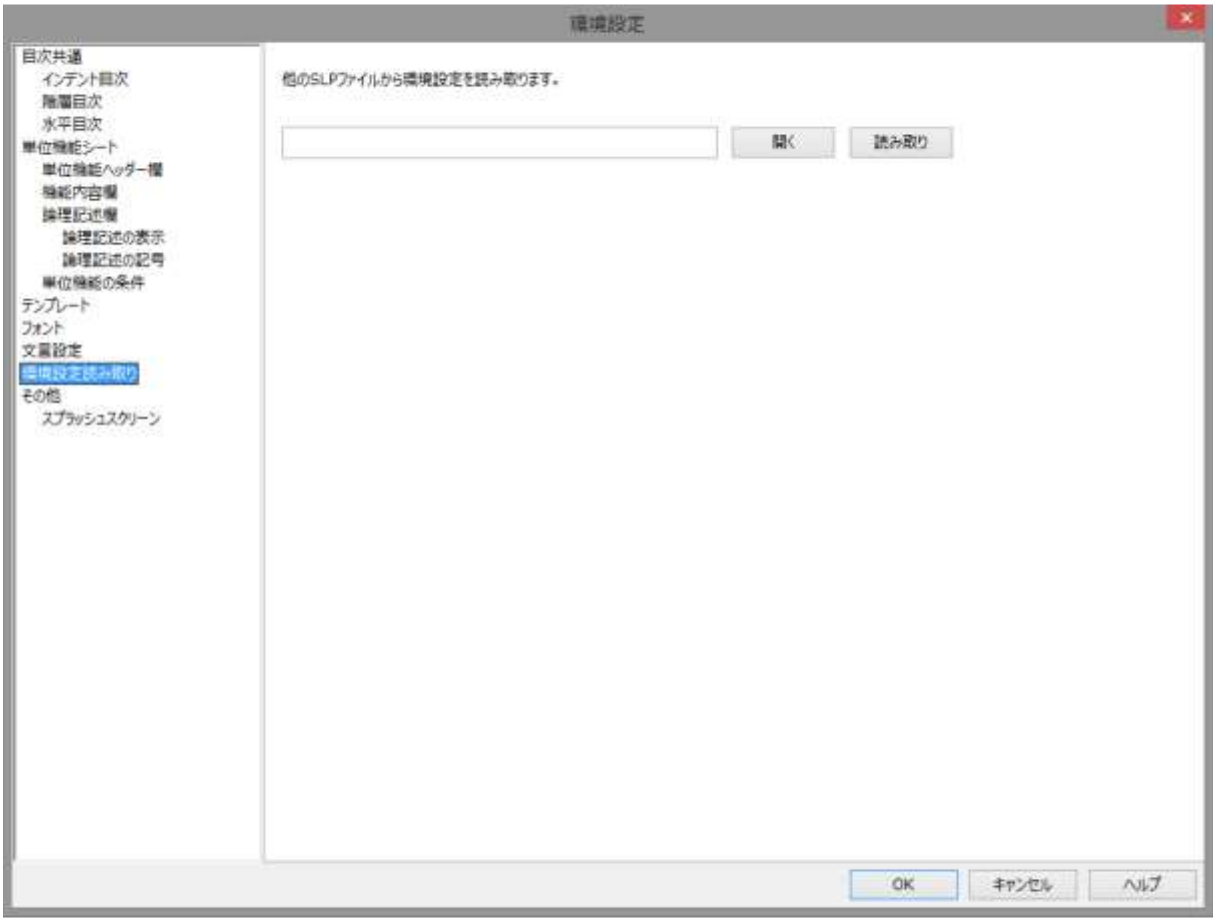
●「キャンセル」ボタン

変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

●「ヘルプ」ボタン

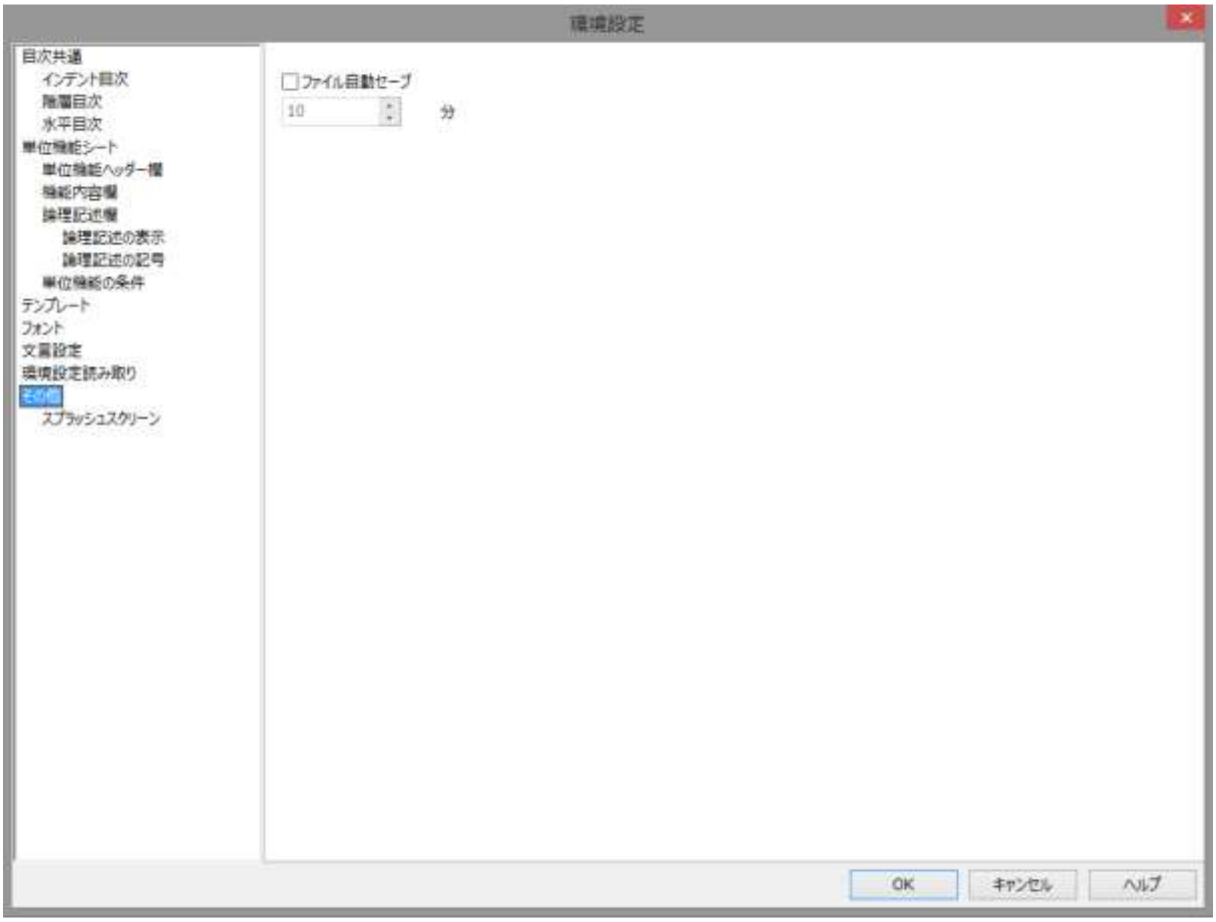
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：環境設定（環境設定読み取り）
■メニュー　　　：[環境設定]-[環境設定読み取り]
■機能概要　　　：他の SLP 文書から環境設定を読み取ります。
■各項目説明　　：



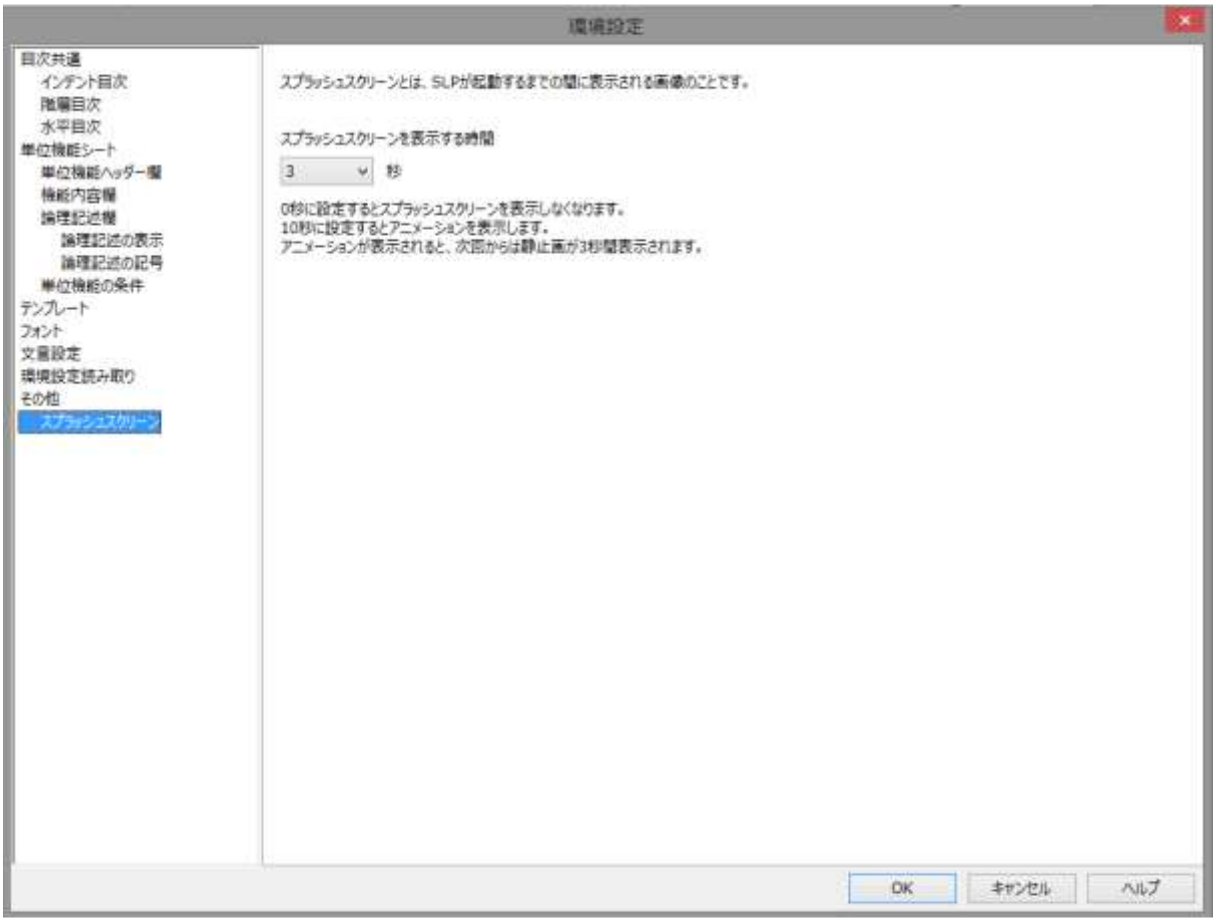
●テキストボックス
　ファイル名を指定します。
●「開く」ボタン
　「ファイルを開く」ウィンドウでファイルを選択します。
●「読み取り」ボタン
　指定された SLP 文書から環境設定を読み取ります。
●「OK」ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
　この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　　：環境設定（その他）
■メニュー　　　　：[環境設定]-[その他]
■機能概要　　　　：ファイルの自動セーブ時間を指定します。
■各項目説明　　　：



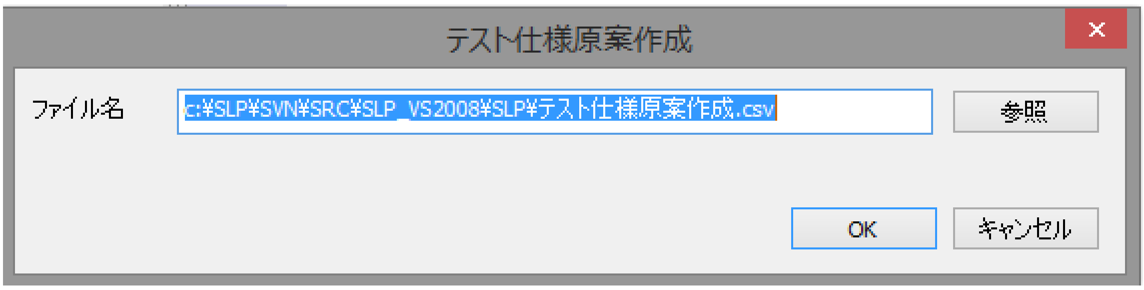
●「ファイル自動セーブ」チェックボックス
ON にすると、現在開いている SLP 文書ファイルの自動セーブが行われます。
●「分」テキストボックス
ファイル自動セーブの間隔を入力します。1 分から 60 分まで 1 分刻みで設定できます。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：環境設定（スプラッシュスクリーン）
■メニュー　　　：[環境設定]-[スプラッシュスクリーン]
■機能概要　　　：SLP を起動したときスプラッシュスクリーンを表示する時間を設定します。
■各項目説明　　：



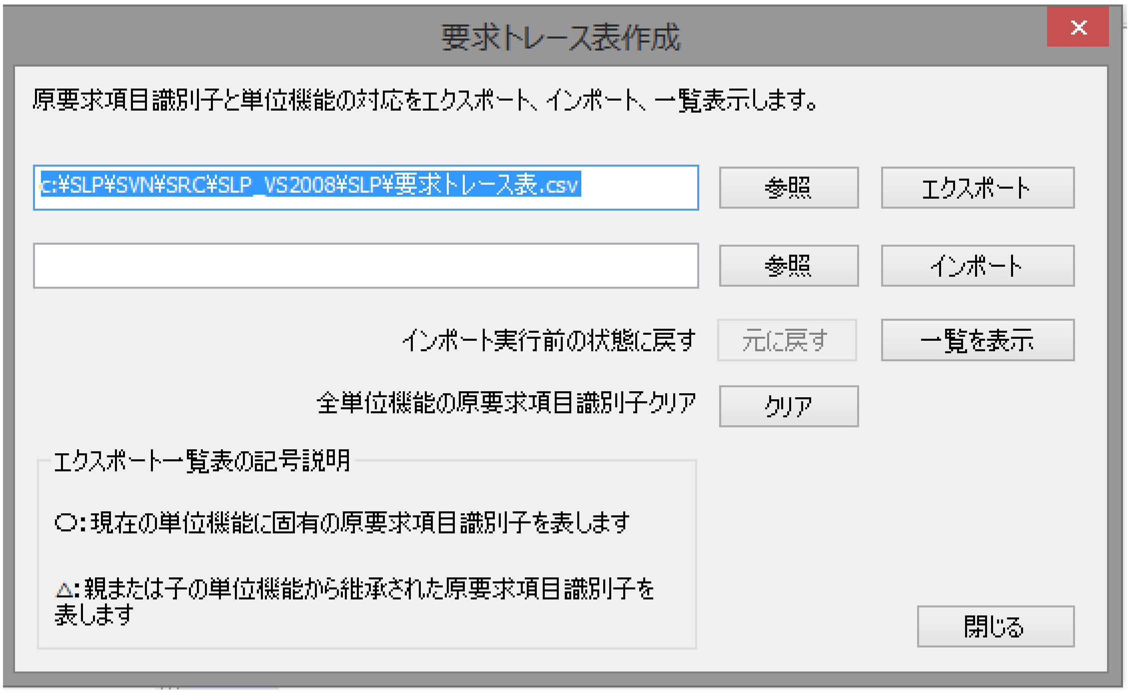
●「スプラッシュスクリーンを表示する時間」ドロップダウンリスト
SLP を起動したときスプラッシュスクリーンを表示する時間を設定します。0 秒から 10 秒まで 1 秒刻みで設定できます。
●「OK」ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●「ヘルプ」ボタン
この設定に関連したヘルプ画面を表示します。

■ダイアログ名　：テスト仕様原案作成
■メニュー　　　：[工程間連携]-[テスト仕様原案作成]
■機能概要　　　：テスト仕様原案を作成するファイル名を指定し、出力します。
■各項目説明　　：



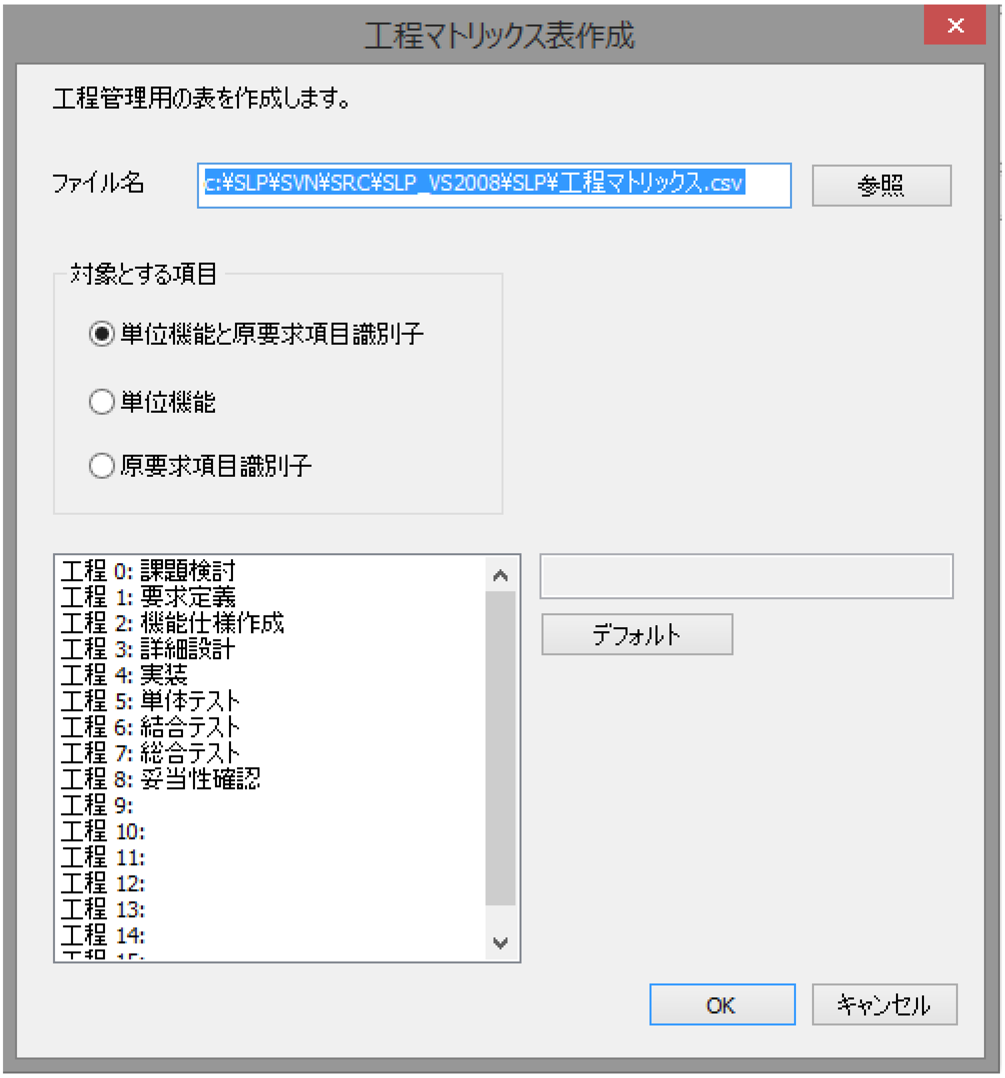
●「ファイル名」テキストボックス
　テスト仕様原案を出力するファイル名を指定します。
●「参照」ボタン
　テスト仕様原案を出力するファイル名を「名前を付けて保存」ウィンドウで指定します。
●「OK」ボタン
　テスト仕様原案を出力して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　テスト仕様原案を出力せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：要求トレース表作成
■メニュー　　　：[工程間連携]-[要求トレース表作成]
■機能概要　　　：原要求項目識別子と単位機能の対応を表示します。
■各項目説明　　：



●上段のテキストボックス
原要求項目識別子をエクスポートするファイル名を指定します。
●上段の「参照」ボタン
原要求項目識別子をエクスポートするファイル名を「名前を付けて保存」ウィンドウで指定します。
●「エクスポート」ボタン
原要求項目識別子をエクスポートします。
●下段のテキストボックス
原要求項目識別子をインポートするファイル名を指定します。
●下段の「参照」ボタン
原要求項目識別子をインポートするファイル名を「開く」ウィンドウで指定します。
●「インポート」ボタン
原要求項目識別子をインポートします。
●「一覧を表示」ボタン
原要求項目識別子と単位機能の対応の一覧を「検査・検索等結果」ウィンドウに表示します。
●「元に戻す」ボタン
インポートを実行した場合に、その前の状態に戻します。
●「クリア」ボタン
全単位機能の原要求項目識別子をクリアします。
●「閉じる」ボタン
「要求トレース表作成」ダイアログボックスを閉じます。

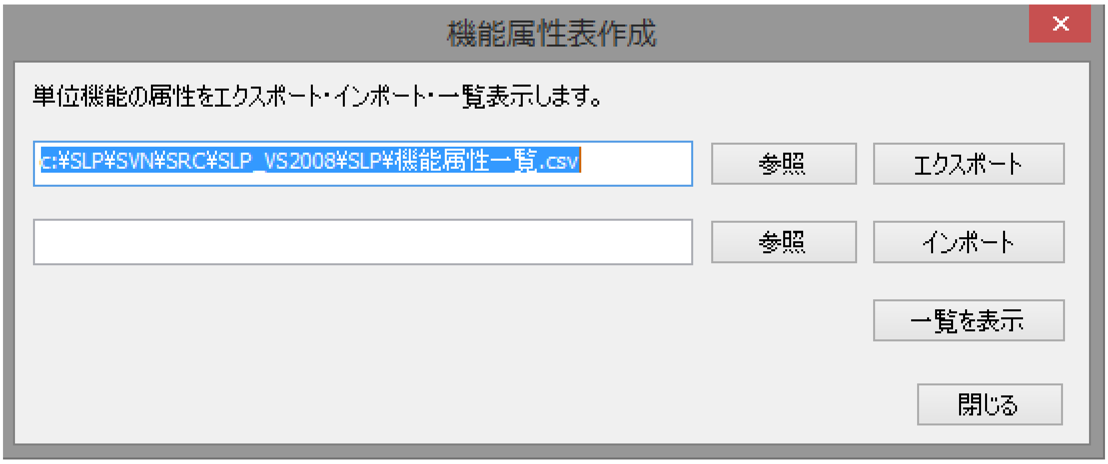
■ダイアログ名　　：工程マトリックス表作成
■メニュー　　　　：[工程間連携]-[工程マトリックス表作成]
■機能概要　　　　：工程マトリックス表作成のパラメータを設定します。
■各項目説明　　　：



● 「ファイル名」テキストボックス
　工程マトリックス表のファイル名を指定します。
● 「参照」ボタン
　工程マトリックス表のファイル名を「名前を付けて保存」ウィンドウで指定します。
● 「対象とする項目」ラジオボタングループ
　工程マトリックスの縦軸の項目を選択します。「単位機能と原要求項目識別子」「単位機能」「原要求項目識別子」から選択できます。
● 「工程一覧」リストボックス
　工程マトリックス表の横軸に記載される工程名が表示されます。
● 「工程名」テキストボックス
　新しい工程名を指定します。
● 「デフォルト」ボタン
　「工程一覧」リストボックスで選択した工程名を、デフォルトに戻します。
● 「OK」ボタン

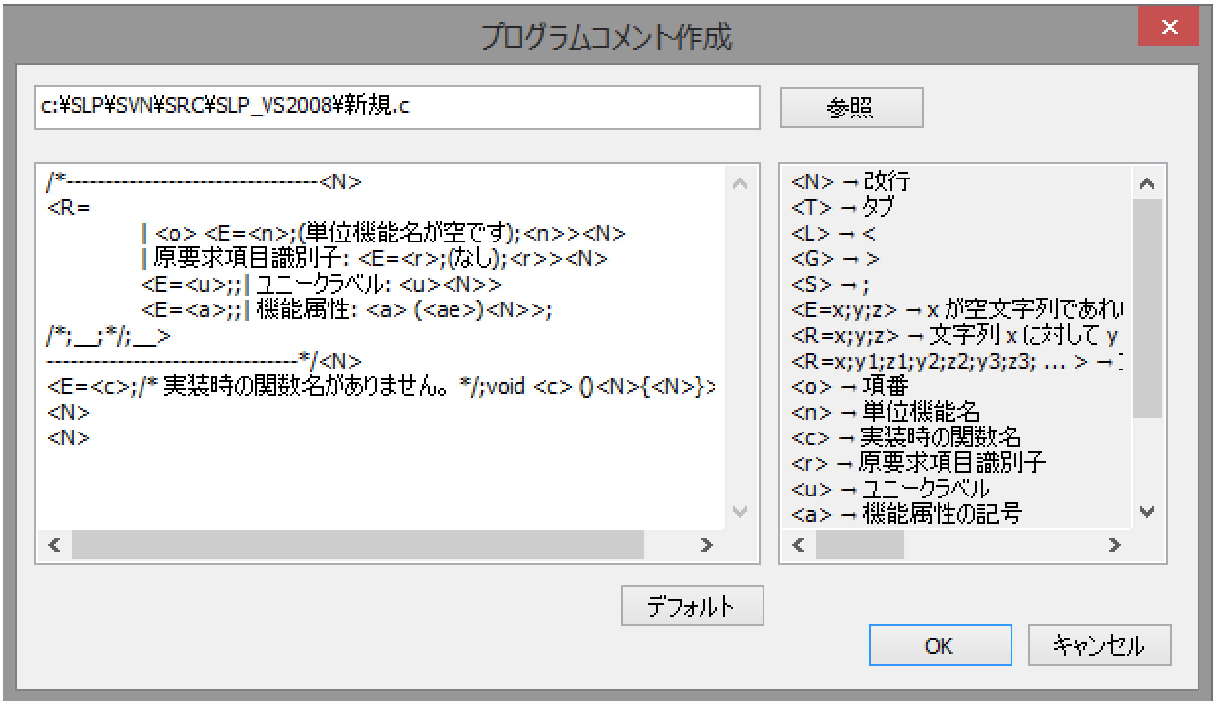
工程マトリックスを出力して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
工程マトリックス表を出力せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：機能属性表作成
■メニュー　　　：[工程間連携]-[機能属性表作成]
■機能概要　　　：機能属性の一覧表示やインポート／エクスポートを行います。
■各項目説明　　：



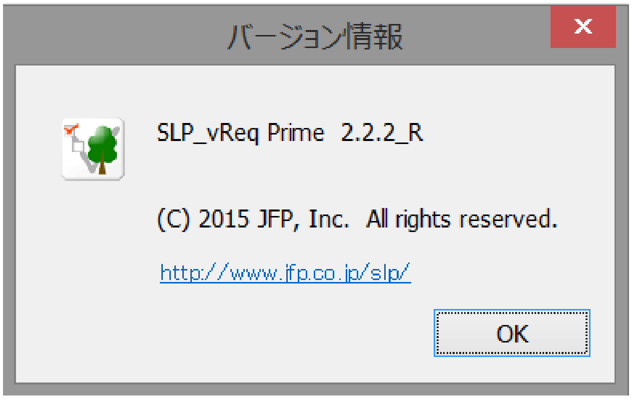
●上段のテキストボックス
　機能属性をエクスポートするファイル名を指定します。
●上段の「参照」ボタン
　機能属性をエクスポートするファイル名を「名前を付けて保存」ウィンドウで指定します。
●「エクスポート」ボタン
　機能属性をエクスポートします。
●下段のテキストボックス
　機能属性をインポートするファイル名を指定します。
●下段の「参照」ボタン
　機能属性をインポートするファイル名を「開く」ウィンドウで指定します。
●「インポート」ボタン
　機能属性をインポートします。
●「一覧を表示」ボタン
　機能属性の一覧を「検査・検索等結果」ウィンドウに表示します。
●「閉じる」ボタン
　「機能属性表作成」ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：プログラムコメント作成
■メニュー　　　　：[工程間連携]-[プログラムコメント作成]
■機能概要　　　　：プログラムのソースコードに付けるコメントを生成する機能です。
■各項目説明　　　：



● 「参照」ボタン
　出力するファイル名を指定します。
● 「デフォルト 」ボタン
　デフォルトの出力項目設定に戻します。
● 「OK」ボタン
　コメントファイルを出力して、ダイアログボックスを閉じます。
● 「キャンセル」ボタン
　コメントファイルを出力せずに、ダイアログボックスを閉じます。

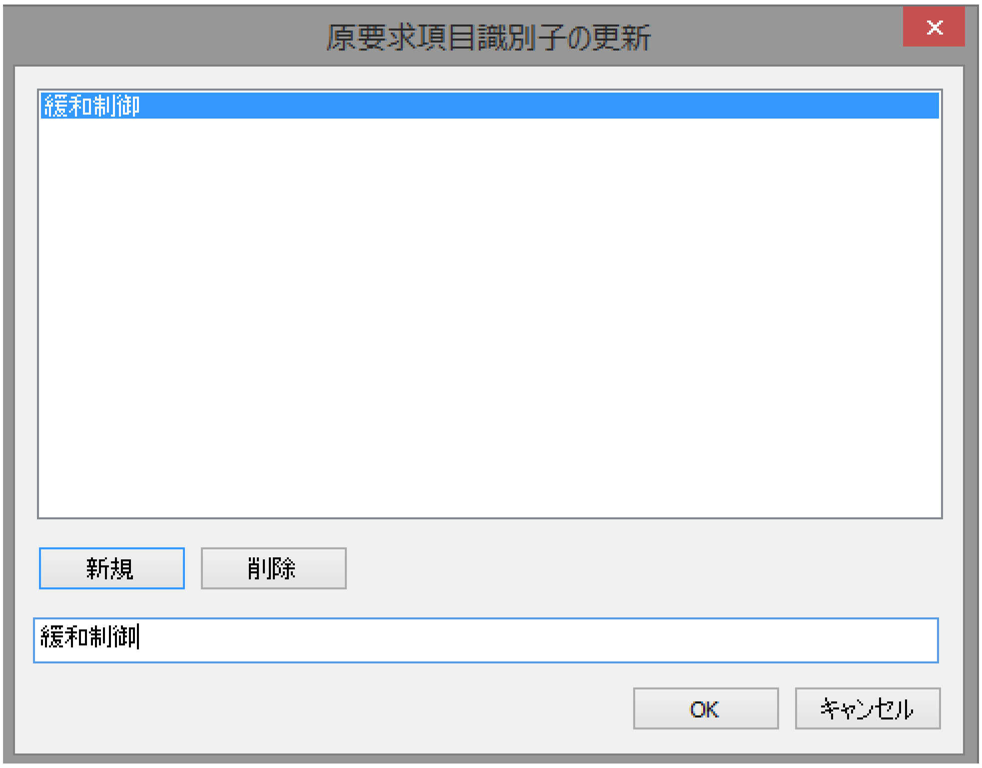
■ダイアログ名　：バージョン情報
■メニュー　　　：[ヘルプ]-[バージョン情報]
■機能概要　　　：バージョン情報を表示します。
■各項目説明　　：



「バージョン情報」ダイアログボックスを表示するには、メインメニューの「ヘルプ」サブメニューの「バージョン情報」を選択してください。「バージョン情報」ウィンドウは、SLP のバージョン、著作権、公式サイトを表示します。

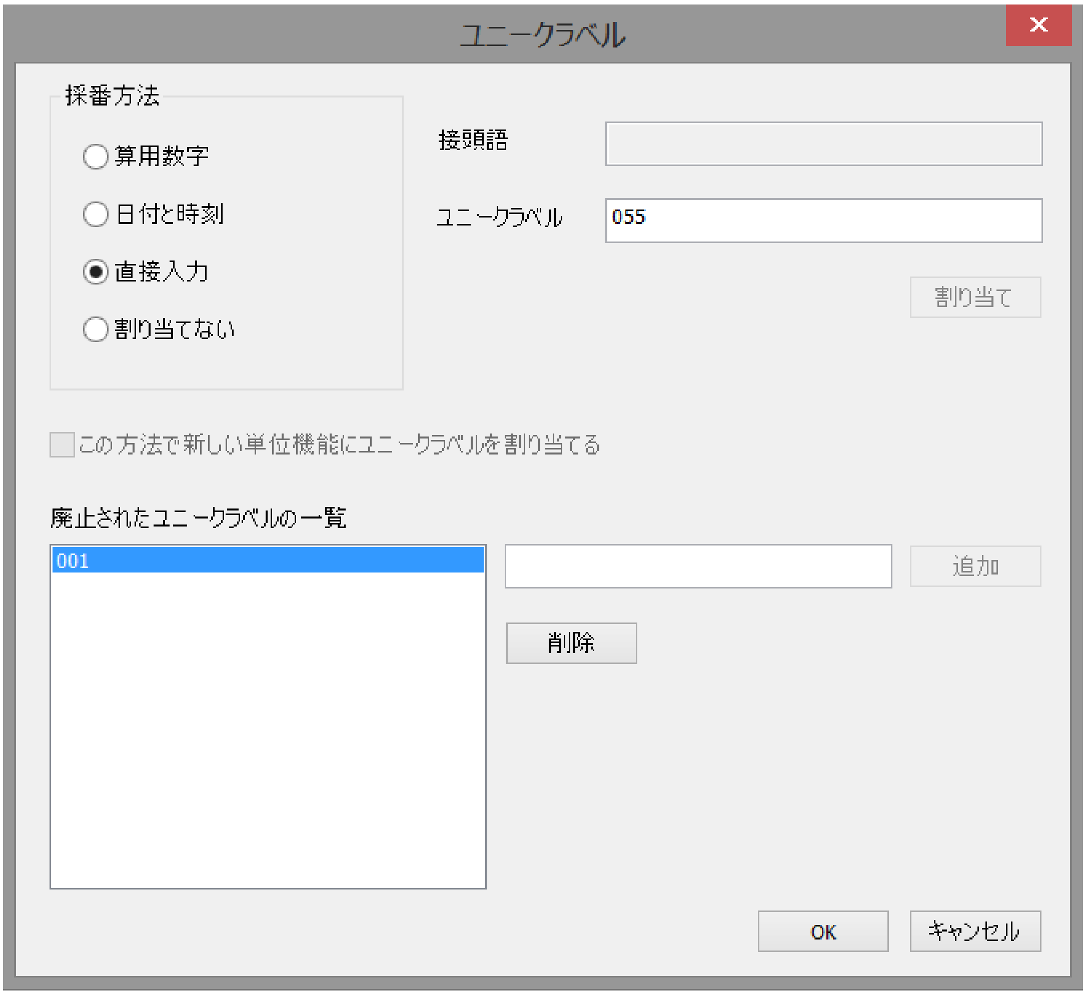
●「OK」ボタン
「バージョン情報」ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：原要求項目識別子の更新
■メニュー　　　：[機能内容ヘッダー欄]-[原要求項目識別子]-[更新]
■機能概要　　　：原要求項目識別子を更新します。
■各項目説明　　：



●リストボックス
　原要求項目識別子の一覧が表示されます。
●「新規」ボタン
　このボタンを押下すると、図のような入力用のテキストボックスが現れます。
●「削除」ボタン
　リストボックスで選択された項目を削除します。
●「OK」ボタン
　更新処理を終了して、ダイアログボックスを閉じます。
●「キャンセル」ボタン
　更新処理をキャンセルして、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：ユニークラベル
■メニュー　　　：[機能内容ヘッダー欄]-[ユニークラベル]-[採番]
■機能概要　　　：ユニークラベルの採番方法を指定します。
■各項目説明　　：



●採番方法：「算用数字」ラジオボタン
通常の算用数字の連番で採番する指定です。
●採番方法：「日付と時刻」ラジオボタン
日付と時刻から採番する指定です。
●採番方法：「直接入力」ラジオボタン
番号を手入力によって採番する指定です。
●採番方法：「割り当てない」ラジオボタン
番号の付与を行いません。
●「接頭語」テキストボックス
ユニークラベルの接頭語を入力します。このテキストボックスは、「採番方法」ラジオボタングループで「算用数字」を選んだときのみ有効です。「採番方法」ラジオボタングループで「算用数字」を選択すると、「接頭語」テキストボックスで指定した接頭語に、算用数字の連番を付けて、ユニークラベルを生成します。
●「ユニークラベル」テキストボックス
ユニークラベルを表示または入力します。「採番方法」ラジオボタングループで「算用数字」または「日付と時刻」を選択したときは、自動的に生成されたユニークラベルが「ユニークラベル」テキストボックスに表示されます。「採番方法」ラジオボタング

ループで「直接入力」を選択したときは、「ユニークラベル」テキストボックスが編集可能になり、所望するユニークラベルを入力することができます。

- 「割り当て」ボタン
  現在の単位機能にユニークラベルを割り当てます。「採番方法」ラジオボタングループで「算用数字」「日付と時刻」「直接入力」のいずれかを選択しているときは、「ユニークラベル」テキストボックスに表示されている文字列を、現在の単位機能のユニークラベルにします。「採番方法」ラジオボタングループで「割り当てない」を選択しているときは、現在の単位機能のユニークラベルを削除します。
- 「この方法で新しい単位機能にユニークラベルを割り当てる」チェックボックス
  このチェックボックスを ON にした状態で OK ボタンを押すと、それ以降に新しい単位機能が作成されたとき、「採番方法」ラジオボタングループと「接頭語」テキストボックスで指定された方法で、新しい単位機能にユニークラベルを割り当てます。なお、「採番方法」ラジオボタングループで「割り当てない」を選択すると、新しい単位機能にユニークラベルを割り当てないようになります。
- 「廃止されたユニークラベル一覧」リストボックス
  廃止されたユニークラベルの一覧を表示します。
- 「廃止されたユニークラベル一覧」テキストボックス
  「追加」ボタンを押したとき、このテキストボックスに入力されている文字列を「廃止されたユニークラベル」リストボックスに追加します。
- 「追加」ボタン
  「廃止されたユニークラベル」テキストボックスに入力されている文字列を「廃止されたユニークラベル」リストボックスに追加します。
- 「削除」ボタン
  「廃止されたユニークラベル」リストボックスの選択されている項目を削除します。
- 「OK」ボタン
  設定処理を終了して、ダイアログボックスを閉じます。
- 「キャンセル」ボタン
  設定処理をキャンセルして、ダイアログボックスを閉じます。

１６．　サポート

以下の宛先まで、E-mail でご相談下さい。

その際、ご使用のパソコンのメーカー及び型番、Windows のバージョン、搭載メモリ量、ハードディスクの空き容量、グラフィックカード（グラフィックボード）の型番（名称等）も併せてご連絡下さい。

E-mail: slp-support@jfp.co.jp
株式会社ジェーエフピー　SLP サポート係　宛